

平成29年度
暫定版

平塚市子ども・子育て支援事業計画
点検・評価

事業評価シート まとめ

～第4章部分～

留意事項

1 事業評価 総括表

○点数

評価がAの事業を5点、評価がBの事業を3点、評価がCの事業を1点とし、施策ごとの平均点を記載しています。評価なしは算定から除いています。

○評価

各事業の検証結果を記載しています。

A・・・成果があがった（事業の成果が期待どおり又はそれ以上だった）

B・・・おおむね成果があがった（事業の成果が期待を若干下回ったものの概ね満足できる）

C・・・十分に成果をあげることができなかった（事業の成果が期待を下回り、満足できない）

○今後の事業展開

①・・・現状の規模で継続

②・・・拡大して継続

③・・・縮小して継続

④・・・廃止

⑤・・・休止

⑥・・・終了

⑦・・・他事業と統合

⑧・・・その他

○評価状況（1 2 1 事業）

A 89事業、B 26事業、C 2事業、評価なし 4事業

2 事業評価シート

○今後の事業展開とその判断理由

今後の事業展開は上記1のとおりとしています。

原則「①現状の規模で継続」以外は、判断理由を記載しています。

事業評価 総括表

平成29年度 暫定版

基本目標	施策	点数	番号	事業	評価	今後の事業展開	ページ	
1 ありがとう！ 自分のいのち みんなのいのち	(1) 子どもの権利の確保	4.3	1	人権擁護意識の普及・啓発事業	B	①	1	
			2	子どものための相談機能の充実	A	①	2	
			3	保護を必要とする子どもへの対策	A	①	3	
	(2) 児童虐待の防止	5	1	児童虐待防止ネットワークの充実	A	①	4	
			2	養育支援訪問事業	A	①	5	
	(3) 育ちの環境の整備	4.8	1	異年齢児交流事業	A	①	6	
			2	世代間交流事業	A	①	7	
			3	自然体験等活動	A	①	8	
			4	夏休みこども環境教室事業	A	①	9	
			5	水辺の楽校プロジェクト推進事業	B	①	10	
			6	児童・生徒地域参加事業の推進	A	①	11	
			7	自然観察等事業	A	①	12	
			8	プラネタリウム投影事業	A	①	13	
	(4) 家庭や地域の教育力の向上	4.8	1	育児講座	A	①	15	
			2	家庭教育支援の充実	B	③	16	
			3	学習の場の充実	A	①	17	
			4	子育て支援地域派遣事業	A	①	18	
			5	地域福祉推進事業	A	②	19	
			6	保育所のボランティアの受入れ	A	①	20	
			7	非行防止活動の推進	A	①	21	
			8	こころと命のサポート事業	A	①	22	
	2 たのしく！ 子育てを	(1) 様々な子育て支援サービス	3.8	1	一時預かり事業	A	①	23
				2	ファミリー・サポート事業	B	①	24
				3	ショートステイ事業 (未実施)	—	①	25
				4	特別保育拡充事業	A	①	26
				5	私立幼稚園の預かり保育の推進	A	①	27
				6	病後児保育	B	②	28
				7	学童保育の充実・推進	A	①	29
8				放課後等子どもの居場所づくり推進事業	B	②	30	
9				放課後子ども総合プランの推進	B	②	31	
10				民間保育所施設整備支援事業	A	①	32	
11				公立保育所施設整備事業	A	①	33	
12				私設保育施設等交流事業 (廃止)	—	④	34	
13				私設保育施設への支援	B	①	35	
14				幼保一元化のモデルケース事業 (終了)	—	⑥	36	
15				公立園の在り方の検討	A	①	37	
(2) 親・子の交流の場づくり		4.4	1	子育て支援センター事業	A	①	38	
			2	つどいの広場事業	A	②	39	
			3	開放保育事業	A	①	40	
			4	赤ちゃん広場事業 (参加者の減少)	C	①	41	
			5	親子ふれあい体験事業	A	①	42	
			6	ブックスタート事業	A	①	43	
			7	活動場所の確保	A	①	44	
(3) 情報提供・相談体制の充実		4	1	情報提供の推進	A	①	45	
			2	子育て支援総合コーディネート事業	B	①	46	
			3	幼稚園・保育所の育児相談	A	①	47	
			4	女性のための相談事業	B	①	48	
(4) 男女共同参画の推進		5	1	男女共同参画意識改革事業	A	①	49	
(5) 職場環境の改善		3.7	1	労働セミナー事業	B	①	50	
	2		就労支援制度の普及啓発	A	①	51		
	3		就労環境の向上に向けた普及・啓発	B	①	52		
(6) 母子・父子家庭の自立支援	5	1	母子・父子相談の充実	A	①	53		
		2	母子・父子自立支援事業	A	①	54		
		3	母子生活支援施設の充実 (廃止)	—	④	55		
(7) 経済的支援の充実	5	1	小児医療費の助成	A	①	56		
		2	ひとり親家庭等医療費助成事業	A	①	57		
		3	保育所保育料の軽減	A	①	58		
		4	幼稚園就園奨励事業	A	①	59		
		5	児童生徒就学援助事業	A	①	60		

事業評価 総括表

平成29年度 暫定版

基本目標	施策	点数	番号	事業	評価	今後の事業展開	ページ	
3 のびのび！学んで	(1) 学校(園)教育の充実	4.8	1	幼児教育指導法の工夫・改善	A	①	61	
			2	幼・保・小・中連携の推進事業	A	①	62	
			3	幼児教育の支援	A	①	63	
			4	生きる力を育む学校づくり推進事業	A	①	64	
			5	外国人英語指導者の学校訪問事業	A	①	65	
			6	人権教育の推進	A	①	66	
			7	日本語指導協力者派遣事業	A	①	67	
			8	サポートチームシステム推進事業	A	①	68	
			9	中学校部活動指導者派遣事業	A	①	69	
			10	学校支援ボランティアの活用	A	①	70	
						11	教材・教具等の充実	B
	(2) 相談活動の推進	5	1	教育相談体制の充実事業	A	②	72	
			2	スクールカウンセラー派遣事業	A	②	73	
4 ほっと！安心のまちを	(1) 道路交通安全の向上	5	1	交通安全啓発推進事業	A	①	74	
			2	歩道設置事業	A	①	75	
			3	通学路合同点検事業	A	①	76	
	(2) 防犯の強化	4.6	1	地域安全運動の推進	A	①	77	
			2	地域安全施設整備事業	A	①	78	
			3	学校(園)の安全対策事業	A	①	79	
			4	通学路安全対策事業	A	①	80	
			5	子どもの安全対策の推進	B	①	81	
	(3) あそびの場づくり	4	1	安全対策の推進	A	①	82	
			2	公園整備事業	B	①	83	
	(4) まちのバリアフリー化	5	1	歩道のバリアフリー化事業	A	①	84	
			2	ノンステップバス推進事業	A	①	85	
	(5) 有害環境の改善	4	1	環境実態調査	A	①	86	
			2	違反屋外広告物除去事業	B	①	87	
	5 すこやかに！育って(平塚市母子保健計画)	(1) 切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策 基盤課題A	3.8	①1	妊婦健康診査	B	①	88
				①2	妊産婦の相談の充実	A	①	89
				①3	妊産婦への教育の充実	B	①	90
②1				乳幼児健康診査	B	①	91	
②2				乳幼児期の相談の充実	B	①	92	
②3				訪問事業	B	①	93	
②4				学習の場の提供	B	①	94	
②5				感染症対策の推進	A	①	95	
②6				5歳児健康診査	A	①	96	
②7				保育所における食育の推進	A	①	97	
(2) 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策 基盤課題B		4.7	①1	教育の充実1	A	①	98	
			①2	教育の充実2	A	①	99	
			①3	学校保健の充実	A	①	100	
			①4	スクールカウンセラー派遣事業(再掲)	A	②	101	
			②1	思春期の教育の充実	B	①	102	
			②2	こころと命のサポート事業(再掲)	A	①	103	
(3) 子どもが健やかに育つための地域づくり 基盤課題C		4	1	一時預かり事業(再掲)	A	①	104	
			2	ファミリー・サポート事業(再掲)	B	①	105	
			3	子育て支援センター事業(再掲)	A	①	106	
			4	つどいの広場事業(再掲)	A	②	107	
			5	開放保育事業(再掲)	A	①	108	
			6	赤ちゃん広場事業(再掲)(参加者の減少)	C	①	109	
(4) 育てにくさを感じる親への支援 重点課題①		4.6	①1	育てにくさを感じる親に寄り添う支援	B	①	110	
			①2	子育て講座	B	①	111	
			①3	ペアレントトレーニング	A	①	112	
			②1	こども発達支援室の療育相談	A	①	113	
			③1	地域療育システム事業	A	②	114	
	③2		福祉サービス費の支給	A	①	115		
	③3		障がい児保育	A	①	116		
	③4		統合保育	A	①	117		
(5) 児童虐待の防止対策 重点課題②	5	③5	体験・交流保育事業	A	③	118		
		③6	支援教育等の推進・充実事業	A	①	119		
		①1	ハイリスク者への支援の充実	A	①	120		
		②1	児童虐待防止ネットワークの充実(再掲)	A	①	121		

1 (1) 1	人権擁護意識の普及・啓発事業	担当課	人権・男女共同参画課 教育総務課 教育指導課
---------	----------------	-----	------------------------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
「児童の権利に関する条約」や人権について、パンフレット、広報ひらつか等を通して、権利主体としての子どもについて市民の理解促進に努めます。	子どもの権利の尊重について、より市民の理解促進や意識啓発を行うことができるように周知方法等を工夫し、取組みを推進します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権相談を実施（23回開催） 相談員：人権擁護委員 原則毎月第1、第3火曜日市庁舎本館会議室 ・参加型人権啓発事業を実施 ららぽーと湘南平塚 参加者に人権に関するメッセージを記入してもらい、啓発物品を配布 7月29日（土）参加者297人、啓発物品1,009個（クリアファイル140枚、人権ポケットブック「性的少数者と人権」140部、人権啓発用チラシ2種類各140部、人権リーフレット「育んでいますか？」140部、人権標語タオル74枚、人KENまもる君キーホルダー100個、人KENあゆみちゃんキーホルダー135個） 11月25日（土）参加者246人 啓発物品1,259個（クリアファイル147枚、人権ポケットブック「性的少数者と人権」147部、人権啓発用チラシ4種類各147枚、人権リーフレット「育んでいますか？」147部、人権標語タオル16枚、人KENまもる君キーホルダー97個、人KENあゆみちゃんキーホルダー117個） ・人権キャンペーンを実施（平塚駅周辺にて人権週間に伴う街頭キャンペーンにて啓発物品を配布） 12月15日（金）啓発物品2,475個（ウェットティッシュ825個、手袋50個、人権標語タオル600枚、マスク175枚、人権啓発用チラシ825枚） ・人権メッセージ展を開催（市内中学校から集まった人権メッセージを展示） 11月27日（月）～12月8日（金） ・LGBTパネル展を実施（実際のLGBTの方の声を展示） 4月17日（月）～28日（金）、8月28日（月）～9月8日（金）、平成30年2月2日（金）～16日（金） 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	参加型の人権啓発事業の参加者が昨年度に比べて人数が減少してしまった。開催方法を再考し、参加者が増えるように工夫する必要がある。
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・人権相談を実施（20回開催） 相談員：人権擁護委員 原則毎月第1、第3火曜日市役所本館会議室 ・参加型人権啓発事業を実施 9月25日（日）ひらつか市民活動センターまつり 参加者に人権に関するメッセージを記入してもらい、啓発物品を配布 参加者218人 啓発物品3,068個（クリアファイル700枚、人権ポケットブック「性的少数者と人権」700部、人権啓発用チラシ2種類各700部、人権標語タオル218枚、法務局作成人権ボールペン50本） 2月5日（日）ららぽーと湘南平塚 参加者に人権に関するメッセージを記入してもらい、啓発物品を配布 参加者455人 啓発物品2,277個（クリアファイル455枚、人権ポケットブック「性的少数者と人権」455部、人権啓発用チラシ2種類各455枚、人権標語タオル138枚、人KENまもる君キーホルダー133個、人KENあゆみちゃんキーホルダー186個） ・人権キャンペーンを実施（平塚駅周辺にて人権週間に伴う街頭キャンペーンにて啓発物品を配布） 12月15日（木）啓発物品1,360個（ウェットティッシュ804個、手袋59個、人権標語タオル497枚） ・人権メッセージ展を開催（市内11中学校から集まった人権メッセージを展示） 12月1日（木）～12月13日（火） ・LGBTパネル展を実施（実際のLGBTの方の声を展示）平成29年2月1日（水）～2月16日（木） 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	今年度から参加型の人権啓発事業に変更したため、前年度の事業に比べると参加者は多くなかったが、啓発内容は充実できたので、次回以降は参加者が増えるように工夫する必要がある。
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 パネル展については、回数を増やす予定。	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・人権相談会を実施（18回開催） 相談員：人権擁護委員 原則毎月第1、第3火曜日市役所本館会議室 ・人権キャンペーンを実施 9月27日（日）市民活動センターまつりにて啓発物品を配布 啓発物品450組（クリアファイル、人権ポケットブック「セクシュアル・ハラスメント」、人権啓発用チラシ2種類） 11月1日（日）平塚商業まつり会場にて、啓発物品を配布 啓発物品6,216個（人権標語タオル1572枚、人権ポケットブック「セクシュアル・ハラスメント」1500部、講座周知チラシ1572部、人権相談周知チラシ1572部） 12月1日（火）平塚駅周辺にて人権週間に伴う街頭キャンペーン 啓発物品を配布 啓発物品1,514個（ウェットティッシュ796個、手袋166個、カイロ276個、ポケットティッシュ276個） ・人権メッセージ展の開催（市内11中学校から集まった人権メッセージを展示） 会期：11月30日（月）～12月4日（金） 場所：市役所本館1階多目的スペース ・人権メッセージ展作品の審査を実施（校内での事前審査を経て、11中学校から寄せられた151作品の審査を行い、30作品を選出した。） 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	今後は参加型の人権啓発事業を展開し、市民に人権についてより身近に感じていただけるようにする必要があります。
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	

備考（その他）	
---------	--

1 (1) 2	子どものための相談機能の充実	担当課	青少年課
---------	----------------	-----	------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
子ども自身や保護者が相談できる電話・来室相談や学校における相談の機会等、子どものための相談体制を充実します。	子ども自身や保護者の悩みを早期に解決するために相談機能の充実を図ります。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数 青少年相談 (月～土) 305件 ヤングテレホン相談 (月～土) 195件 ヤングテレホンメール相談30件 相談室の啓発チラシを6月、11月、1月に、市内小・中・高校・中等教育学校、大磯高校、二宮高校の全児童・生徒及び教職員宛てと、各公民館・図書館に配布した。(合計年3回、各32,000部) 相談室の啓発カードを4月に、上記の学校や施設への配布と併せて、近隣の鶴嶺高校、茅ヶ崎高校、西浜高校、寒川高校、秦野高校、秦野曾屋高校、秦野総合高校へ保健室配布分として20部送付した。 平成28年度から開始したNPO法人との市民提案型協働事業「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」を6月・9月・11月・1月の4回、青少年相談室と市民センターの会議室を会場に開催。 		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td>現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要がある。</td> </tr> </table>	今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要がある。
今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要がある。		
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティーネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティーネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティーネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。		
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数 青少年相談 (月～土) 401件 ヤングテレホン相談 (月～土) 372件 ヤングテレホンメール相談43件 相談室の啓発チラシを6月、11月、1月に、市内小・中・高校・中等教育学校、大磯高校、二宮高校の全児童・生徒及び教職員宛てと、各公民館・図書館に配布した。(合計年3回、各32,000部) 平成28年度からNPO法人との市民提案型協働事業「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」を開始し、6月・11月の2回、青少年相談室を会場に開催。 		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td>現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要がある。</td> </tr> </table>	今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要がある。
今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要がある。		
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティーネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティーネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティーネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。		
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数 青少年相談 (月～土) 462件 ヤングテレホン相談 (月～土) 453件 ヤングテレホンメール相談82件 相談室の啓発チラシを6月、12月、2月に、啓発カードを10月に、市内小・中・高校・中等教育学校、大磯高校、二宮高校の全児童・生徒及び教職員宛てと、各公民館・図書館に配布した。(合計年4回、各32,000部) 公民館便りへの青少年相談室の広報記事の掲載を依頼。 		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td>現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要がある。</td> </tr> </table>	今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要がある。
今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実する必要がある。		
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティーネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティーネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティーネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。		

備考 (その他)

1 (1) 3	保護を必要とする子どもへの対策	担当課	こども家庭課
---------	-----------------	-----	--------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
<ul style="list-style-type: none"> ・こども総合相談担当と県児童相談所との連携を密にし、保護を必要とする子どもへの早期対応を図ります。 ・里親制度の啓発・普及に努めます。 	引続き事業を継続します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会の調整機関となり、関係機関との連携を密にし保護を必要とする子どもへの対策の充実を図った。 ・里親制度紹介講座及び里親相談（平塚児童相談所主催）について、広報ひらつかへの掲載、関係機関へのチラシの配布などを行い、里親制度の啓発・普及に努めた。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会の調整機関となり、関係機関との連携を密にし保護を必要とする子どもへの対策の充実を図った。 ・里親制度紹介講座及び里親相談（平塚児童相談所主催）について、広報ひらつかへの掲載、関係機関へのチラシの配布などを行い、里親制度の啓発・普及に努めた。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会の調整機関となり、関係機関との連携を密にし保護を必要とする子どもへの対策の充実を図った。 ・里親制度紹介講座及び里親相談（平塚児童相談所主催）について、広報ひらつかへの掲載、関係機関へのチラシの配布などを行い、里親制度の啓発・普及に努めた。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

1 (2) 1	児童虐待防止ネットワークの充実	担当課	こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>児童虐待は、こども総合相談担当を中心に相談を受け、児童の処遇対応をしていますが、必要に応じて援助活動チームを編成し、関係機関と連携を取り対応します。</p>		<p>平塚市児童虐待防止等ネットワークの構成機関と連携し、子育ての支援、虐待等の早期発見や未然防止及び対策を進めます。 また、定期的の実務者会議を開催するとともに、個別ケース検討会議を随時開催します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議3回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議2回、個別ケース検討会議55回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議85回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議61回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

1 (2) 2	養育支援訪問事業	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>保護者の疾病等の理由により、児童を養育することに支障が生じた家庭に対して、安定した児童の養育が可能となるように訪問による支援を実施します。</p>		<p>適切な時期に支援が導入できるように関係機関と連携を図り、実施します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<p>件数：4件 実施内容： ①訪問24回 (保健師訪問13回) ②電話相談32回 (保健師電話21回) ③家事援助 (ヘルパー)：27回 計33時間 ④所内面接、同行受診等：12回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>件数：4件 実施内容： ①訪問23回 (保健師訪問16回) ②電話相談32回 (保健師電話21回) ③家事援助 (ヘルパー)：25回 計39.5時間 ④所内面接、同行受診等：26回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>件数：6件 実施内容： ①訪問53回 (保健師訪問43回) ②電話相談124回 (保健師電話93回) ③家事援助 (ヘルパー)：56回 計76.3時間 ④所内面接、同行受診等：13回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (3) 1	異年齢児交流事業	担当課	保育課 教育指導課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
園の行事や地域の行事等を通して、幼稚園や保育所の園児と地域の児童や小学生との交流を図り、幼児及び児童の社会性を養います。〔対象：就学前児童及び小学生〕		園の行事や地域の行事を通して、地域の児童や小学生と交流します。また、乳幼児が小学校を訪問したり、園に小学生を招待して一緒に活動する等の交流を図ります。	
各年度における主な取組み等			
平成 29 年度 （暫定版）	<p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設と小学校の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、園児と小学生の交流を図った。 実施園：41園 ・ 中高生の職業体験や保育ボランティア等の受け入れを積極的に実施した。 実施園：41園 <p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園児と小中学校生との相互訪問、並びに、園行事や地域の行事等様々な活動を通し交流を図った。 実施園：4園 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 28 年度	<p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設と小学校の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、園児と小学生の交流を図った。 実施園：41園 ・ 中高生の職業体験や保育ボランティア等の受け入れを積極的に実施した。 実施園：41園 <p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園児と小中学校生との相互訪問、並びに、園行事や地域の行事等様々な活動を通し交流を図った。 実施園：5園 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設と小学校の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、園児と小学生の交流を図った。 実施園：38園 ・ 中高生の職業体験や保育ボランティア等の受け入れを積極的に実施した。 実施園：38園 ・ 幼稚園の幼児が小中学校を訪問したり、小中学生が幼稚園を訪問したりするなど、園行事や地域の行事等様々な活動を通し、交流を図った。 実施園：5園 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

1 (3) 2	世代間交流事業	担当課	保育課 教育指導課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
高齢者施設の訪問や地域の高齢者を幼稚園や保育所へ招待し、園児や地域の子どもとともに世代間のふれあい活動を行います。〔対象：就学前児童及び高齢者〕		定期的な高齢者施設の訪問や、保育所・幼稚園に園児の祖父母や地域の高齢者を招待し、世代間のふれあい活動を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成 29 年度 （暫定版）	<p>保育課 ・保育施設と高齢者施設の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、世代間の交流を図った。 実施園：41園</p> <p>教育指導課 ・幼稚園の幼児の祖父母や地域の高齢者を幼稚園へ招待し、ふれあい活動（祖父母の集い、地域の高齢者との交流）を行った。 実施園：4園</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 28 年度	<p>保育課 ・保育施設と高齢者施設の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、世代間の交流を図った。 実施園：41園</p> <p>教育指導課 ・幼稚園の幼児の祖父母や地域の高齢者を幼稚園へ招待し、ふれあい活動（祖父母の集い、地域の高齢者との交流）を行った。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 27 年度	<p>・保育施設と高齢者施設の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、世代間の交流を図った。 実施園：38園</p> <p>・幼稚園の幼児の祖父母や地域の高齢者を幼稚園へ招待し、ふれあい活動（祖父母の集い、地域の高齢者との交流）を行った。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

1 (3) 3	自然体験等活動	担当課	保育課 教育指導課 青少年課
---------	---------	-----	----------------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所、幼稚園の園児や地域の子どもの「生きる力」を培い、また社会性の育成を図るため、自然体験や社会体験活動を行います。〔対象：就学前児童〕 ・ 自然とふれあう体験活動の機会の充実を図ります。〔対象：小学生等〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の自然を活用した自然体験活動や園外保育等において、園では味わえない自然体験や社会体験活動を実施します。 ・ 概ね月1回程度、自然のものを生かしたクラフトや野外炊事、作物の植付収穫等の体験を実施します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	保育課 ・ 湘南海岸や湘南平、相模川や花水川、里山など、地域の自然を活用した自然体験活動、季節の野菜や花の栽培を通した自然とのふれあい体験活動等を実施した。 実施園：41園 ・ ミニミニ運動会や地域の子育て活動の場において、自然物を利用した工作を実施した。 教育指導課 ・ 幼稚園各園の地域性を生かした植物・作物の栽培・収穫活動等の自然体験活動を行った。また、園外保育等の社会体験活動を行った。 実施園：4園 青少年課 ・ びわ青少年の家自主事業 「びわっ子クラブ」 年9回開催（参加者 延べ428人※平成30年2月1日現在。第9回は2月17日実施予定。 ボランティアスタッフ含む） ※5月「森の新緑祭」、10月「森の収穫祭」、12月「森の歳末祭」を含む。この3回に関しては、会員家族と会員以外の一般家族も募集した。 ※8月は、「びわっ子サマーキャンプ（1泊2日）」でテント泊を体験した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	保育課 ・ 湘南海岸や湘南平、相模川や花水川、里山など、地域の自然を活用した自然体験活動、季節の野菜や花の栽培を通した自然とのふれあい体験活動等を実施した。 実施園：41園 ・ ミニミニ運動会や地域の子育て活動の場において、自然物を利用した工作を実施した。 教育指導課 ・ 幼稚園各園の地域性を生かした植物・作物の栽培・収穫活動等の自然体験活動を行った。また、園外保育等の社会体験活動を行った。 実施園：5園 青少年課 ・ びわ青少年の家自主事業 「びわっ子クラブ」 年9回開催（参加者 延べ553人 ボランティアスタッフ含む） ※5月「森の新緑祭」、10月「森の収穫祭」、12月「森の歳末祭」を含む。この3回に関しては、会員家族と会員以外の一般家族も募集した。 ※8月は、「びわっ子サマーキャンプ（1泊2日）」でテント泊を体験した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	・ 湘南海岸や湘南平、相模川や花水川、里山など、地域の自然を活用した自然体験活動、季節の野菜や花の栽培を通した自然とのふれあい体験活動等を実施した。 実施園：38園 ・ ミニミニ運動会や地域の子育て活動の場において、自然物を利用した工作を実施した。 ・ 幼稚園各園の地域性を生かした植物・作物の栽培・収穫活動等の自然体験活動を行った。また、園外保育等の社会体験活動を行った。 実施園：5園 ・ びわ青少年の家自主事業 「びわっ子クラブ」 年9回開催（参加者 延べ561人 ボランティアスタッフ含む） ※5月「森の新緑祭」、10月「森の収穫祭」、12月「森の歳末祭」を含む。この3回に関しては、会員家族と会員以外の一般家族も募集した。 ※8月は、「びわっ子サマーキャンプ」としてテント泊を体験した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

1 (3) 4	夏休みこども環境教室事業	担当課	環境政策課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>環境の保全や創造の重要性に気づき、考え、それぞれの立場に応じて自発的、積極的に行動できる人材の育成を目指すため、里山で自然にふれる体験をしたり、普段見ることのない沖合を、遊漁船に乗って観察する等します。</p>		<p>昆虫探しや小川遊び、自然を生かした遊具体験等を通じて里山の自然とふれあう体験学習と、ビーチコーミング (浜辺の漂着物観察) やビーチクリーン、漁船からの相模湾の観察を行い、海辺の環境を考える体験学習を夏休み期間中にそれぞれ1回ずつ実施することで、次世代を担う子どもたちの環境への関心を高めるように促します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<p>夏休みこども環境教室を実施。 【里山編】 実施日時：平成29年8月5日 (土) 9時00分から12時00分 実施場所：平塚市土屋里山体験フィールド 参加人数：91人 (子ども50人、保護者41人) 実施内容：昆虫探し、里山遊び、工作教室 (竹細工) 【海岸編】 実施日時：平成29年8月19日 (土) 9時15分から12時00分 実施場所：南部福祉会館 参加人数：11人 実施内容：相模湾の動植物についての講義、海浜植物等の観察、流木・貝殻・シーグラスを使用した工作</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>夏休みこども環境教室を実施。 【里山編】 実施日時：平成28年8月6日 (土) 午前9時00分から午後12時00分 実施場所：平塚市土屋里山体験フィールド 参加人数：66人 (子ども44人、保護者22人) 実施内容：午前/昆虫採集と観察、里山遊び、工作教室 (竹細工) 【海岸編】 ※台風により中止 実施日時：平成28年8月17日 (水) 9時45分から11時30分 実施場所：南部福祉会館、袖ヶ浜海岸 参加人数：23人 (予定) 実施内容：平塚市の海岸に生息する生物の講義、海浜植物の観察会</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	平成28年度より海でのイベントは【海岸編】として、海辺の自然観察や海岸美化等に主眼を置くこととしたが、いかにして参加者の関心を引くテーマを設定するのが課題である。	
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 海をテーマにした教室について、遊漁船に乗っての観察を廃止し、海辺での自然観察等を通じた環境教室を実施する。	
平成27年度	<p>夏休みこども環境教室を実施。 【里山編】 実施日時：平成27年8月1日 (土) 午前10時00分から午後2時30分 実施場所：平塚市土屋里山体験フィールド 参加人数：94人 (子ども53人、保護者41人) 実施内容：午前/昆虫探し、カボチャ探し 午後/里山遊び、工作教室 (竹細工) 【海編】 実施日時：平成27年8月6日 (木) 8時30分から12時00分 実施場所：平塚新港 (相模湾) および西側の浜辺 参加人数：31人 (子ども18人、保護者13人) 実施内容：海についての講話/遊漁船からの相模湾観察/ビーチコーミング・ビーチクリーン</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	平成28年度は、【海編】について、遊漁船からの相模湾観察に関わる費用対効果が低くなっているため、見直しを行う。実施内容の変更に伴い、参加者数の減少が予想されるため、参加者の確保に努める。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (3) 5	水辺の楽校プロジェクト推進事業	担当課	みどり公園・水辺課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>子どもたちが、積極的に自然にふれあいながら「あそび」「学び」「冒険心」「創造性」を育み、自然と接する「作法」や「感性」を養う場として活用します。</p>		<p>市民や子どもたちのあそびや自然体験の場として積極的に活用できるようにするために水辺の楽校の維持管理を行うとともに、活動団体が、イベント等を実施する際に、広報活動等の支援を行います。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然探偵団活動の開催21回 (参加者439人) ※雨でイベント4回中止になった。 ・公募イベント開催9回 (参加者256人) 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	<p>これまで市民団体である「馬入水辺の楽校の会」が催しの企画から実施まで行っていたが、「馬入水辺の楽校運営協議会」を組織し、水辺の楽校の運営について協議をした上で、実際の催しの実施については、他団体(NPO法人暮らし・つながる森里川海)へ委託することになった。今後、これまで以上に活動が活発化されることを期待したい。</p>	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアップ活動の開催10回 (参加者298人) ・公募イベント開催13回 (参加者369人) 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	<p>市民団体が運営しているが、担い手が固定化・高齢化しており、若い後継者の育成の課題は解消されていないが、活動をより拡充させていくために、水辺の楽校の運営を他団体に委託する等を検討しており、これまで以上に活動が活発化されることが期待される。</p>	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアップ活動の開催10回 (参加者140人) ・イベント開催4回 ・トンボ調査開催8回 ・NHK BSプレミアム「発見！体感！川紀行！」に取り上げられ、紹介された。 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	<p>市民団体が運営しているが、担い手が固定化・高齢化しており、若い後継者の育成が課題。また、活動が年々拡充されているが、現状の運営態勢では対応が困難になってきており、今後の水辺の楽校の会との関わり方を、整理、検討する必要がある。</p>	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (3) 6	児童・生徒地域参加事業の推進	担当課	中央公民館
---------	----------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
地域における異年齢児との交流活動、野外、体育レクリエーション活動、文化活動等の事業を推進します。	地域団体と協力し、児童・生徒が様々な体験をできる場を提供します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<p>・体育レクリエーション、ニューイヤークンサート、地域密着型の職業体験、防災キャンプ、地域のイベント（盆踊り）など、様々な内容の体験学習を通じ、異年齢児の交流や地域の大人とふれあう機会を創出した。地域各種団体から構成される実行委員会形式の事業など、地域団体と協力して行うことができた。</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	公民館事業と地域や学校行事が重なる場合があるため、事前に地域や学校行事の予定を把握するとともに、公民館の事業予定について早期に周知を行う。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<p>・体育レクリエーション、芸術、地域密着型の職業体験、キャンプ、地域のイベント（盆踊り）など、様々な内容の体験学習を通じ、異年齢児の交流や地域の大人とふれあう機会を創出した。地域各種団体から構成される実行委員会形式の事業や子どもとの共催事業など、地域団体と協力して行うことができた。 計92事業 参加者 延べ8,968人</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	公民館事業と地域や学校行事が重なる場合があるため、事前に地域や学校行事の予定を把握するとともに、公民館の事業予定について早期に周知を行う。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<p>・スポーツ、芸術、職業体験、キャンプ、地域のイベント（盆踊り）など、様々な内容の体験学習を通じ、異年齢児の交流や地域の大人とふれあう機会を創出した。 計91事業 参加者 延べ8,655人</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	公民館事業と地域や学校行事が重なる場合があるため、事前に公民館運営委員会等で地域や学校行事の予定を把握するとともに、公民館の事業予定について早期に周知を行う。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

--

1 (3) 7	自然観察等事業	担当課	博物館
---------	---------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
児童・生徒が身近な自然に親しみ理解する機会となるように、生物分野では「自然教室」、地質分野では「自然観察入門講座」、天文分野では「星を見る会」をそれぞれ実施します。	アンケート等を活用して保護者や参加者の意見を取入れ、子どもの興味関心を惹きつけられるような事業展開を行います。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	生物分野で「野鳥観察会」「みんなで調べよう セミのぬけがら調べ」を実施した。地質分野では「自然観察入門講座」に加え、「おいしく学ぶキッチン火山実験」「小さくても偉大なプチ化石実物図鑑づくり」を実施した。天文分野で「星を見る会」を実施した。 ・野鳥観察会 1回実施 10人 (うち子ども3人) ・自然観察入門講座「貝化石を調べよう」 1回実施 37人 (うち子ども28人) ・おいしく学ぶキッチン火山実験 1回実施 77人 (うち子ども43人) ・小さいけど偉大なプチ化石実物図鑑づくり 1回実施 111人 (うち子ども75人) ・みんなで調べよう「セミのぬけがら調べ」 3回実施 36人 (うち子ども22人) ・星を見る会 5回実施 248人 (うち子ども91人)	
	検証結果	A: 成果があがった
	今後の課題	自然科学の分野では野外での観察行事は欠かすことのできないものであるが、天候や状況によって開催の可否や内容が大きく左右されるため、開催時の内容に柔軟性が求められる。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	生物分野で「野鳥観察会」「みんなで調べよう セミのぬけがら調べ」を実施した。地質分野では「自然観察入門講座」に加え、「おいしく学ぶキッチン火山実験」「小さくても偉大なプチ化石実物図鑑づくり」を実施した。天文分野で「星を見る会」を実施した。 ・野鳥観察会 雨天中止 ・自然観察入門講座「貝化石を調べよう」 1回実施 49人 (うち子ども28人) ・おいしく学ぶキッチン火山実験 1回実施 71人 (うち子ども40人) ・小さいけど偉大なプチ化石実物図鑑づくり 1回実施 72人 (うち子ども45人) ・みんなで調べよう「セミのぬけがら調べ」 3回実施 98人 (うち子ども64人) ・星を見る会 6回実施 508人 (うち子ども213人)	
	検証結果	A: 成果があがった
	今後の課題	自然や科学に関する行事に対するニーズが増加する一方、博物館の施設・設備や実施スタッフは限界に達している。開催数や参加人数の増加ではなく内容の充実・工夫が求められる。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	生物分野で「野鳥観察会」「みんなで調べよう セミのぬけがら調べ」を実施しました。地質分野では「自然観察入門講座」に加え、「おいしく学ぶキッチン火山実験」「小さくても偉大なプチ化石実物図鑑づくり」を実施しました。天文分野で「星を見る会」を実施しました。 ・野鳥観察会 1回実施 9人 (うち子ども3人) ・自然観察入門講座「貝化石を調べよう」 1回実施 28人 (うち子ども15人) ・おいしく学ぶキッチン火山実験 1回実施 64人 (うち子ども30人) ・小さいけど偉大なプチ化石実物図鑑づくり 1回実施 77人 (うち子ども48人) ・みんなで調べよう「セミのぬけがら調べ」 4回実施 90人 (うち子ども50人) ・星を見る会 5回実施 366人 (うち子ども157人)	
	検証結果	A: 成果があがった
	今後の課題	市民のニーズが多様化し、子どもを意識した事業が増えている中で、的確なテーマ設定と開催スケジュールが求められる。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

1 (3) 8	プラネタリウム投影事業	担当課	博物館
---------	-------------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
<p>児童・生徒が宇宙や天文への関心と理解を深める機会となるように、投影を実施します。投影においては一般投影の他、幼稚園及び小・中学校向けの投影プログラムを準備し団体見学を受入れます。</p>	<p>幼稚園及び小・中学校向け投影については各教員の意見を取入れ、一般向け投影についてはアンケート結果を参考にしながら、プログラムを作成し、投影を行います。</p>

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児団体・学校団体向け投影を実施した。 ・ 幼児向けの投影時間を設定して投影した。 ・ 幼児・学校団体向け投影。 観覧者数4,740人（うち子ども4,171人） ・ 一般・一般団体向け投影。 観覧者数7,370人（うち子ども2,599人） ・ 投影回数 330回 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	天体の研究や投影機器の機能が日々進歩する一方、投影機器やコントロール機材は日々経年劣化するため、順次更新が必要になる。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児団体・学校団体向け投影を実施した。 ・ 幼児向けの投影時間を設定して投影した。 ・ 幼児・学校団体向け投影。 観覧者数5,596人（うち子ども4,900人） ・ 一般・一般団体向け投影。 観覧者数8,631人（うち子ども2,743人） ・ 投影回数 381回 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	天体の研究や投影機器の機能が日々進歩する一方、投影機器やコントロール機材は日々経年劣化するため、順次更新が必要になる。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児団体・学校団体向け投影を実施しました。 ・ 幼児向けの投影時間を設定して投影しました。 ・ 幼児・学校団体向け投影。 観覧者数5,449人（うち子ども4,684人） ・ 一般・一般団体向け投影。 観覧者数8,352人（うち子ども2,910人） ・ 投影回数 394回 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	天体の研究や投影機器の機能が日々進歩する一方、投影機器やコントロール機材は日々経年劣化するため、更新が必要になる。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

1 (3) 9	芸術文化子ども体験事業	担当課	社会教育課
---------	-------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
子どもたちが、長い歴史と伝統の中から生まれ守り伝えられてきた貴重な財産である芸術文化を体験することで、歴史、伝統、芸術文化に対する関心や理解を深め、豊かな人間性を育む機会を提供します。	小・中学校、平塚市文化連盟、地域教育力ネットワーク協議会及び公民館等と連携し、体験事業の実施を充実します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体事業（12月16日開催） 市内小学生3～6年生及び中学生を対象に「生け花」「お茶」「奇術」の体験教室を実施。児童・生徒15人が参加。 ・各地区事業（通年開催） 横内地区：「生け花」「琴」 旭陵地区：「生け花」「人形芝居」 金目地区：「人形芝居」 土沢地区：「生け花」「人形芝居」 神田地区：「生け花」 金旭地区：「奇術」 中原地区：「生け花」「お茶」「人形芝居」 大住地区：「生け花」 ・学校への講師派遣（通年開催） みずほ小学校「琴」、大野小学校「琴」、崇善小学校「琴」 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	事業未実施の地区への働きかけ。また、学校での当事業の認知度が低いので、周知方法を検討する必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 地区単位としては15地区中、8地区の実施になっているため。
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・全体事業（12月3日開催） 市内小学生3～6年生及び中学生を対象に「生け花」「お茶」「人形芝居」の体験教室を実施。児童・生徒15人が参加。 ・各地区事業（通年開催） 横内地区：「生け花」「琴」 旭陵地区：「お茶」「人形芝居」 金目地区：「生け花」「お茶」 土沢地区：「生け花」「人形芝居」 大神地区：「生け花」 ・学校への講師派遣（通年開催） 松原小学校「琴」、大野小学校「琴」 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	より多くの地区の子どもたちが芸術文化活動が体験できるよう、事業未実施の地区や学校に働きかけていく必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 地区単位としては15地区中、5地区のみの実施になっているため。
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・全体事業（12月12日開催） 市内小学生3～6年生を対象に「生け花」「お茶」「人形芝居」の体験教室を実施。児童31人が参加。 ・各地区事業（通年開催） 横内地区：「生け花」「琴」 崇善地区：「生け花」 金旭地区：「人形芝居」 金目地区：「生け花」「お茶」「奇術」 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	事業未実施の地区にどう働きかけていくか。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 地区単位としては15地区中4地区の実施になっているため。

備考（その他）

--

1 (4) 1	育児講座	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>子育て家庭の不安感、負担感が軽減できるように乳幼児の健全な心身の発達、親・家庭の果たす役割及び親と子の関係等について学び、親の育児力の向上を図るため、育児講座を開催します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を開催したり、保護者との懇談会を実施します。 ・民生委員児童委員等の意見を伺い、地域のニーズに合う講座を開催します。 	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<p>保育所等で、親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を実施した。また、保護者との懇談会などを通して、育児不安の解消や育児力の向上に努めた。</p> <p>各種講座：親子ふれあい遊び、簡単クッキング、歯科巡回教室、読み聞かせ、ベビーマッサージなど</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>保育所等で、親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を実施した。また、保護者との懇談会などを通して、育児不安の解消や育児力の向上に努めた。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>保育所等で、親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を実施した。また、保護者との懇談会などを通して、育児不安の解消や育児力の向上に努めた。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (4) 2	家庭教育支援の充実	担当課	中央図書館 中央公民館
---------	-----------	-----	----------------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
中央公民館で家庭教育講演会、各地区公民館で家庭教育学級を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの読書活動を啓発するため、イベント等を開催します。 ・受講者アンケート等を基に、子育て世代の学習ニーズを捉えた講座を実施します。 ・平塚市子ども読書活動推進計画 (第三次) を策定中であり、新たな事業展開を予定しています。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 (暫定版)	中央図書館 ・平塚市子ども読書活動推進フォーラムを中央公民館で実施。 (平成29年8月10日実施 参加者数467人) ・平塚市子ども読書活動推進計画 (第三次) にて、家庭に向けた子ども読書活動を重点取組Ⅰとして、その啓発を進めた。	中央公民館 ・12月14日 (木) 小林 さやか氏 (ピリギヤル本人) を迎え、「「ゼッタイ無理」に挑んだピリギヤルが語る～あきらめない心を持たせる人とかかわり～」をテーマに平塚市PTA連絡協議会と共催で家庭教育講演会を開催した。 参加者延べ566人 ・中央公民館では、ちゅうおうフェスタと同時開催で家庭教育公開講座「子育て応援フェスタ」を開催し、乳幼児の子育て世代を対象に、子どもたちと一緒にコンサートや映画を楽しみながら子育てのコツ聴く機会を創出した。 参加者延べ200人 ・各地区公民館では、子育てを楽しむことをテーマにした講座や、子どもの感染症をテーマにした講座など、子育て世代のニーズに沿った内容で家庭教育学級を実施した。
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	子育て世代が抱える課題や要望が多様化しているため、ニーズを把握し、時代に即した講座を検討する必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 子ども読書活動推進フォーラムについて、より市民のニーズに細やかに応えるために、中央公民館での大規模開催を取りやめ、中央図書館で計3回の参加型啓発事業を開催。
平成 28 年度	中央図書館 ・平塚市子ども読書活動推進フォーラムを中央公民館で実施。 (平成28年7月28日実施 参加者数 440人) ・平塚市子ども読書活動推進計画 (第三次) にて、家庭に向けた子ども読書活動を重点取組Ⅰとして、その啓発を進めた。	中央公民館 ・中央公民館大ホールにて、12月15日 (木) 元横浜高校野球部監督である渡辺元智氏を迎え、「子どもたちの人間力を高めるために」をテーマに平塚市PTA連絡協議会と共催で家庭教育講演会を開催した。 参加者延べ506人 ・各地区公民館では、思春期の子育てを楽しむことをテーマにした講座や、どならない子育てをテーマにした講座など、子育て世代のニーズに沿った内容で家庭教育学級を実施した。 109事業 参加者延べ3,187人
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	平塚市子ども読書活動推進フォーラム実施から10年が経過し、実行委員のなり手や参加者数に減少傾向があります。市民が気軽に参加しやすくなるような実施の方法を検討する必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	・平塚市子ども読書活動推進フォーラムを中央公民館で実施。 (平成27年8月17日実施 参加者数361人) ・中央公民館大ホールにて、12月5日 (土) 14:00～精神科医である名越康文氏を講師に迎え、「思春期の心と親心～今どきの親子のコミュニケーション術～」をテーマに家庭教育講演会を開催した。 参加者延べ272人 ・各地区公民館では、子どもをやる気にさせるためのヒントや、また脳科学教育研究所から講師を招き、脳科学から学ぶ思春期の子育てのポイントの講座など、子育て世代のニーズに沿った内容で家庭教育学級を実施した。 計112事業 参加者延べ3,586人 ・平成27年2月に策定した平塚市子ども読書活動推進計画 (第三次) にて、家庭に向けた子ども読書活動を重点取組Ⅰとして、その啓発を進めた。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	家庭教育講演会では平日夜間は「外出できない」という保護者からの意見を反映し、今年度は土曜日昼間の開催としたが、参加者が減少した。学校行事と重なってしまったこともあり、学校、PTA、子ども会、保育園、幼稚園など、家庭教育に関連のある団体との連携する必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

1 (4) 3	学習の場の充実	担当課	中央公民館
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
男女がともに子育てに取り組むことができるように、男性のための事業等を推進するとともに、仕事を持つ親等も参加しやすい日時の開催に努めます。		公民館事業を通して家族のふれあいが生まれるように親子を対象とした事業を今後も実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区公民館では「親子でB. LEAGUEを見にいこう!」や「相模貨物駅見学～貨物線・貨物駅の役割ってなんだろう?～」等、男性保護者が参加しやすい内容で事業を開催し、男性保護者が子育てへ参加する機会を創出した。また、仕事を持つ親が参加しやすい環境を整備するため、親子を対象とした事業を土・日・祝日に開催した。 ・男性を対象とした料理教室を実施した。 		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	全体的には女性の参加が多いので、男性が参加しやすい事業を企画する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区公民館では「親子バスケットボール教室」や「イースタンリーグを観戦しよう」「船釣り体験」等、男性保護者が参加しやすい内容で事業を開催し、男性保護者が子育てへ参加する機会を創出した。また、仕事を持つ親が参加しやすい環境を整備するため、親子を対象とした事業を土・日・祝日に開催した。 計84事業 参加者延べ5,088人 ・男性を対象とした料理教室を実施した。 計 8事業 参加者延べ160人 		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	全体的には女性の参加が多いので、男性が参加しやすい事業を企画する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区公民館では「夏のナイターイースタンリーグを観戦しよう」や「親子ふれあい工作教室」等、男性保護者が参加しやすい内容で事業を開催し、男性保護者が子育てへ参加する機会を創出した。また、仕事を持つ親が参加しやすい環境を整備するため、親子を対象とした事業を土・日・祝日に開催した。 計80事業 参加者延べ5,650人 ・男性を対象とした料理教室を実施した。 計 6事業 参加者延べ126人 		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	子育て中の男性の参加は少しずつ増加しているが、全体的には女性の参加が多いので、男性が参加しやすい事業内容や環境を整備する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (4) 4	子育て支援地域派遣事業	担当課	保育課 健康課
事業の概要（計画掲載内容） 地域の子育てサークルや子育て支援活動等に保育士や保健師等を派遣し、育児に関する相談・支援を行います		今後の取組み（計画掲載内容） 地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士や保健師等を派遣し、育児情報の提供や育児相談、あそびの紹介等を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	保育課 ・公立保育所において、地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士を積極的に派遣している。 子育てサークル派遣 5回、子育て支援活動 147回 健康課 ・地域の子育てサークルや子育て支援活動に保健師・管理栄養士・歯科衛生士が従事し、育児情報の提供や育児相談などを実施。 1 子育てサークル 派遣回数：保健師 7回 栄養 1回 歯科 1回 2 地区子育て広場 派遣回数：保健師10回 栄養10回 歯科 9回 保育園、幼稚園での育児講座 派遣回数：保健師 1回 栄養 1回 歯科12回 3 子育て支援センター 派遣回数：保健師 1回 栄養 1回 歯科 2回 ・地区の要望に沿って対応している。		
検証結果	A：成果があがった		
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成28年度	保育課 ・公立保育所において、地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士を積極的に派遣している。 子育てサークル派遣 3回、子育て支援活動 147回 健康課 ・地域の子育てサークルや子育て支援活動に保健師・管理栄養士・歯科衛生士が従事し、育児情報の提供や育児相談などを実施。 1 子育てサークル 派遣回数： 栄養 1回 歯科 1回 2 地区子育て広場 派遣回数：保健師18回 栄養11回 歯科10回 保育園、幼稚園での育児講座 派遣回数：保健師 1回 栄養 2回 歯科 3回 3 子育て支援センター 派遣回数：保健師 2回 栄養 2回 歯科 2回 ・地区の要望に沿って対応している。		
検証結果	A：成果があがった		
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成27年度	・公立保育所において、地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士を積極的に派遣している。 子育てサークル派遣 3回、子育て支援活動 150回 ・地域の子育てサークルや子育て支援活動に保健師・管理栄養士・歯科衛生士が従事し、育児情報の提供や育児相談などを実施。 1 子育てサークル 派遣回数： 栄養 1回 歯科 1回 2 地区子育て広場 派遣回数：保健師23回 栄養15回 歯科13回 保育園、幼稚園での育児講座 派遣回数： 栄養 4回 歯科13回 3 子育て支援センター 派遣回数：保健師 1回 栄養 1回 歯科 3回 ・地区の要望に沿って対応している。		
検証結果	A：成果があがった		
今後の課題			
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
備考（その他）			

1 (4) 5	地域福祉推進事業	担当課	福祉総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
地域福祉を推進するため、市民と行政との協働により、地域の子どもから高齢者までがお互いに助け合い、支え合う仕組みとしての町内福祉村の新設及び既設福祉村等の環境整備を支援します。		既存福祉村について活動の支援を行う他、福祉村未設置地区に出向き、本事業の説明やワークショップを実施していく中で、町内福祉村の普及啓発活動を行います。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<p>既存の町内福祉村に対する運営支援については、年4回の福祉村会長会議を開催したほか、諸課題を検討するための部会を5回開催して意見交換と情報提供を行った。町内福祉村未開設地区に対しては開設の意向確認を行い、うち1地区で平成29年度中に町内福祉村の開設に向けた準備が現在進んでいる。</p> <p>町内福祉村のコーディネーター育成のため、県・市・諸団体が主催する研修会への参加を求め、地域力の充実を図った。また、町内福祉村ごとに個別課題の解決に向けた調整を行うなど、活動の充実に努めた。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	町内福祉村の新設やボランティア数の増加などには、地域福祉の推進を地域住民が主体となって進めていく風土の醸成が必要である。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 市内地区公民館区 (25地区) に、町内福祉村の設置を進めている。	
平成28年度	<p>既存の町内福祉村に対する運営支援については、年4回の福祉村会長会議を開催したほか、新たに「会計部会」を設置するなど各部会を4回開催して意見交換と情報提供を行った。また、県・市・諸団体が主催する研修会への参加を求め、福祉村ごとに個別課題の解決に向けた調整を行うなど、福祉村活動の充実にも努めた。</p> <p>福祉村未開設地区に対しては開設の意向確認を行い、うち3地区は設置の可能性が高いため詳細の説明会を開催した。ただし、各地区住民が主体となって設置検討及び課題整理をしている段階であるため、平成28年度中の新設は実現しなかった。</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	既存の福祉村に対する運営支援は十分な成果を得たが、福祉村の新設については地域福祉の推進を地域住民が主体となって進めるための風土を醸成するための働きかけが必要である。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 市内地区公民館区 (25地区) に、町内福祉村の設置を進めている。	
平成27年度	<p>新たに1地区において、町内福祉村を開設 (全16地区) したほか、その他2地区において事業説明、現在1地区の開設に向けた準備を行う。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	町内福祉村活動に子どもから高齢者までより多くの市民参加が望まれる。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 市内地区公民館区25地区に分け設立を進めているが、現在未設置の地区があり、住民主体の観点から行政主導ではない方法で設置箇所数を増やしていく必要がある。	
備考 (その他)			

1 (4) 6	保育所のボランティアの受入れ	担当課	保育課
---------	----------------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
園児とのふれあいを通して、保育の基礎的な知識や技術を習得してもらい、地域への社会奉仕活動への参加を図るため、小・中学生、高校生の保育実習及び地域の保育ボランティアの受入れを行います。	小・中学生・高校生の社会（職業）体験学習や保育実習の場を提供したり、地域のボランティアや絵本の読み聞かせボランティア等の受入れをします。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに高校生の保育実習の受入れ 57人 38園で実施 ・小・中・高生の社会（職業）体験学習や保育実習、地域の高齢者のボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなどの受入れを随時行っている。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに高校生の保育実習の受入れ 68人 38園で実施 ・小・中・高生の社会（職業）体験学習や保育実習、地域の高齢者のボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなどの受入れを随時行っている。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに高校生の保育実習の受入れ 99人 38園で実施 ・小・中・高生の社会（職業）体験学習や保育実習、地域の高齢者のボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなどの受入れを随時行っている。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)	

1 (4) 7	非行防止活動の推進	担当課	青少年課
---------	-----------	-----	------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
<ul style="list-style-type: none"> 心豊かで、規範意識・遵法精神・社会性が向上した青少年を一人でも多く育成するため、社会を明るくする運動を通して、講演会や街頭啓発キャンペーン等を行います。 愛護指導活動、相談活動を行います。 青少年指導員による環境浄化活動を行います。 	<p>青少年の非行を防止するため、学校及び地域と協力し、パトロールを実施します。</p>

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> 月～金曜日まで毎日通常愛護指導を実施 (指導件数727件) 七夕等イベント時や夜間・登校時などの特別愛護指導を実施 (指導件数289件) 中学校区強化愛護指導を実施 (全15校区のうち12校区は各1回、3校区2回実施。指導件数は74件) 社会を明るくする運動を各地区において開催 (23地区で実施、延べ5,209人参加) 社会を明るくする運動街頭啓発キャンペーンを実施 (176人参加) 青少年指導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールの実施 (1回、指導件数7件) 神奈川県平塚警察署少年補導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールを実施 (1回、指導件数2件) 	
	検証結果	A: 成果があがった
	今後の課題	指導件数は、近年減少傾向にあるが、市内のたまり場の移動など青少年の問題行動等が年々変化しているため、学校・地域関係団体と常に情報を共有しつつ、協力して取り組む必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 青少年の非行・問題行動等を防止するためには、学校・地域関係団体との現在の協力体制を維持しつつ、継続的に取り組む必要がある。
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 月～金曜日まで毎日通常愛護指導を実施 (指導件数723件) 七夕等イベント時や夜間・登校時などの特別愛護指導を実施 (指導件数542件) 中学校区強化愛護指導を実施 (全15校区のうち11校区は各1回、2校区を2回、1校区を3回、1校区を5回実施。指導件数は81件) 社会を明るくする運動を各地区において開催 (23地区で実施、延べ6,548人参加) 社会を明るくする運動街頭啓発キャンペーンを実施 (161人参加) 青少年指導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールの実施 (1回、指導件数1件) 神奈川県平塚警察署少年補導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールを実施 (1回、指導件数7件) 	
	検証結果	A: 成果があがった
	今後の課題	指導件数は、近年減少傾向にあるが、市内のたまり場の移動など青少年の問題行動等が年々変化しているため、学校・地域関係団体と常に情報を共有しつつ、協力して取り組む必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 青少年の非行・問題行動等を防止するためには、学校・地域関係団体との現在の協力体制を維持しつつ、継続的に取り組む必要がある。
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 月～金曜日まで毎日通常愛護指導を実施 (指導件数1,361件) 七夕等イベント時や夜間・登校時などの特別愛護指導を実施 (指導件数393件) 中学校区強化愛護指導を実施 (全15校区のうち12校区は各1回、2校区を2回、1校区を3回実施、指導件数は32件) 社会を明るくする運動を各地区において開催 (23地区実施、延べ5,926人参加) 社会を明るくする運動街頭啓発キャンペーンを実施 (49人参加) 青少年指導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールの実施 (1回、指導件数4件) 神奈川県平塚警察署少年補導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールを実施 (1回、指導件数0件) 	
	検証結果	A: 成果があがった
	今後の課題	市内のたまり場の移動など青少年の問題行動等が年々変化しているため、学校・地域関係団体と常に情報を共有しつつ、協力して取り組む必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 青少年の非行・問題行動等を防止するためには、学校・地域関係団体との現在の協力体制を維持しつつ、継続的に取り組む必要がある。

備考 (その他)

1 (4) 8	こころと命のサポート事業	担当課	福祉総務課
---------	--------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
地域において実施しているおはなし会や読み聞かせ、読み語り等の中で、「命の大切さ、尊さ」をテーマに取り上げてもらうことで、命の大切さ、尊さを普及・啓発し、自殺対策を推進します。	地域で活動している団体等に、本事業についての理解を深めてもらい、おはなし会、読み聞かせ、読み語りの中で「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうように働きかけを行い、命の大切さ、尊さの普及啓発を推進します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況	
	①花水小学校 237回延べ7,419人	②平塚工科高等学校 2回延べ 55人
	③花水公民館 23回延べ 618人	④花水台保育園 163回延べ3,222人
	⑤黒部丘幼稚園 54回延べ1,008人	⑥なでしこ小学校 100回延べ3,663人
	⑦浜岳中学校 1回延べ 689人	⑧八幡小学校 3回延べ 86人
	⑨大原小学校 6回延べ 371人	⑩南原保育園 3回延べ 57人
	⑪松原小学校 1回延べ 557人	⑫松が丘小学校 3回延べ 376人
	⑬山城中学校 3回延べ1,054人	⑭松延小学校 4回延べ 114人
	合計 7地区 実施回数603回 延べ19,289人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	今後も取組が他地区へも広がっていくことが望まれるため、協議会をはじめ保育園等とも協力・連携し、命の大切さや尊さを伝える普及啓発を推進する。すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成28年度	「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況	
	①花水小学校 262回延べ8,903人	②なでしこ小学校 133回延べ4,250人
	③花水台保育園 192回延べ3,957人	④花水公民館 23回 618人
	⑤平塚工科高等学校 2回 29人	⑥平塚市保育士全体研修会 1回 130人
	③中原小学校 3回延べ 410人	⑦神田保育園 5回延べ 85人
	⑧黒部丘幼稚園 48回延べ1,091人	⑨相模小学校 5回延べ 678人
	合計 3地区 実施回数674回 延べ20,151人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	今後も取組が他地区へも広がっていくことが望まれる。今年度は「いのちの尊さをつたえる本」のリストを保育園等へ配布し、読み聞かせ等でのリストの活用を依頼した。協議会をはじめ保育園等とも協力・連携し、命の大切さや尊さを伝える普及啓発を推進する。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成27年度	「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況	
	①花水小学校 64回延べ約9,148人 (朝の読み聞かせの時間等に実施。)	
	②なでしこ小学校 28回延べ約4,195人 (朝の読み聞かせの時間等に実施。)	
	③花水台保育園 38回延べ約3,602人 (1～5歳児クラスで実施。)	
	④花水公民館 23回389人	
	⑤平塚工科高等学校 1回16人	
	合計 1地区 実施回数154回 延べ約17,350人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取組として定着してきているが、この取組が他地区へも広がっていくことが望まれる。地域で活動している団体等に「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうよう働きかけを行うだけでなく、小中学校へもリストの活用や、図書室での「いのちの尊さをつたえる本」コーナー設置等の協力を依頼し、連携して命の大切さ、尊さの普及啓発を推進する。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)	

2 (1) 1	一時預かり事業	担当課	保育課
---------	---------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
保護者の断続的な就労、病気や育児疲れの解消等の理由で、子どもの保育ができないときの緊急・一時的な保育を行います。〔対象：就学前児童〕	施設型給付の幼稚園や民間保育所でも一時預かりを実施します。

各年度における主な取組み等

平成29年度（暫定版）	・民間保育所19園で実施（延べ利用児童数13,578人）	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	・民間保育所19園で実施（延べ利用児童数15,345人）	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	・民間保育所18園で実施（延べ利用児童数15,105人）	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

2 (1) 2	ファミリー・サポート事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育ての援助を受けたい方 (依頼会員) と子育ての援助を行いたい方 (支援会員) を組織化し、幼稚園・保育所等への送迎及びその前後の預かり等の育児の援助活動の橋渡しを行います。〔依頼会員：0歳からおおむね9歳までの児童の保護者〕		支援会員に対する講習時間を段階的に増やし、支援サービスの向上を図ります。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援会員入会説明会を2回開催。 ・ 支援会員の講習会を2回開催。 ・ 支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。 ・ 支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。 会員数：支援会員330人、依頼会員1,322人、内両方会員44人 活動件数：2,389件		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	支援会員の増加を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援会員入会説明会を2回開催。 ・ 支援会員の講習会を2回開催。 ・ 支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。 ・ 支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。 会員数：支援会員320人、依頼会員1,240人、内両方会員45人 活動件数：2,478件		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 引続き会員の増加を図るため	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援会員入会説明会2回開催。 ・ 支援会員の講習会を2回開催。 ・ 支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。 ・ 支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。 会員数：支援会員314人、依頼会員1,162人、内両方会員42人 活動件数：2,045件		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 引続き会員の増加を図るため	
備考 (その他)			

2 (1) 3	ショートステイ事業	担当課	保育課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>保護者の病気等により家庭において養育を受けることができない児童について、児童養護施設等での必要な保護を行います。〔対象：就学前児童及び小学生〕</p>		<p>今後のニーズや地域の実情を踏まえて、事業の実施について研究、検討します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<p>平成26年12月に実施した「子育て支援に関するアンケート調査」の結果を集計・分析し、ショートステイ事業についてのニーズ量を算出した結果、ニーズ量は5年間で0人となっている。現在、本市では事業を実施していない。</p>		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題	ニーズや地域の実情などを踏まえた事業のあり方を検討していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続 現時点では、ショートステイに関する問い合わせはほとんどなく、ニーズを見いだせない状況にあり、事業化は難しいと考えている。</p>	
平成28年度	<p>平成26年12月に実施した「子育て支援に関するアンケート調査」の結果を集計・分析し、ショートステイ事業についてのニーズ量を算出した結果、ニーズ量は5年間で0人となっている。現在、本市では事業を実施していない。</p>		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題	ニーズや地域の実情などを踏まえた事業のあり方を検討していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続 現時点では、ショートステイに関する問い合わせはほとんどなく、ニーズを見いだせない状況にあり、事業化は難しいと考えている。</p>	
平成27年度	<p>平成26年12月に実施した「子育て支援に関するアンケート調査」の結果を集計・分析し、ショートステイ事業についてのニーズ量を算出した結果、ニーズ量は5年間で0人となっている。現在、本市では事業を実施していない。</p>		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題	ニーズや地域の実情などを踏まえた事業のあり方を検討していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続 現時点では、ショートステイに関する問い合わせはなく、ニーズを見いだせない状況にあり、事業化は難しいと考えている。</p>	
備考（その他）			

2 (1) 4	特別保育拡充事業	担当課	保育課
---------	----------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
保育所において、延長保育、障がい児保育、休日保育を行います。〔対象：就学前児童〕	引続き、延長保育、障がい児保育、休日保育を実施します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育（全園で実施） ・障がい児保育（全園で受入れ可） ・休日保育（1園で実施） 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育（全園で実施） ・障がい児保育（全園で受入れ可） ・休日保育（1園で実施） 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育（全園で実施） ・障害児保育（全園で受入れ可） ・休日保育（1園で実施） 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

--

2 (1) 5	私立幼稚園の預かり保育の推進	担当課	教育総務課
---------	----------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
県と連携を取りながら、地域の保育需要に対応した、私立幼稚園における預かり保育の充実を図ります。 〔対象：3歳から就学前児童〕	引続き事業を継続します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	市内私立幼稚園全てで実施いただいた。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	子ども・子育て支援新制度へ移行予定の園に対して、長時間預かり保育支援事業を周知し、制度の活用を検討いただく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	市内私立幼稚園全てで実施いただいた。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	子ども・子育て支援新制度へ移行予定の園に対して、長時間預かり保育支援事業を周知し、制度の活用を検討いただく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	市内私立幼稚園全てで実施いただいた。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	子ども子育て支援新制度へ移行予定の園に対して、長時間預かり保育支援事業を周知し、制度の活用を検討いただく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

2 (1) 6	病後児保育	担当課	保育課
---------	-------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
子どもが病気の回復期にあるときに、保護者が仕事や病気等により自宅で看病ができない場合に対応するため、病後児保育を行います。	利用者の声や地域のニーズを把握し、利用しやすくなるように工夫しながら事業を実施します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	市内1か所で実施。 延べ利用児童数 223人							
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>B：おおむね成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">今後の事業展開とその判断理由</td> <td>②拡大して継続</td> </tr> <tr> <td>時期により定員を超える申込みがあることなどから、事業の拡充に向け取り組んでいく。</td> </tr> </table>	検証結果	B：おおむね成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続	時期により定員を超える申込みがあることなどから、事業の拡充に向け取り組んでいく。
	検証結果	B：おおむね成果があがった						
	今後の課題							
今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続							
	時期により定員を超える申込みがあることなどから、事業の拡充に向け取り組んでいく。							
平成28年度	市内1か所で実施。 延べ利用児童数 311人							
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
	検証結果	A：成果があがった						
	今後の課題							
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続							
平成27年度	市内1か所で実施。 延べ利用児童数 265人							
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
	検証結果	A：成果があがった						
	今後の課題							
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続							

備考 (その他)

2 (1) 7	学童保育の充実・推進	担当課	青少年課
---------	------------	-----	------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
学童保育の充実を図るため、学童保育指導員を対象とした市主催の研修を推進します。また、近年、県等主催の研修が充実してきたため、より多くの研修機会が持てるように、情報提供し、参加を促進します。〔対象：小学生〕	県や、外部機関等の研修について情報提供するとともに、市主催の研修については、外部機関の研修内容を踏まえ、実践的な研修を実施します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	学童保育指導員を対象に放課後児童健全育成事業研修会を実施した。 7月 普通救命講習 2日間 参加者82人 9月 水害について 1日 59人 2月 放課後児童クラブにおける安全を考える 1日 70人（実施予定） 3月 発達障がいのお子さんの理解 1日 60人（実施予定） 3月 スクールソーシャルワーカーとは 1日 60人（実施予定）	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	学童保育指導員を対象に放課後児童健全育成事業研修会を実施した。 5月 平塚市の災害想定 1日 75人 7月 普通救命講習 2日間 参加者98人 12月 不審者対応等 1日 59人 2月 発達障がい児の理解等 1日 参加者54人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	学童保育指導員を対象に放課後児童健全育成事業研修会を実施した。 7月 普通救命講習 2日間 参加者97人 1月 発達の気になるお子さんへの支援 1日 参加者62人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

--

2 (1) 8	放課後等子どもの居場所づくり推進事業	担当課	社会教育課
---------	--------------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
放課後や土曜日等に、地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、子どもたちが学習や文化活動、地域住民との交流活動などを継続的に体験できる取組みを推進します。	放課後や土曜日等に、子どもたちが文化・スポーツ、自然体験など様々な活動をする機会を増やします。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室 八幡地区「やわた子ども村」実施 港地区「港放課後子ども教室」実施 ・土曜日の教育支援体制等構築事業 横内地区「横内マイタウンスクール」実施 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	地域で受け皿となる組織の確立や活動を牽引する指導者の確保等の課題があり、他地域への拡大は難しい状況だが、庁内関係課と連携し、事業未実施の地区や学校に働きかけていく必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 「放課後子ども教室」の他地域への拡大や、「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」の実施を推進し、放課後等の子どもの居場所づくりを充実するため。
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室 八幡地区「やわた子ども村」実施 港地区「港放課後子ども教室」実施（平成28年7月開始） ・土曜日の教育支援体制等構築事業 横内地区「横内マイタウンスクール」実施 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	学校の余裕教室や事業の担い手などの課題があり、他地域への拡大は難しい状況だが、庁内関係課と連携し、事業未実施の地区や学校に働きかけていく必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 「放課後子ども教室」の他地域への拡大や、「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」の実施を推進し、放課後等の子どもの居場所づくりを充実するため。
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室 八幡地区「やわた子ども村」実施 ・土曜日の教育支援体制等構築事業 横内地区「横内マイタウンスクール」実施 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	事業未実施の地区にどう働きかけていくか。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 「放課後子ども教室」の他地域への拡大や、「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」の実施を推進し、放課後等の子どもの居場所づくりを充実するため。

備考（その他）

--

2 (1) 9	放課後子ども総合プランの推進	担当課	青少年課 教育総務課 社会教育課
---------	----------------	-----	------------------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
<p>厚生労働省と文部科学省が策定した「放課後子ども総合プラン」の趣旨にのっとり、全ての子どもたちが放課後等を安全、安心に過ごし、多様な体験、活動を行うことができるよう、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的あるいは連携した取組みを推進します。</p>	<p>放課後児童クラブと放課後子ども教室との一体的あるいは連携した取組みを、地域の団体や学校等と連携して検討していきます。</p> <p>【検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室について、その実施主体の検討を行うとともに、設置が必要と判断される場合には、平成31年度までの間を目途にその整備計画について検討します。 ・放課後子ども教室を設置する場合には、放課後児童健全育成事業と一体的又は連携して実施するように検討します。 ・小学校の余裕教室等の利用状況を定期的に調査し、放課後児童健全育成事業及び放課後子ども教室への活用の可能性について検討していきます。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	<p>「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との一体的または連携した取組みに向けて、関係三課が協議した。また、行政関係者及び関係団体の団体で組織する平塚市放課後等子どもの居場所づくり運営委員会を実施。（平成30年3月22日開催予定）</p>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の一体的または連携した取組み推進のためには、放課後子ども教室の未実施地区へ事業実施を働きかけるとともに学校の余裕教室活用の調整等を行っていく必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 学校施設を活用した「放課後児童クラブ」の整備及び一体的または連携した「放課後子ども教室」の他地域への拡大を図ることで、放課後子ども総合プランを推進するため。
平成 28 年度	<p>「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との一体的または連携した取組みに向けて、関係三課が協議した。また、行政関係者及び関係団体の団体で組織する平塚市放課後等子どもの居場所づくり運営委員会を実施。（平成29年3月15日開催）</p>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の一体的または連携した取組み推進のためには、学校余裕教室活用の調整や、放課後子ども教室の実施地区の拡大などを働きかけていく必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 学校施設を活用した「放課後児童クラブ」の整備及び一体的または連携した「放課後子ども教室」の他地域への拡大を図ることで、放課後子ども総合プランを推進するため。
平成 27 年度	<p>放課後児童健全育成事業の立場から放課後児童クラブと放課後子ども教室との一体的あるいは連携した取組みに向けて、関係三課が協議した。平塚市放課後等子どもの居場所づくり運営委員会を実施。（平成28年1月21日開催）</p>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	・放課後児童クラブや放課後子ども教室が学校施設を活用するにあたってのセキュリティ対策や管理責任等の明確化が必要。 ・事業未実施の地区にどう働きかけていくか。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 「放課後子ども教室」の他地域への拡大を図ることで、放課後等の子どもの居場所づくりを充実するため。

備考（その他）

2 (1) 10	民間保育所施設整備支援事業	担当課	保育課
----------	---------------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
保育所待機児童の解消や保育サービスの充実を図るため、社会福祉法人立保育所の施設整備に対して助成を行います。	入所児童の安全性や生活環境の改善を図るために民間保育所を対象に引き続き助成します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人立保育所5園の小規模な施設の修繕に対して助成 ・認定こども園1園の防犯対策整備に対して助成 	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人立保育所5園の小規模な施設の修繕に対して助成 	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人立保育所5園の小規模な施設の修繕に対して助成 ・社会福祉法人立保育所1園増改築及び1園新設に係る整備費等に対して助成 (※平成26年, 27年の2か年による整備 増改築 定員 20人増) (※平成26年, 27年の2か年による整備 新設 定員130人) 	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

2 (1) 11	公立保育所施設整備事業	担当課	保育課
----------	-------------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
安心・安全・快適な保育環境の向上や地域への子育て支援の充実を図るため、老朽化した公立保育所の施設整備を行います。	公立保育所において修繕を実施します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	公立保育所8園及び認定こども園1園について、施設・設備等の小規模な修繕の実施	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	公立保育所9園の老朽化に伴う施設、設備等の小規模な修繕の実施	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	公立保育所10園の老朽化に伴う施設、設備等の小規模な修繕の実施	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 金田保育園の廃園に伴い9園で実施していく

備考（その他）

2 (1) 12	私設保育施設等交流事業	担当課	保育課
----------	-------------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
私設保育施設の保育士や児童を公立保育所に招き、また、保育士が私設保育施設に訪問して、保育に関する支援や児童の交流を図ります。	市内私設保育施設のニーズを踏まえ、事業を実施します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	平成27年度をもって廃止	
	検証結果	評価なし
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止
平成28年度	平成27年度をもって廃止	
	検証結果	評価なし
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止
平成27年度	なし	
	検証結果	評価なし
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止 これまで交流のあった認定保育施設は全て認可保育所になったので、事業は廃止する。

備考（その他）

2 (1) 13	私設保育施設への支援	担当課	保育課
----------	------------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
児童の健康診断、職員の保菌検査、施設賠償責任保険の諸経費に対して助成を行います。	新たな子ども・子育て支援制度の状況を見極めながら、補助の内容を見直します。

各年度における主な取組み等

平成29年度（暫定版）	私設保育施設5施設に助成。	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	私設保育施設6施設に助成。	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	私設保育施設6施設に助成。	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

2 (1) 14	幼保一元化のモデルケース事業	担当課	保育課 教育総務課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
港幼稚園と須賀保育園を統合する「幼保連携型認定こども園」として(仮称)港地区認定こども園を開設します。		平成27年度中の整備着工、28年度の整備完了、29年度の供用開始を目指します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	平成28年度で事業完了		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	⑥終了（平成28年度で事業完了）	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年10月に建物 completion し、平成29年2月に外構を含む全体が完成。 ・（仮称）港地区認定こども園の整備に関する検討会ワーキングを8回開催 ・（仮称）港地区認定こども園の整備に関する検討会を3回開催 ・認定こども園化に係る港幼稚園在園保護者説明会を6回実施 ・開所式及び地元向け内覧会を開催 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	実際にこども園を運営していく中で出てくる課題について検討・対処し、モデルケースとしての知見の蓄積を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	⑥終了（平成28年度で事業完了）	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年9月に工事着工（平成29年2月末まで） ・（仮称）港地区認定こども園の整備に関する検討会ワーキングを5回開催 ・（仮称）港地区認定こども園の整備に関する検討会を1回開催 ・他市町村の認定こども園への視察を2回実施 ・建設工事の開始に係る地元説明会を1回実施 ・認定こども園化に係る港幼稚園在園保護者説明会を1回実施 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	定期的にワーキングを実施し、認定こども園の整備及び開園後の運営に係る課題について継続して検討していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

2 (1) 15	公立園の在り方の検討	担当課	保育課 教育総務課
----------	------------	-----	--------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
公立幼稚園5園、公立保育所10園については、その在り方について庁内検討会で検討し、協議してきましたが、平成24年度にまとめた「平塚市幼保一元化に関する検討会中間報告」を基に協議を進めています。	新たな子ども・子育て支援制度の状況を見極めながら、公立園の在り方を検討します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・港幼稚園と須賀保育園を統合した港こども園が平成29年4月1日に開所した。 ・民営化が予定されている花水台保育園については、新園舎を整備・運営する事業者が決定した。 ・民営化される花水台保育園の新園舎整備に向け、仮設園舎の整備・移転を行い、現園舎の解体に着手した。 <p style="text-align: right;">平成30年2月15日時点</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平塚市公立園再編検討会にて、「平塚市幼保一元化に関する検討会中間報告」に掲げられた公立園再編に向けて検討し、当面の方向性について「平塚市幼保一元化に関する公立園の見直しについて」としてまとめた。 ・見直しでは、公立幼稚園5園、公立保育所10園について、統合による認定こども園化、民営化、廃園により、平成32年度までに計8園体制とすることとした。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	⑧その他 方針が決定した公立園については、方針の実現に向けた取り組みを進め、その進捗状況については、新たに構築する予定の検討会で把握する。
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告に基づく公立園の再編をどのように進めていくか、保育課と教育総務課にて検討した。 ・平塚市公立園再編検討会を開催し、「平塚市幼保一元化に関する検討会中間報告」に掲げられた公立園再編に向けて検討した。 ・上記と並行して、公立幼稚園と保育園の統合や民営化について企画政策課と協議を行い、花水台保育園については民営化、土屋幼稚園と吉沢保育園については統合し認定こども園とする方向性となった。 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・統合・廃止・民営化の対象となる園を具体的に選定し、方向性を決めていく。 ・耐震改修の必要性や中間報告の趣旨を踏まえ、さらに統合・廃園に向けた検討を進める必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

--

2 (2) 1	子育て支援センター事業	担当課	保育課
---------	-------------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
子育て家庭に対する育児不安等についての相談支援、各種子育てに係る情報提供、親子の気軽な交流の場としての子育てサロンの運営、子育てサークルや子育て支援活動への支援を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕	安心して子育てができるように引続き子育て支援センター事業を推進します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・1か所実施。 利用者数：大人11,629人、子ども9,229人、合計20,858人 相談件数：面接3,143件、電話28件、その他375件 <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（ミニコンサート、人形劇、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・1か所実施。 利用者数：大人11,919人、子ども15,354人、合計27,273人 相談件数：面接3,530件、電話31件、その他549件 <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（フルーツミニコンサート、人形劇、フラダンス、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事、交通安全教室などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・1か所実施。 利用者数：大人9,932人、子ども12,474人、合計22,406人 相談件数：面接2,806件、電話30件、その他513件 <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（フルーツミニコンサート、人形劇、フラダンス、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事、交通安全教室などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		

備考（その他）

2 (2) 2	つどいの広場事業	担当課	保育課
---------	----------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
主に乳幼児を持つ親と子どもが気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で語り合うことで、精神的な安心感をもたらし、問題解決への糸口となる機会(場)を提供します。〔対象：おおむね0～3歳児及び保護者〕	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年4月から新たなつどいの広場1か所を開設できるように準備を進めます。 安心して子育てができるように引続きつどいの広場事業を推進します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> 4か所で実施。 月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、ひな人形等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。 「つどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人3,124人、子ども3,276人、合計 6,400人、相談件数：557件 「つどいの広場 きりんのおうち」 利用者数：大人6,437人、子ども6,955人、合計13,392人、相談件数：770件 「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人3,288人、子ども3,690人、合計 6,978人、相談件数：202件 「つどいの広場 ぼけっと」 利用者数：大人2,181人、子ども2,285人、合計 4,466人、相談件数：34件 		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>	今後の課題	
今後の課題			
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td> ②拡大して継続 子育て支援施設の市内の配置状況や地域の人口などを勘案し、平成30年度、つどいの広場1か所を新たに開設する準備を進める。 </td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 子育て支援施設の市内の配置状況や地域の人口などを勘案し、平成30年度、つどいの広場1か所を新たに開設する準備を進める。	
今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 子育て支援施設の市内の配置状況や地域の人口などを勘案し、平成30年度、つどいの広場1か所を新たに開設する準備を進める。		
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 3か所で実施。 月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、手作り味噌等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。 「湘南スターモールつどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人5,036人、子ども5,229人、合計10,265人、相談件数：543件 「つどいの広場 きりんのおうち」 利用者数：大人8,664人、子ども9,504人、合計18,168人、相談件数：939件 「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人3,956人、子ども4,404人、合計 8,360人、相談件数：376件 		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td>施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある</td> </tr> </table>	今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある
今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある		
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td> ① 現状の規模で継続 平成29年度から「つどいの広場 ぼけっと」を開設する。 </td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 平成29年度から「つどいの広場 ぼけっと」を開設する。	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 平成29年度から「つどいの広場 ぼけっと」を開設する。		
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 3か所で実施。 月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、手作り味噌等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。 「湘南スターモールつどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人4,726人、子ども4,830人、合計 9,556人 相談件数：711件 「つどいの広場 きりんのおうち」 利用者数：大人8,305人、子ども9,318人、合計17,623人 相談件数：1,060件 「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人3,988人、子ども4,591人、合計 8,579人 相談件数：500件 		
	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった
	検証結果	A：成果があがった	
	<table border="1"> <tr> <td>今後の課題</td> <td>施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある</td> </tr> </table>	今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある
今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある		
<table border="1"> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		

備考(その他)

2 (2) 3	開放保育事業	担当課	保育課
---------	--------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
地域の未就園児とその保護者に保育所の園庭や施設を開放し、園児との交流や保護者同士の交流を図り、保育士による育児相談や情報提供を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕	保育所29園で概ね週1回程度、保育所を開放し、育児情報の提供や育児相談等を実施します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所32園で実施 ・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所32園で実施 ・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所30園で実施 ・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

2 (2) 4	赤ちゃん広場事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所が、1歳未満の乳児を育てる親を対象に、育児不安等についての相談、子育てに係る情報の提供、親子の気軽な交流の場の提供を行います。〔対象：1歳未満の乳児及び保護者〕		公立保育所5園で、育児不安等についての相談を受けたり、子育てに係る情報の提供を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	・公立保育所3園で実施 (月2回) 花水台保育園・・・実施19回、参加16組 夕陽ヶ丘保育園・・・実施23回、参加11組 若草保育園・・・実施20回、参加7組 合 計・・・実施62回、参加34組		
	検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった。	
	今後の課題	JR以南地区については、近隣に開設したつどいの広場の影響が大きいのと思われるので、開催日時等について検討が必要。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	・公立保育所4園で実施 (月2回) 須賀保育園・・・実施22回、参加43組 花水台保育園・・・実施23回、参加94組 夕陽ヶ丘保育園・・・実施23回、参加81組 若草保育園・・・実施23回、参加7組 合 計・・・実施91回、参加225組		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 須賀保育園の廃園に伴い規模を縮小して実施する。	
平成27年度	・公立保育所5園で実施 (月2回) 金田保育園・・・実施23回、参加21組 須賀保育園・・・実施22回、参加56組 花水台保育園・・・実施24回、参加78組 夕陽ヶ丘保育園・・・実施23回、参加103組 若草保育園・・・実施23回、参加13組 合 計・・・実施115回、参加271組		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 金田保育園の廃園に伴い規模を縮小して実施する	
備考 (その他)			

2 (2) 5	親子ふれあい体験事業	担当課	保育課
---------	------------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
子育て中の親子が楽しく遊び、共通の体験活動を通しながら親子のふれあいが実感できる場を提供します。〔対象：就学前児童〕	子育て中の親子が参加できるミニミニ運動会を市内公民館等で実施します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	地域の子育て中の親子が参加するミニミニ運動会を実施 5月17日（水）神田公民館・・・・・・・・・・18人 6月13日（火）なぎさふれあいセンター・・・57人 10月18日（水）金田公民館・・・・・・・・・・32人 11月15日（水）びわ青少年の家・・・・・・・・36人 参加児童数合計：143人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	地域の子育て中の親子が参加するミニミニ運動会を実施 5月18日（水）神田公民館・・・・・・・・・・24人 6月14日（火）なぎさふれあいセンター・・・78人 6月22日（水）金田公民館・・・・・・・・・・25人 11月16日（水）びわ青少年の家・・・・・・・・21人 参加児童数合計：148人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	地域の子育て中の親子が参加するミニミニ運動会を実施 5月20日（水）神田公民館・・・・・・・・・・43人 6月9日（火）なぎさふれあいセンター・・・47人 6月17日（水）金田公民館・・・・・・・・・・15人 11月18日（水）びわ青少年の家・・・・・・・・27人 参加児童数合計：132人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

2 (2) 6	ブックスタート事業	担当課	中央図書館 保育課 健康課
---------	-----------	-----	---------------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
0歳から、全ての乳児とその保護者が絵本を通して楽しい時間を過ごすとともに、豊かな子どもの心を育て、親子の絆を養ってもらえるように子育てを支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが丁寧にブックスタート事業の趣旨を伝えることで参加者の高い満足度を維持するとともに、参加しにくい方への広報と参加機会の拡充に努め、参加率向上を図ります。 ・公立保育所において、地域のボランティアによる読み聞かせを実施します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	中央図書館 ・実施回数 会場開催54回（健康課「7か月児相談」に合わせた実施30回、つどいの広場「きりんのおうち」1回）、個別対応5組 ・施設数 7か所 ・参加者数 2,126人（参加組数852組、対象乳児846人、保護者1,095人、兄弟等185人） ・市民ボランティア60人（登録者数） ・配布絵本 852冊 ・配布絵本内訳『じゃあじゃあびりびり』（偕成社）275冊、『びょーん』（ポプラ社）356冊、『もこもこもこ』（文研出版）210冊、『おつきさまこんばんは』（福音館書店）5冊、『くだもの』（福音館書店）6冊 保育課 ・公立保育園8園及び認定こども園1園において、地域のボランティアによる読み聞かせを随時実施	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	参加率の向上	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 28 年度	中央図書館 ・実施回数 会場開催66回（健康課開催の「7か月児相談」に合わせて実施36回、つどいの広場「きりんのおうち」1回）、個別対応32組 ・施設数 7か所 ・参加者数 2,973人（参加組数1,199組、乳児1,196人、保護者1,527人、兄弟等250人、参加率69.7%） ・市民ボランティア62人（登録者数） ・配布絵本 1,200冊 ・配布絵本内訳『じゃあじゃあびりびり』（偕成社）417冊、『びょーん』（ポプラ社）492冊、『もこもこもこ』（文研出版）269冊、『おつきさまこんばんは』（福音館書店）13冊、『くだもの』（福音館書店）9冊 保育課 ・公立保育園9園において、地域のボランティアによる読み聞かせを随時実施	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	ボランティアが丁寧に事業の趣旨を伝えながら絵本を手渡しすることで参加者の高い満足度を維持するとともに、事業について知らない保護者や知っていても参加できない方が参加しやすい機会づくりについて、関係課等と連携して検討する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 27 年度	・実施回数 会場開催44回（健康課「すくすく子育て教室」開催に合わせた実施12回、つどいの広場「きりんのおうち」3回）、個別対応93組 ・施設数 7か所 ・参加者数 2,384人（参加組数919組、対象乳児911人、保護者1,230人、兄弟等243人、参加率50.4%） ・市民ボランティア63人（登録者数） ・配布絵本 919冊 ・配布絵本内訳『じゃあじゃあびりびり』（偕成社）384冊、『いないいないばあ』（童心社）187冊、『もこもこもこ』（文研出版）308冊、『だったあー』（主婦の友社）25冊、『くだもの』（福音館書店）15冊 ・公立保育園10園において、地域のボランティアによる読み聞かせを随時実施	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	・参加率の向上	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 ・健康課主催の「すくすく子育て教室」（年12回）終了に伴い、新規事業の「7か月児相談」（年36回）にてブックスタートの実施を予定している。これにより、実施回数が増加するため。 ・金田保育園の廃園に伴い公立保育園の実施箇所数は9か所に減少。	

備考（その他）

2 (2) 7	活動場所の確保	担当課	青少年課 中央公民館
---------	---------	-----	---------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
子育てサークル等の活動場所として、子どもの家や青少年会館等を活用します。	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年団体、青少年育成団体が活動場所の確保が容易になるように上記団体への優先的な施設予約を継続します。 ・仲間づくりの場、地域交流の場として公民館が活用されるよう努めます。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	青少年課 ・青少年会館では、子育てサークル等の青少年（育成）団体が優先的に予約できる環境を継続している。 中央公民館 ・子育てサークル等の活動で、定期的な公民館の利用がある。 ・各地区の社会福祉協議会や民生委員児童委員が実施する「子育てサロン」や親子遊びの会場確保、公民館だよりへの掲載など、地域の子育て支援活動の協力も行っている。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	既存の公民館ではおむつ替えシートの設置は構造上の問題もあり難しいが、授乳やおむつ替えの要望があった時に対応できるよう配慮していく必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成28年度	青少年課 ・青少年会館では、子育てサークル等の青少年（育成）団体が優先的に予約できる環境を継続している。 中央公民館 ・子育てサークル等の活動で、定期的な公民館の利用がある。 ・各地区の社会福祉協議会や民生委員児童委員が実施する「子育てサロン」や親子遊びの会場確保、公民館だよりへの掲載など、地域の子育て支援活動の協力も行っている。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	既存の公民館ではおむつ替えシートの設置は構造上の問題もあり難しいが、授乳やおむつ替えの要望があった時に対応できるよう配慮していく必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年会館では、子育てサークル等の青少年（育成）団体が優先的に予約できる環境を継続している。 ・子育てサークル等の自主活動で定期的な公民館の利用がある。 ・各地域の主任児童委員が実施する「子育てサロン」や町内福祉村の「子育て支援」の会場予約・実施日の周知に協力するなど、地域の子育て支援活動の協力も行っている。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	新改築工事を行う公民館ではおむつ替えシートの設置等、乳幼児連れでも来館しやすい設備の設置を心掛けているが、既存の公民館では構造上の問題もあり難しい。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

--

2 (3) 1	情報提供の推進	担当課	保育課 こども家庭課
---------	---------	-----	---------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
子育て家庭向け、情報誌・インターネット等により子育てに関する情報を分かりやすく発信します。	広報紙やインターネット等、様々な方法で子育てに関する情報をより広く、分かりやすく提供します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	<p>保育課・こども家庭課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを利用した各種手当、保育所・認定こども園、子育て支援事業、旬の情報等の発信。 <p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てガイド「くすくす」を発行（4,300部）し、市内保育施設や子育て支援施設に配布。ホームページにも掲載し、電子媒体でも提供。 ・FM湘南ナバサでの保育所入所、公立保育所での園児の様子や行事、子どもとの関わり方や手づくりおもちゃ等子育てに関する情報を提供。（毎月1回：計12回） ・平成29年9月刊行の平塚Walkerに地域子育て支援拠点施設、広報ひらつか12月第3金曜日号・1月第1金曜日号に子育てに関する特集記事を掲載。 <p>こども家庭課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを利用した、各種手当、保育所、子育て支援事業、旬の情報等の発信。 ・子育て応援メールで乳幼児情報を発信。（発信回数10件） 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	<p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てガイド「くすくす」を発行。（4,300部） ・FM湘南ナバサでの保育所入所、各種手当のほか、公立保育所での園児の様子や行事、子どもとの関わり方や手づくりおもちゃ等子育てに関する情報を提供。（毎月1回：計12回） <p>こども家庭課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを利用した、各種手当、保育所、子育て支援事業、旬の情報等の発信。 ・子育て応援メールで乳幼児情報を発信。（発信回数29件） 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てガイド「くすくす」を発行。（4,200部） ・ホームページを利用した、各種手当、保育所、子育て支援事業、旬の情報等の発信。 ・子育て応援メールで乳幼児情報を発信。（発信回数27件） ・FM湘南ナバサでの保育所入所、各種手当のほか、公立保育所での園児の様子や行事、子どもとの関わり方や手づくりおもちゃ等子育てに関する情報を提供。（毎月1回：計12回） ・ホームページを利用した、各種手当、保育所、子育て支援事業、旬の情報等の発信。 ・子育て情報マップを公共の場所等に配布（200部） 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	子育て情報マップのリニューアル
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

2 (3) 2	子育て支援総合コーディネート事業	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>既存の社会資源を有効に活用するため、県児童相談所や関係機関等と連携し、地域における多様な子育て支援サービス情報を一元的に把握して、ネットワーク化を図り、利用者への情報提供、ケースマネジメント及び利用援助等の支援を行うとともに、子育て家庭や保育所からの専門的な相談に対応します。</p>		<p>引続き事業を継続します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・こども総合相談窓口において、子育て支援サービス情報を一元的に収集・提供。 ・公共施設を活用し、相談対応・情報提供を実施。 ・市内子どもの家4か所にて1か月に1回親子広場 (25回開催) : 180人の親子が参加・43件の相談に対応 ・家庭児童相談員を配置し、県児童相談所等と連携して児童相談等に対応。 相談・虐待通告件数 1,113件 <p>※平成29年度から、保健センター3階「子育て世代包括支援センター ひらつかネウボラールーム はぐくみ」に母子手帳交付窓口を1本化した。</p>		
	検証結果	B : おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・こども総合相談窓口において、子育て支援サービス情報を一元的に収集・提供。 ・公共施設を活用し、相談対応・情報提供を実施。 ・市内子どもの家4か所にて1か月に1回親子広場 (32回開催) : 441人の親子が参加・85件の相談に対応 ・母子手帳交付窓口を開設し、妊婦の相談に対応。 ・母子手帳 新規118件発行 ・家庭児童相談員を配置し、県児童相談所等と連携して児童相談等に対応。 相談・虐待通告件数 1,004件 		
	検証結果	B : おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・こども総合相談窓口において、子育て支援サービス情報を一元的に収集・提供。 ・公共施設を活用し、相談対応・情報提供を実施。 ・市内子どもの家4か所にて1か月に1回親子広場 (48回開催) : 463人の親子が参加・126件の相談に対応 ・母子手帳交付窓口を開設し、妊婦の相談に対応。 ・母子手帳 新規133件発行 ・家庭児童相談員を配置し、県児童相談所等と連携して児童相談等に対応。 相談・虐待通告件数 776件 		
	検証結果	B : おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (3) 3	幼稚園・保育所の育児相談	担当課	保育課 教育指導課						
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）							
<p>幼稚園や保育所を利用している保護者や地域の子育て家庭を対象に、電話や面接により、子育てについての不安や悩みの相談を行います。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・全保育所で実施し、相談の内容によっては関係機関と連携を図ります。 ・幼稚園の在園児の保護者や入園希望者の保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行います。 							
各年度における主な取組み等									
平成 29 年度 （暫定版）	<p>保育課 ・全保育所で実施し、相談の内容に沿い、関係機関と連携を図った。</p> <p>教育指導課 ・幼稚園の在園児の保護者や入園希望者の保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行った。 実施園：4園</p> <table border="1" data-bbox="177 763 1479 1001"> <tr> <td style="width: 15%;">検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
検証結果	A：成果があがった								
今後の課題									
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続								
平成 28 年度	<p>保育課 ・全保育所で実施し、相談の内容に沿い、関係機関と連携を図った。</p> <p>教育指導課 ・幼稚園の在園児の保護者や入園希望者の保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行った。 実施園：5園</p> <table border="1" data-bbox="177 1272 1479 1507"> <tr> <td style="width: 15%;">検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
検証結果	A：成果があがった								
今後の課題									
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続								
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・全保育所で実施し、相談の内容によっては関係機関と連携を図った。 ・幼稚園の在園児の保護者や入園希望者の保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行った。 実施園：5園 <table border="1" data-bbox="177 1778 1479 2013"> <tr> <td style="width: 15%;">検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
検証結果	A：成果があがった								
今後の課題									
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続								
備考（その他）									

2 (3) 4	女性のための相談事業	担当課	人権・男女共同参画課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
女性が日常生活の中で直面する様々な悩みの解消や配偶者等の暴力から女性とその子どもを守るため、女性のための相談窓口を設けます。		女性やその子どものための支援等について、相談体制や関係機関との連携を強化します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<p>・相談件数 548件 庁内及び他機関連絡調整先件数のうち、こども家庭課・保育課 41件（平成29年12月現在）</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	事業の特性上、関係機関との連携は不可欠であり、今後もさらに連携を深めていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>・相談件数 758件 庁内及び他機関連絡調整先件数のうち、こども家庭課・保育課 70件</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	事業の特性上、関係機関との連携は不可欠であり、今後もさらに連携を深めていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>・相談件数 691件 庁内及び他機関連絡調整先件数のうち、こども家庭課・保育課 46件</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	事業の特性上、関係機関との連携は不可欠であり、今後もさらに連携を深めていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

2 (4) 1	男女共同参画意識改革事業	担当課	人権・男女共同参画課
---------	--------------	-----	------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
<p>男女がともに担う子育てを促進するには、働き方を見直すとともに、男女共同参画社会の実現が必要です。そのために、性別による固定的な役割分担意識の是正や女性の人権に関する情報提供、啓発事業を実施し、社会的機運の醸成や働く場における子育て支援への意識を醸成します。</p>	<p>附属機関委員等の意見を踏まえながら、時代や社会のニーズに合った内容で事業を実施します。</p>

各年度における主な取組み等

平成29年度（暫定版）	<p>「ひらつか男女共同参画プラン2017」（平成29年度から平成35年度の7年間）に沿って実施。 プランにおいて、性別による固定的な役割分担意識の改革のために、全ての施策に必要な視点として位置付けており、プランの全ての事業をこの視点をもって実施している。意識啓発を目的とする事業は次のとおり。また、女性の人権に関しては、施策の方向7「DVの根絶」（DV防止計画を兼ねる）を位置付け、施策16「DV防止のための啓発」としてDV防止啓発事業を実施した。 ・「男女共同参画推進登録団体と協力したパネル展示の実施」（1回）男女共同参画週間において啓発をした6月23日（金）～6月29日（木） ・「新成人への男女共同参画啓発リーフレットの送付」（2,652通） ・「男女共同参画推進登録団体と協働で行う意識啓発」（2件）11月12日（日）、11月16日（木）、3月8日（木）実施予定 ・「地域への意識啓発」として、当課作成の男女共同参画のチラシを当課及び庁内各課が実施する事業等で、市民へ配付した（1,212枚） ・「イクボス養成と拡大」として、市役所においてイクボスの推進をした。新任課長研修 参加者25人 5月30日（火） 担当長級職研修 参加者129人 10月24日（火）、27日（金） ・「事業所向けイクボス認定制度の創設」において、平成29年度女性活躍シンポジウム「平塚市イクボスプロジェクト～働きやすいまち Hiratsuka～」を開催 参加者数88人 平成30年1月19日（金） ・「学校でのデートDV防止講座の開催」（2回）高校生：参加者数183人 7月10日（月）、中学生：参加者数 348人 平成30年1月18日（木） ・『「女性に対する暴力をなくす運動」期間における周知、啓発』パネル展示にて啓発をした11月10日（金）～11月24日（金）</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	意識啓発が主な事業となるので、これらの事業の結果として意識改革が進んだかどうかを図ることが難しいこと。
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>・男女共同参画情報誌「まめ」を発行（1回）（平成29年3月）発行部数12,000部 ・新成人へ男女共同参画啓発リーフレットを送付（2,786人） ・男女共同参画推進登録団体が開催する啓発事業を共催（3件）9月17日（土）、11月17日（木）、平成29年1月28日（土） ・デートDV防止講座（大学生対象）を開催 参加者数36人 11月16日（水） ・「男女共同参画」啓発展示を実施（1回）6月23日（木）～6月29日（木） ・「女性に対する暴力をなくす運動」啓発展示を実施（1回）11月11日（金）～11月25日（金） ・ひらつか男女共同参画推進協議会を開催（3回）7月7日（木）、8月31日（水）、平成29年1月12日（木） ・「市内企業・事業所に対する男女共同参画推進事業」平成28年度 平塚市イクボスプロジェクト～働きやすいまち Hiratsuka～シンポジウムを開催 参加者数26人 平成29年2月8日（水） ・男女共同参画推進登録団体連絡会を開催 6月29日（水）、11月8日（火）、平成29年3月24日（金） ・平塚市長、幹部のイクボス宣言式とイクボス養成研修を開催（1回）4月15日（金） ・「平塚男女共同参画推進会議」平塚市課長職のイクボス宣言式とイクボス養成研修を開催（1回）平成29年1月17日（火） ・「ひらつか男女共同参画プラン2017」策定及び策定にあたっての素案に係るパブリックコメント手続を実施（個人意見4人、団体1組から計32件の意見提出があった。）11月4日（金）～12月5日（月）</p>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	事業の実績は積んでいるが、事業が直接的にどの程度意識醸成に寄与できているかの成果を図ることが難しい。 働く場における意識醸成については、積極的に企業が取り組むような機運を高めるために庁内他部署との協力と連携体制を築くことが必要。
今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続（情報誌まめは、⑥終了） 平成19年度策定の「ひらつか男女共同参画プラン2007」が終了し、平成29年度から「ひらつか男女共同参画プラン2017」による事業を実施していくため。	
平成27年度	<p>・市民の編集による情報誌「まめ」を発行（2回発行）年間発行部数24,000部 ・新成人へ男女共同参画啓発リーフレットを送付（2,527人） ・男女共同参画推進登録団体が開催する啓発事業を共催（5件） ・デートDV防止講座（大学生対象）を開催。参加者数90人 ・デートDV防止講座（高校生対象）を開催。参加者数201人 ・「男女共同参画」啓発展示を実施（1回） ・「女性に対する暴力をなくす運動」啓発展示を実施（1回） ・ひらつか男女共同参画推進協議会を開催（3回） ・平塚市内企業・事業所向けイクボス講演会を開催。参加者数103人 ・第6回平塚市女性職員活躍推進フォーラムを開催（1回）</p>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	事業の実績は積んでいるが、事業が直接的にどの程度意識醸成に寄与できているかの成果を図ることが難しい。 働く場における意識醸成については、平塚市役所も含めてどれだけ企業が実践できるかということになる。積極的に企業が取り組むような機運を高めるため、企業表彰やインセンティブの付与などの本市の取組みを必要とするが、どんな取組みが可能かについて、庁内他部署との協力と連携体制を築くことが必要。
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	

備考（その他）

2 (5) 1	労働セミナー事業	担当課	産業振興課
---------	----------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
労働諸問題に対する理解と教養を深めるため、勤労者、事業主、一般市民を対象に労働セミナーを開催し、労働問題の自主的解決能力の向上を図るとともに、生活安定向上を目指します。	県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を開催します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<p>神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を次のとおり開催した。(各定員50人・受講料無料)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年 9月27日 (水) 職場のセクハラ防止について 参加者数：24人 ・平成29年 9月29日 (金) 非正規雇用の法制度 参加者数：31人 ・平成29年10月 4日 (水) 非正規雇用はこう変わる 参加者数：28人 ・平成29年10月 6日 (金) 労働時間規制の今後 参加者数：24人 ・平成29年10月11日 (水) 女性の活躍推進 参加者数：19人 <p>いずれも18時30分～20時30分</p>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	参加者数を増やすため、事業周知を効果的に行い、労働者と雇用のニーズ及び経済動向にあったテーマを捉えて事業を進めることが必要。
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続

平成28年度	<p>神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を次のとおり開催した。(各定員50人・受講料無料)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年11月22日 (火) 労働法の基本① 参加者数：25人 ・平成28年11月25日 (金) 労働法の基本② 参加者数：31人 ・平成28年11月29日 (火) 労働法の基本③ 参加者数：27人 ・平成28年12月 2日 (金) 事例で学ぶ労働トラブル対処法 参加者数：33人 ・平成28年12月 6日 (火) 働き方改革！ワークライフバランスのススメ 参加者数：31人 <p>いずれも18時30分～20時30分</p>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	参加者数を増やすために開催時期の見直しや、勤労者のニーズや社会経済にあったテーマを捉えて事業を進めるとともに、講座や事業の周知を効果的に行うことが必要。
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続

平成27年度	<p>神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を次のとおり開催しました。(各定員50人・受講料無料)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年2月 3日 (水) 職場の安全配慮義務と改正労働安全衛生法 参加者数：29人 ・平成28年2月 5日 (金) 労働契約の基本と改正のポイント① 参加者数：29人 ・平成28年2月10日 (水) 労働契約の基本と改正のポイント② 参加者数：30人 <p>いずれも18時30分～20時30分</p>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	参加者を増やすためには、事業周知を効果的に行うとともに、時節にあったテーマを捉えて事業を進めていくことが必要。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)	

2 (5) 2	就労支援制度の普及・啓発	担当課	産業振興課
---------	--------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
勤労ひらつか(毎月1回、市内の労働組合や企業、市の施設に配付)で支援制度の普及啓発に努めるとともに、厚生労働省や都道府県労働局から送付されるリーフレット、冊子等を掲出し、閲覧に供し啓発に努めます。	ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に関する情報を広く発信します。また、国・県の関係機関等から送付されたリーフレットや冊子等を掲示・配架し、啓発を図ります。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<p>情報紙「勤労ひらつか」に、ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に係る記事を計5回掲載し、市のホームページでも公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年5月号 働き方・休み方改善ポータルサイトのご案内 働き方・休み方改善コンサルタントについて テレワーク相談センターについて ・平成29年6月号 男女共同参画週間について ・平成29年8月号 仕事休もつ化計画のご案内 <p>国・県の関係機関等から送付されたリーフレット・冊子等を掲示・配架し、啓発に努めた。（掲示・配架場所：本庁舎・勤労会館・産業振興課等）</p>	<p>検証結果</p> <p>A：成果があがった</p>
	<p>今後の課題</p>	
	<p>今後の事業展開とその判断理由</p>	<p>① 現状の規模で継続</p>
平成28年度	<p>情報紙「勤労ひらつか」に、ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に係る記事を計5回掲載し、市のホームページでも公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年5月号 神奈川労働局「雇用環境・均等部」設置について掲載 平塚市イクボス宣言について掲載 ・平成28年6月号 男女共同参画週間に関する記事を掲載 ・平成28年8月号 ワーク・ライフ・バランス推進支援に関する記事を掲載（年次有給休暇取得促進） ・平成29年1月号 育児・介護休業法改正に関する記事を掲載 <p>国・県の関係機関等から送付されたリーフレット・冊子等を掲示・配架し、啓発に努めた。（掲示・配架場所：本庁舎・勤労会館・産業振興課等）</p>	<p>検証結果</p> <p>A：成果があがった</p>
	<p>今後の課題</p>	
	<p>今後の事業展開とその判断理由</p>	<p>① 現状の規模で継続</p>
平成27年度	<p>情報紙「勤労ひらつか」に、ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に係る記事を計4回掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年6月号 男女雇用機会均等法に関する相談先の周知記事を掲載 男女共同参画週間に関する記事を掲載 ・平成27年8月号 ワーク・ライフ・バランス推進支援に関する記事を掲載 ・平成27年11月号 女性を対象とした就職応援セミナー等に関する記事を掲載 <p>国・県の関係機関等から送付されたリーフレット・冊子等を掲示・配架し、啓発に努めた。（掲示・配架場所：本庁舎・勤労会館・産業振興課等）</p>	<p>検証結果</p> <p>A：成果があがった</p>
	<p>今後の課題</p>	
	<p>今後の事業展開とその判断理由</p>	<p>① 現状の規模で継続</p>

備考（その他）

2 (5) 3	就労環境の向上に向けた普及・啓発	担当課	人権・男女共同参画課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>企業や市民に向けて、男女雇用機会均等法等を普及・啓発し、男女が共に能力を発揮できる職場づくりを進めます。</p>		<p>市民ニーズを取入れるため、アンケート等を踏まえて事業を実施します。また、関係課と連携しながら、企業への啓発を実施します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<p>「ひらつか男女共同参画プラン2017」の計画期間である、平成29年度から平成35年度の7年間に於いて、施策の方向6「事業所の実施する働き方改革への支援」（女性活躍推進計画を兼ねる）を位置付け、施策12「事業所におけるイクボスの推進」として「事業所向けイクボス認定制度の創設」に関連して、次の2つの取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度女性活躍シンポジウム 「平塚市イクボスプロジェクト～働きやすいまちHiratsuka～」を開催 平成30年1月19日（金）参加者88人、無料保育付 平塚市イクボス宣言企業登録制度の登録事業所数（10事業所） <p>また、施策13「女性活躍推進のための協議」として「女性活躍推進協議会による事業所の取組促進のありかた協議」に関連して、次の取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ひらつか男女共同参画推進協議会（女性活躍推進協議会）の開催 第1回平成29年7月31日、第2回平成29年9月25日、第3回平成30年1月22日 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	企業の協力が得られるよう、関係性を築き、男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような、風土、土壌を作っていくこと。登録企業を増やすこと。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ol style="list-style-type: none"> 再就職応援セミナーを開催 平成29年3月16日（木）参加者11人 働く女性のためのキャリア開発講座を開催 平成29年2月26日（日）参加者29人 「市内企業・事業所に対する男女共同参画推進事業」平成28年度 平塚市イクボスプロジェクト～働きやすいまちHiratsuka～シンポジウムを開催 平成29年2月8日（水）参加者26人 平塚市イクボス宣言企業登録制度を創設 12月1日（木）（登録企業3社） <p>※1及び2の事業は無料保育付</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	企業の協力が得られるよう、関係性を築き、男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような、風土、土壌を作っていくこと。登録企業を増やすこと。	
	今後の事業展開とその判断理由	3、4は① 現状の規模で継続、1、2は⑥終了 平成19年度策定の「ひらつか男女共同参画プラン2007」が終了し、平成29年度から「ひらつか男女共同参画プラン2017」による事業を実施していくため。	
平成27年度	<ol style="list-style-type: none"> 再就職応援セミナーの開催（2回） 参加者28人（1回目14人、2回目14人） 働く女性のためのキャリア開発講座の開催（1回） 参加者数30人 平塚市内企業・事業所向けイクボス講演会 参加者103人 <p>※1及び2の事業は無料保育付</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	関係課へ理解を促し、協力関係を得ること。 企業の協力が得られるよう、関係性を築き、男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような、風土、土壌を作っていくこと。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

2 (6) 1	母子・父子相談の充実	担当課	こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
母子・父子家庭の自立促進のため、就労支援、母子・父子福祉資金の貸付け、母子・父子保護等を含むあらゆる相談に対応します。		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> 母子相談等の多様な相談に対応した。 母子・父子自立支援員1人配置（平成29年9月までは2人体制） 相談件数：469件（新規ケース） 相談回数：1,178件 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 母子相談等の多様な相談に対応した。 母子・父子自立支援員1人配置 相談件数：442件（新規ケース） 相談回数：1,295件 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 母子相談等の多様な相談に対応した。 母子・父子自立支援員1人配置 相談件数：477件（新規ケース） 相談回数：1,259件 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	相談充実のための母子・父子自立支援員の増員	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

2 (6) 2	母子・父子自立支援事業	担当課	こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
母子・父子家庭への支援対策として、自立支援給付金事業や日常生活支援事業を実施します。		<ul style="list-style-type: none"> ・母子・父子自立支援給付金事業を実施します。 ・母子・父子家庭日常生活支援員を派遣します。 	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> ・母子自立支援給付金制度の実施 自立支援教育訓練給付金 6件（302,778円） 高等職業訓練促進給付金等 10件（7,828,000円） ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格給付金の制度化 ・母子家庭日常生活支援員の派遣 1件 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・母子自立支援給付金制度の実施 自立支援教育訓練給付金 1件（60,000円） 高等職業訓練促進給付金等 7件（7,782,000円） 高等職業訓練修了支援給付金等 4件（200,000円） ・母子家庭日常生活支援員の派遣 1件 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 平成29年度は新制度の実施も行うため	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・母子自立支援給付金制度の実施 自立支援教育訓練給付金 1件（13,800円） 高等技能訓練促進費等 4件（4,328,000円） ・母子家庭日常生活支援員の派遣 2件 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 国の制度見直しによる拡充	
備考（その他）			

2 (6) 3	母子生活支援施設の充実	担当課	こども家庭課
---------	-------------	-----	--------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
生活、就労の支援、指導を行い、自立の促進を図ります。	入所者に対し、生活・就労の支援、指導を行い、自立の促進を図ります。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	なし	
	検証結果	評価なし
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止 平成28年度末で母子生活支援施設平塚市花水台ハイムを施設廃止したため実績なし。

平成28年度	入所者への生活、就労の支援、指導を行い、自立の促進を図った。 3世帯 11人が退所した。 年度途中で入所者が0となり、総合的に判断して年度末をもって施設廃止した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	管外施設での措置対応を図る。
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止 施設の老朽化と耐震性が無いことに加え、共同生活を望まない傾向が高まり、入所の減少傾向が続き、年度途中で入所者が0となり、今後の入所の見込みも無く、総合的に判断して年度末をもって施設廃止をする。

平成27年度	入所者への生活、就労の支援、指導を行い、自立の促進を図った。 4世帯 12人が退所した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	施設の老朽化に対応していく必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

平成28年度末で母子生活支援施設平塚市花水台ハイムを施設廃止

2 (7) 1	小児医療費の助成	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>小児医療費の助成を行います。 (平成24年4月から) 通院対象年齢…0歳児から小学校6年生まで 入院対象年齢…0歳児から中学校卒業まで</p>		<p>引続き事業を継続します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<p>小児医療費の助成を行った。 ただし、小学生以上には所得制限を設けている。 通院・入院対象年齢…0歳児から中学校卒業まで 医療証の発行数 27,231人</p>		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題	<p>国の医療制度や県の補助金制度の見直し状況、本市の財政状況等を総合的に踏まえ、制度改正について引き続き検証する。また、事業の安定的な継続のため、扶助費の増加抑制として、医療費抑制や健康管理の啓発等を行うとともに、システムの効率的な運用を図る。</p>	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>通院の助成対象を小学校6年生から中学校卒業までに年齢拡大し、小児医療費の助成を行った。 ただし、小学生以上には従来どおり所得制限を設けている。 通院・入院対象年齢…0歳児から中学校卒業まで 医療証の発行数 27,869人 医療費及び件数 医療費+手数料 816,506,315円 件数 404,229件</p>		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題	<p>国の医療制度や県の補助金制度の見直し状況、本市の財政状況等を総合的に踏まえ、制度改正について引き続き検証する。また、事業の安定的な継続のため、扶助費の増加抑制として、医療費抑制や健康管理の啓発等を行うとともに、システムの効率的な運用を図る。</p>	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>小児医療費の助成を行いました。 通院対象年齢…0歳児から小学校6年生まで 入院対象年齢…0歳児から中学校卒業まで 医療証の発行数 23,463人 助成費及び件数 医療費+手数料 728,600,805円 件数 359,296件</p>		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題	<p>事業の安定的な継続のための医療費の増加抑制策として、他課と連携した健康増進や病気やけがの予防の啓発等が課題である。</p>	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>② 拡大して継続 平成28年4月から、通院の助成対象を小学6年生から中学3年生までに対象年齢を拡大する。</p>	
備考 (その他)			

2 (7) 2	ひとり親家庭等医療費助成事業	担当課	こども家庭課
---------	----------------	-----	--------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
ひとり親家庭等の経済的負担を軽減するために医療費の一部を助成します。	引続き事業を継続します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 (暫定版)	ひとり親家庭等の経済的負担を軽減するため、医療費の助成を行った。 医療証の発行数 2,094世帯 5,211人
	検証結果 A : 成果があがった
	今後の課題 事業の安定的な継続のため、扶助費の増加抑制として、医療費抑制や健康管理の啓発等を行うとともに、システムの効率的な運用を図る。
	今後の事業展開とその判断理由 ① 現状の規模で継続
平成 28 年度	ひとり親家庭等の経済的負担を軽減するため、医療費の助成を行った。 医療証の発行数 2,172世帯 5,409人 助成費及び件数 医療費+手数料 187,202,057円 件数 70,096件
	検証結果 A : 成果があがった
	今後の課題 システムを活用した効率的な業務の運営、制度や手続きの見直しを図り、適正な医療費助成を行う。
	今後の事業展開とその判断理由 ① 現状の規模で継続
平成 27 年度	ひとり親家庭等の経済的負担を軽減するため、医療費の助成を行った。 医療証の発行数 2,276世帯 5,669人 助成費及び件数 医療費+手数料 186,497,801円 件数 70,385件
	検証結果 A : 成果があがった
	今後の課題 事業の安定的な継続のための医療費の増加抑制策として、他課と連携した健康増進や病気やけがの予防の啓発等が課題である。
	今後の事業展開とその判断理由 ① 現状の規模で継続

備考 (その他)

2 (7) 3	保育所保育料の軽減	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子どもの数や世帯の所得に応じた保育所保育料の軽減を維持します。		家庭の状況に応じた保育所保育料の軽減を継続します。	
各年度における主な取組み等			
平成 29 年度 (暫定版)	<p>保育所の保育料については、世帯の所得に応じて21階層に分けて設定している。さらに、同一世帯から2人以上が同時に保育所、幼稚園等を利用している場合には、2人目を半額、3人目以降は無料とし、兄弟姉妹のいる家庭の保育料負担の軽減措置を継続している。</p> <p>平成28年4月より、市民税額が一定額以下の世帯に対しては子の年齢や保育所等の利用に関わらず、第2子の保育料を半額、第3子以降を無料としている。</p> <p>平成28年9月からは、寡婦控除のみなし適用制度を適用し、未婚の保護者については本来の市民税額よりも低い金額で保育料を計算している。</p> <p>平成29年4月から、市民税額が一定額以下かつひとり親等の世帯に対しては、第1子の保育料を最低基準の保育料額とし、第2子以降を無料としている。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 28 年度	<p>保育所の保育料については、世帯の所得に応じて21階層に分けて設定している。さらに、同一世帯から2人以上が同時に保育所、幼稚園等を利用している場合には、2人目を半額、3人目以降は無料とし、兄弟姉妹のいる家庭の保育料負担の軽減措置を継続している。</p> <p>平成28年4月より、市民税額が一定額以下の世帯に対しては子の年齢や保育所等の利用に関わらず、第2子の保育料を半額、第3子以降を無料としている。さらに市民税額が一定額以下かつひとり親等の世帯に対しては、第1子の保育料を半額とし、第2子以降を無料としている。</p> <p>平成28年9月からは、寡婦控除のみなし適用制度を適用し、未婚の保護者については本来の市民税額よりも低い金額で保育料を計算している。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 27 年度	<p>保育所の保育料については、世帯の所得に応じて21階層に分けて設定している。さらに、同一世帯から2人以上が同時に保育所、幼稚園等を利用している場合には、2人目を半額、3人目以降は無料とし、兄弟姉妹のいる家庭の保育料負担の軽減措置を継続している。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 <small>平成28年度からは、年収360万円未満の世帯を対象に、1人目の子どもの年齢に関係なく2人目は半額、3人目以降は無料とし、さらに、年収約360万円未満相当のひとり親世帯等については、第1子の保育料を半額、第2子以降の保育料を無料とする予定である。</small>	
備考 (その他)			

2 (7) 4	幼稚園就園奨励事業	担当課	教育総務課
---------	-----------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
幼稚園等に就園する園児の保護者の経済的負担を軽減するとともに、幼児教育の振興に役立てるために市民税額に応じて幼稚園保育料等を軽減します。	子ども・子育て支援新制度による利用者負担額が適用されない幼稚園等に就園する園児の保護者の経済的負担を軽減するために市民税額に応じて保育料等を軽減します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	私立幼稚園に就園する園児の保護者2,240人に対して276,328,300円の補助金を交付した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	子ども・子育て支援新制度の開始により新制度へ移行した園とのバランスが保たれるか。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成28年度	私立幼稚園に就園する園児の保護者2,454人に対して300,130,300円の補助金を交付した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	子ども・子育て支援新制度の開始により新制度へ移行した園とのバランスが保たれるか。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成27年度	私立幼稚園などに就園する園児の保護者2,725人に対して314,284,840円の補助金を交付した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	子ども子育て支援新制度の開始により新制度へ移行した園とのバランスが保たれるか。
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 幼児教育の充実を図るため、引き続き国の就園奨励事業に基づき実施する必要がある。ただし、子ども・子育て支援新制度へ移行する園の増加により、対象となる園数が減少する可能性があるため。

備考 (その他)

平成28年度から認可外施設を本補助金の対象外としたため、「私立幼稚園など」を「私立幼稚園」に変更。

2 (7) 5	児童生徒就学援助事業	担当課	教育総務課
---------	------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
経済的な理由により就学が困難な小・中学校に就学する児童、生徒の保護者に対して、就学に要する費用の一部を助成します。	引続き、経済的な理由により就学が困難な小・中学校に就学する児童、生徒の保護者に対して、就学に要する費用の一部を助成します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	<p>経済的な理由により就学が困難と認めた児童生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学用品費、給食費などを援助している。</p> <p>【学用品費】小学生11,420円、中学生22,320円（4月1日認定者） 【通学用品費】2,230円（4月1日認定者） 【新入学用品費】小学生40,600円、中学生47,400円 【入学準備金】39,400円（小学6年生） 【校外活動費】（日帰り）小学生1,570円、中学生2,270円（宿泊）小学生3,620円以内、中学生6,100円以内 【修学旅行費】実費 【通学費】小学生39,290円以内、中学生79,410円以内 【体育実技用具費】柔道7,510円以内、剣道51,940円以内 【給食費】学校徴収額 【卒業時諸費用代】8,000円（小学6年生、中学3年生対象） 【医療費・眼鏡購入費】現物給付</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	援助費目である、新入学用品費（小学1年生対象）の前払い支給の実施のために、課題の解決に向け検討すること。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	<p>経済的な理由により就学が困難と認めた児童生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学用品費、給食費などを援助している。</p> <p>【学用品費】小学生11,420円、中学生22,320円（4月1日認定者） 【通学用品費】2,230円（4月1日認定者） 【新入学用品費】小学生20,470円、中学生23,550円 【校外活動費】（日帰り）小学生1,570円、中学生2,270円（宿泊）小学生3,620円以内、中学生6,100円以内 【修学旅行費】実費 【通学費】小学生39,290円以内、中学生79,410円以内 【体育実技用具費】柔道7,510円以内、剣道51,940円以内 【給食費】学校徴収額 【卒業時諸費用代】8,000円（小学6年生、中学3年生対象） 【医療費・眼鏡購入費】現物給付</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	援助費目である、新入学用品費（小学1年生・中学1年生対象）の前払い支給について他市の状況を踏まえ検討すること。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	<p>経済的な理由により就学が困難と認めた児童生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学用品費、給食費などを援助している。</p> <p>【学用品費】小学生11,420円、中学生22,320円（4月1日認定者） 【通学用品費】2,230円（4月1日認定者） 【新入学用品費】小学生20,470円、中学生23,550円 【校外活動費】（日帰り）小学生1,550円、中学生2,240円（宿泊）小学生3,570円以内、中学生6,010円以内 【修学旅行費・通学費】実費 【体育実技用具費】柔道7,510円以内、剣道51,940円以内 【給食費】学校徴収額 【卒業時諸費用代】8,000円（小学6年生、中学3年生対象） 【医療費・眼鏡購入費】現物給付</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	生活扶助基準の見直しに伴って申請者の生活状況が変わらないにも関わらず認定されないということがないよう認定基準の見直しを行うこと。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

3 (1) 1	幼児教育指導法の工夫・改善	担当課	教育指導課
---------	---------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
より豊かな幼児教育を実現するために幼稚園の運営や指導法等を研究します。	幼稚園の運営及び指導法の研究のために園長会及び主任・担任研究会を実施し、幼児教育の充実を図ります。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	・運営及び指導法の研究会として、園長会を4回、主任・担任研究会を11回開催した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	・運営及び指導法の研究会として、園長会を4回、主任・担任研究会を11回開催した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	・運営及び指導法の研究会として、園長会を4回、主任・担任研究会を11回開催した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

3 (1) 2	幼・保・小・中連携の推進事業	担当課	教育指導課 教育研究所
---------	----------------	-----	----------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
幼・保・小・中の指導の一貫性を図るために連携学習研究会や連携教育講演会を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・小・中の連携学習研究会等を通して指導の在り方や指導上の問題点について研究協議し、相互に理解を深め、連携や交流を推進します。 ・幼・保・小・中連携を推進するために、夏季研究教室の講座として「幼保小中連携教育講演会」を開催します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「就学前と小学校の連携」「小学校と中学校の連携」をテーマに、幼・保・小・中連携学習研究会を、ひばり幼稚園と大野中学校を会場に開催した。 <p>教育研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に幼・保・小・中連携教育講演会として國學院大學 人間開発学部 神長美津子教授を招き、幼児教育と学校教育のなめらかな接続についてご講演をいただいた。次期幼稚園教育要領の解説と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10項目)、また小学校教育を見通し、円滑な接続を図ることが大切との話であり、市内教職員にとって大変有意義な講演会となった。(参加者 38人) 	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
	検証結果	A：成果があがった						
	今後の課題							
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続						
平成28年度	<p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「就学前と小学校の連携」「小学校と中学校の連携」をテーマに、幼・保・小・中連携学習研究会を、金田小学校と金目小学校を会場に開催した。 <p>教育研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に東京ベイ・浦安市川医療センターCEO 神山 潤 氏を講師に招き、「ホントに怖い 睡眠不足症候群」との演題で、睡眠不足が脳や身体にどのような影響を及ぼすかについての講演を行った。(参加者 49人) 	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
	検証結果	A：成果があがった						
	今後の課題							
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続						
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「就学前と小学校の連携」「小学校と中学校の連携」をテーマに、幼・保・小・中連携学習研究会を、さくら幼稚園と浜岳中学校を会場に開催した。 ・幼保小中連携教育講演会を7月に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 1 「相模原市藤野地区幼保小中連携協議会代表」と「真鶴町教育委員会指導主事」による講演 2 受講者によるグループ討議 3 パネルディスカッション <p>(参加者 51人)</p>	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
	検証結果	A：成果があがった						
	今後の課題							
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続						

備考（その他）	

3 (1) 3	幼児教育の支援	担当課	教育指導課
---------	---------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
保護者の育児不安の解消と幼児の心身の健全な発達のために、幼稚園が幼児教育センター的機能として保護者の交流や教育相談等を実施します。	各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を実施します。また、各幼稚園が、地域の公民館と連携し、家庭教育学級を実施します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> 各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を行った。 実施園：4園 各幼稚園が地域の公民館と連携する中で、家庭教育学級を実施した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を行った。 実施園：5園 各幼稚園が地域の公民館と連携する中で、家庭教育学級を実施した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を行った。 実施園：5園 各幼稚園が地域の公民館と連携する中で、家庭教育学級を実施した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

3 (1) 4	生きる力を育む学校づくり推進事業	担当課	教育指導課 学校給食課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>生きる力を育む教育を展開するために、ふれあい教育、総合的な学習の時間・芸術鑑賞教室・食に関する指導等により特色ある学校づくりを推進します。</p>		<p>・子どもたちの「生きる力」を育むために学校ごとに創意工夫をこらした特色ある教育活動を推進します。 ・全小・中学校において作成された食に関する指導の年間計画に基づいて、給食時間、教科、委員会活動等で食に関する指導を実施します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい教育を推進した。 ・「総合的な学習の時間」を推進した。 ・中学校の芸術鑑賞を推進した。 ・小学校の校外学習を推進した。 ・中学校の部活動の各種大会への参加を支援した。実施校(園)：小中学校45校・幼稚園4園・認定こども園1園 <p>学校給食課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育担当者会議を1回開催 ・食に関する指導回数については、年度途中の集計は行っていないが、年間計画のとおり実施しており3月末までには前年度と同様の実績が見込まれる。 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい教育を推進した。 ・「総合的な学習の時間」を推進した。 ・中学校の芸術鑑賞を推進した。 ・小学校の校外学習を推進した。 ・中学校の部活動の各種大会への参加を支援した。実施校(園)：小中学校43校・幼稚園5園 <p>学校給食課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育担当者会議を1回開催 ・平成28年度の食に関する指導回数は、小学校1677回、中学校304回 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい教育を推進した。 ・「総合的な学習の時間」を推進した。 ・芸術鑑賞を推進した。 ・小学校の校外学習を推進した。 ・中学校の部活動の各種大会への参加を支援した。実施校(園)：小中学校43校・幼稚園5園 ・食育担当者会議を1回開催 ・平成27年度の食に関する指導回数は、小学校1522回、中学校314回 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	<p>県費栄養士配置において、正規職員が欠員となったところは、すべて臨時職員での対応となり、県費栄養士配置数減少に対し、市の予算措置(人員配置)がされない予定。県への臨時職員教育を要望するとともに、市としても支援する必要がある。</p>	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>③ 縮小して継続 予算が大幅に削減されたため。</p>	
備考（その他）			

3 (1) 5	外国人英語指導者の学校訪問事業	担当課	教育指導課
---------	-----------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語や外国の生活・文化に親しむ心を養うために外国人英語指導者が幼稚園、小・中学校を訪問します。	子どもたちの英語に対する興味・関心をさらに高め、英語や外国の生活・文化に親しむ心を養うために外国人英語指導者の増員を目指します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> 外国人英語指導者9人が小学校・中学校・幼稚園・認定こども園へ訪問した。 実施校（園）：小中学校43校・幼稚園4園・認定こども園1園 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> 外国人英語指導者9人が小学校・中学校・幼稚園へ訪問した。 実施校（園）：小中学校43校・幼稚園5園 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> 外国人英語指導者9人が小学校・中学校・幼稚園へ訪問した。 実施校（園）：小中学校43校・幼稚園5園 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

3 (1) 6	人権教育の推進	担当課	教育指導課
---------	---------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
人権教育を推進するため教職員の研修を充実します。	人権を尊重した学校教育を確立するために人権教育担当者会を開催し、学校教育における人権教育の具体的な在り方を研究します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育担当者会を3回開催した。 ・人権教育実践集を作成し、4月に小中学校45校へ配付した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育担当者会を3回開催した。 ・人権教育実践集を作成し、4月に小中学校43校へ配付した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育担当者会を3回開催した。 ・人権教育実践集を作成し、4月に小中学校43校へ配付した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

--

3 (1) 7	日本語指導協力者派遣事業	担当課	教育指導課
---------	--------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
日本語の指導が必要な児童・生徒に対して、学校における日本語指導、母国語指導、生活適応指導等を支援するため要請に応じて、日本語指導協力者を小・中学校に派遣します。	学校の要請に応じて適宜日本語指導協力者を派遣します。また、国際教室等連絡協議会を開催し、日本語指導の内容や方法について情報交換等を行います。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> ・国際教室等連絡協議会を3回開催した。 ・小中学校45校中29校に、日本語指導協力者19人を派遣した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・国際教室等連絡協議会を3回開催した。 ・幼稚園5園中2園及び小中学校43校中29校に、日本語指導協力者20人を派遣した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・国際教室等連絡協議会を3回開催した。 ・小中学校43校中30校に、日本語指導協力者20人を派遣した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

3 (1) 8	サポートチームシステム推進事業	担当課	教育指導課
---------	-----------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
小・中学生の問題行動への対策を話し合い、地域や関係機関と連携し、具体的な指導・支援を行います。	市サポート連絡会を開催するとともに、中学校区サポート委員会を各中学校区で実施します。また、個別サポートチームを必要に応じて編成し、児童・生徒への効果的な指導、支援を行います。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> 市サポート連絡会を3回開催した。 中学校区サポート委員会を各中学校区で実施した。 個別サポートチームの編成を必要に応じて検討した。 	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 市サポート連絡会を3回開催した。 中学校区サポート委員会を各中学校区で実施した。 個別サポートチームの編成を必要に応じて検討した。 	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 市サポート連絡会を3回開催した。 中学校区サポート委員会を各中学校区で実施した。 個別サポートチームを必要に応じ編成し、支援した。 	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

3 (1) 9	中学校部活動指導者派遣事業	担当課	教育指導課
---------	---------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
中学校における部活動育成及び活性化のため、各学校の要請に応じ、専門的資質を有する部活動指導者を顧問の指導協力者として派遣します。	中学校の要請に応じ、専門的資質を有する部活動指導者を顧問の指導協力者として派遣します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の要請に応じ、部活動の地域指導者延べ108人を派遣した。 	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の要請に応じ、部活動の地域指導者延べ107人を派遣した。 	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の要請に応じ、部活動の地域指導者延べ121人を派遣した。 	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

3 (1) 10	学校支援ボランティアの活用	担当課	教育指導課
----------	---------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
学校の教育活動の充実と開かれた学校づくりのために学校支援ボランティア等地域の人々の教育力を活用します。	各学校の実情に合わせ、ボランティアの活用を図るための必要な支援を行います。

各年度における主な取組み等

平成29年度（暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の実情に合わせ、ボランティアの活用を図るための支援を行った。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の実情に合わせ、ボランティアの活用を図るための支援を行った。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の実情に合わせ、ボランティアの活用を図るための支援を行った。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

3 (1) 11	教材・教具等の充実	担当課	教育総務課
----------	-----------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
学習環境の向上のため、教材・教具、学校図書等を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> 理科教材の充実のために各小・中学校に予算を配当する他、理科教育設備整備費補助金を活用し、理科教育設備基準に対する整備率を向上させます。 学校図書館図書の充実のために各小・中学校に予算を配当し、学校図書館図書標準に基づき蔵書数を増やします。

各年度における主な取組み等

平成29年度（暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館図書整備率の充足に向け、小学校1校あたり平均30万6千円、中学校1校あたり平均38万3千円を学校図書館図書購入費用として各学校に配当した。 理科教育等教材整備基準の整備率を充足するため、小学校3校に1校あたり平均7万6千円、中学校5校に1校あたり平均11万円を理科教材購入費用として配当した。 文部科学省の理科教育設備整備事業を活用し、小学校約42万円、中学校約64万円分の教材を購入した。 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	該当する予算が縮小されれば、計画通り整備が進まなくなることが懸念されるため、ほかの事業とのバランスも考慮しつつ予算を確保できるかが課題となっている。また、古い図書や理科教材の廃棄が進むと、計画通りに蔵書率・整備率が向上しないことも想定される。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館図書整備率の充足に向け、小学校1校あたり平均25万8千円、中学校1校あたり平均33万円を学校図書館図書購入費用として各学校に配当した。 理科教育等教材整備基準の整備率を充足するため、中学校1校あたり平均6万1千円を理科教材購入費用として各学校に配当した。 文部科学省の理科教育設備整備事業を活用し、小学校約21万円、中学校約32万円分の教材を購入した。 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	計画通りに進めるためには、相応の予算が必要であるが、今後も厳しい財政状況が続くことが見込まれ、ほかの事業とのバランスも考慮するなかで、予算確保ができるか。また、古い図書の廃棄が進むと、計画通りに蔵書率が向上しないことも想定される。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館図書整備率の充足に向け、小学校1校あたり平均34万8千円、中学校1校あたり平均42万3千円を学校図書館図書購入費用として各学校に配当した。 理科教育等教材整備基準の整備率を充足するため、小学校1校あたり平均1万円、中学校1校あたり平均17万3千円を理科教材購入費用として各学校に配当した。 文部科学省の理科教育設備整備事業を活用し、小学校約42万円、中学校約64万円分の教材を購入した。 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	該当する予算が縮小された場合、当初の計画どおりの進捗とならないことが懸念される。また、古い図書の廃棄が進むと、計画通りに蔵書率が向上しないことも想定される。
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 限られた財源で様々な事業を行わなければならない中で、本事業の拡大、現状維持が難しくなっているため。

備考（その他）

3 (2) 1	教育相談体制の充実事業	担当課	子ども教育相談センター
---------	-------------	-----	-------------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
<p>児童・生徒の様々な問題を解決するために相談スタッフを充実するとともに、訪問相談事業、各種研修会・研究会を実施します。</p>	<p>研修会等の内容や講師の選定に努め、より良い支援ができるように事業の内容を充実させます。</p>

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<p>専任の相談員による発達障がいのある児童・生徒に対する学校巡回相談を実施 支援対象児童生徒464人 訪問回数延べ78回 専任の相談員による不登校児童・生徒に対する訪問相談を実施 5ケース 訪問回数延べ307回 スーパーバイザーによる「教育相談所内研修会」 9回開催 参加人数延べ161人 学校訪問事例研究会 5回開催 参加人数延べ119人 教育相談コーディネーター担当者会 4回開催 参加人数延べ122人 (3回分の人数。あとの1回は、夏季教育相談・支援教育研修会いずれかへの参加) 機関誌「そうだん」の発行 (予定)</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	専任の相談員による発達障がいのある児童・生徒に対する巡回相談の実施により適切な対応・支援を行った。しかし、発達障がいのある児童・生徒の不登校は増加傾向にあり、今後も切れ目のない支援体制を構築していく必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 発達障がいのある児童・生徒が安心して学校生活を送れるように、巡回相談による就学移行支援、継続支援を行う。支援対象児童は増加しており、相談依頼の増加に対して十分な対応・支援が行えるようにする必要がある。

平成28年度	<p>専任の相談員による不登校児童・生徒に対する訪問相談を実施 8ケース 訪問回数延べ302回 スーパーバイザーによる「教育相談所内研修会」 10回開催 参加人数延べ165人 学校訪問事例研究会 4回開催 参加人数延べ89人 教育相談コーディネーター担当者会 4回開催 参加人数延べ119人 (3回分の人数。あとの1回は、夏季教育相談・支援教育研修会いずれかへの参加) 訪問相談学生派遣 21日派遣 機関誌「そうだん」の発行</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	教育相談により適切な対応・支援を行い、教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導を行った。しかし、発達障がいのある不登校児童・生徒の増加に対して、切れ目のない支援体制を構築することで、学校関係者の発達障がいのある子どもへの理解を深め、子どもたちが安心して学校生活を送れるようにする必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 発達障がいのある児童・生徒が安心して学校生活を送れるように、巡回相談員が学校を巡回して移行支援、継続支援並びに、教員、保護者の相談を行う必要がある。

平成27年度	<p>専任の相談員による不登校児童・生徒に対する訪問相談を実施 7ケース 訪問回数延べ274回 スーパーバイザーによる「教育相談所内研修会」 11回開催 参加人数延べ163人 学校教育相談研修会 5回開催 参加人数延べ312人 学校訪問事例研究会 5回開催 参加人数延べ117人 教育相談コーディネーター担当者会 4回開催 参加人数延べ157人 訪問相談学生派遣 18日派遣 機関紙「そうだん」の発行</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	児童・生徒の問題解決に向けて、活用できる資源の収集や関係機関との連携がより重要となっている。支援のあり方を実践的に学び、よりよい支援につながるよう研修会の実施の仕方に工夫が必要。
	今後の事業展開とその判断理由	⑦ 他事業と統合 次期総合計画策定の中で、研修会の実施の仕方を工夫していく必要があると判断したため、その部分を研修・研究推進事業とし、訪問相談学生派遣に関しては、教育相談事業の中にボランティアとして位置付ける。

備考 (その他)	
----------	--

3 (2) 2	スクールカウンセラー派遣事業	担当課	子ども教育相談センター
---------	----------------	-----	-------------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
児童・生徒の様々な問題を解決するために本人や保護者のカウンセリングと教職員を支援するスクールカウンセラーを小・中学校に派遣します。	スクールカウンセラーを年間15人派遣し、全小・中学校に配置していきます。その後は勤務日の増加を目指します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校11校での相談活動内容(平成29年9月末現在) 教室巡回1,221回、教室等でのエクササイズ0回、外部関係者・機関との情報交換70回、教職員向け研修会3回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席50回、校内支援会議への参加98回、家庭訪問66回、その他6回 計1,514回 来室相談延べ人数:小学生881人、中学生378人、小学生保護者554人、中学生保護者157人、小学校教員1,455人、中学校教員610人 計4,035人 電話相談延べ人数:小学生5人、中学生1人、小学生保護者100人、中学生保護者61人、小学校教員1人、中学校教員2人 計170人 来室相談内容延べ人数:長期欠席1,001人、いじめ6人、暴力行為156人、児童虐待39人、友人・異性483人、非行・不良行為25人、親子関係232人、教職員との関係110人、心身の健康・保健381人、自己性格370人、学習進路216人、発達725人、その他196人、被災関係3人 電話相談内容延べ人数:長期欠席74人、いじめ0人、暴力行為0人、児童虐待1人、友人・異性3人、非行・不良行為4人、親子関係11人、教職員との関係2人、心身の健康・保健20人、自己性格28人、学習進路2人、発達19人、その他10人、被災関係0人	
	検証結果	A:成果があがった
	今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができた。残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。その後、保護者や学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 スクールカウンセラーを全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。
平成28年度	13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校11校での相談活動内容 教室巡回2,306回、教室等でのエクササイズ20回、外部関係者・機関との情報交換143回、教職員向け研修会8回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席137回、校内支援会議への参加229回、家庭訪問102回、その他4回 計2,949回 来室相談延べ人数:小学生1,796人、中学生913人、小学生保護者1,103人、中学生保護者267人、小学校教員2,163人、中学校教員977人 計7,219人 電話相談延べ人数:小学生14人、中学生50人、小学生保護者133人、中学生保護者193人、小学校教員3人、中学校教員4人 計397人 来室相談内容延べ人数:いじめ74人、長期欠席2,310人、暴力行為176人、学習進路392人、親子関係439人、友人異性916人、自己性格979人、身体健康288人、発達1,199人、その他446人、被災関係0人 電話相談内容延べ人数:いじめ8人、長期欠席166人、暴力行為11人、学習進路9人、親子関係30人、友人異性16人、自己性格42人、身体健康20人、発達41人、その他54人、被災関係0人	
	検証結果	A:成果があがった
	今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。まずは2人の増員し、その後勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 スクールカウンセラーを年間15人派遣、全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。
平成27年度	13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校11校での相談活動内容 教室巡回2,446回、外部関係者・機関との情報交換157回、教職員向け研修会4回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席91回、校内支援会議への参加160回、家庭訪問40回、その他20回 計2,918回 来室相談延べ人数:小学生1,838人、中学生858人、小学生保護者1,012人、中学生保護者299人、小学校教員2,073人、中学校教員732人 計6,812人 電話相談延べ人数:小学生36人、中学生60人、小学生保護者202人、中学生保護者114人、小学校教員4人、中学校教員4人 計420人 来室相談内容延べ人数:いじめ81人、長期欠席1,779人、暴力行為90人、学習進路545人、親子関係523人、友人異性860人、自己性格1,490人、身体健康272人、その他1,172人 電話相談内容延べ人数:いじめ10人、長期欠席144人、暴力行為2人、学習進路30人、親子関係19人、友人異性48人、自己性格95人、身体健康22人、その他50人	
	検証結果	A:成果があがった
	今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。2人の増員とその後は、勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 スクールカウンセラーを年間15人派遣、全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。

備考 (その他)

4 (1) 1	交通安全啓発推進事業	担当課	交通政策課
---------	------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
幼稚園、保育所、学校等において交通安全教室を開催し、交通事故防止と交通安全の啓発を行います。	交通ルールやマナーの周知を継続的に実施し、交通事故防止と交通安全意識の向上を図ります。

各年度における主な取組み等

平成29年度（暫定版）	交通安全教室実施回数 191回（平成29年12月末現在）	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	交通安全教室の実施依頼がない幼稚園、保育所（園）、小学校等にも周知を行い、少しでも多くの学校等で交通安全教室を実施できるように努める。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	交通安全教室実施回数 215回	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	現在、交通安全教室の実施依頼がない幼稚園、保育園等にも交通安全教室を実施してもらえるように周知していく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	交通安全教室実施回数 222回	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	自治会等からの急な依頼があった際、交通安全教育指導員の日程が埋まってしまっている場合があるので、交通政策課職員で代行できるようにしていく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

--

4 (1) 2	歩道設置事業	担当課	道路整備課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
歩行者の安全を確保するために主要幹線道路に歩道を新設します。		幹道10号(城所線)や入野5号線等に、歩道等を設置し歩行者の安全を確保します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	整備延長 161m 後谷八幡裏線 59m 平塚駅桃浜町線 102m		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題	幹線道路の歩道整備には、用地買収、物件補償費、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	整備延長 274m 駅前通り線 94m 吉沢土屋線 93m 浅間町南原線 50m 城所線 37m		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題	幹線道路の歩道整備には、用地買収、物件補償費、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	整備延長 114m 城所線 48m 北金目真田線 66m		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題	幹線道路の歩道整備には、相当な費用を要するため、計画的に事業を進める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (1) 3	通学路合同点検事業	担当課	教育総務課
---------	-----------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
通学路の安全を確保するため、各学校からあげられた通学路の危険箇所を学校、保護者、自治会等地域住民、警察、道路管理者等で通学路の合同点検を実施し、安全対策案の検討・対策の実施を進めます。	合同点検を実施し、安全対策案の検討・対策の実施を進めます。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<p>通学路合同点検を4日開催した。 通学路交通安全推進会議を2回開催した。</p> <p>合同点検実施学校数：22校 合同点検実施箇所数：36箇所</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	P D C A サイクルとして繰り返し実施し、事業の改善・充実を図る必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<p>通学路合同点検を4日開催した。 通学路交通安全推進会議を2回開催した。</p> <p>合同点検実施学校数：19校 合同点検実施箇所数：33箇所</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	P D C A サイクルとして繰り返し実施し、事業の改善・充実を図る必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<p>通学路合同点検を5日開催した。 通学路交通安全推進会議を2回開催した。</p> <p>合同点検実施学校数：22校 合同点検実施箇所数：53箇所</p>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	P D C A サイクルとして繰り返し実施し、事業の改善・充実を図る必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

4 (2) 1	地域安全運動の推進	担当課	危機管理課
---------	-----------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが犯罪に巻き込まれないように市民の防犯意識の高揚を図るため、関係団体が連携した地域安全運動や地域安全運動推進大会、研修会等を実施します。 地域の防犯活動を支援します。 	警察機関や防犯協会と連携し、事業を実施します。

各年度における主な取組み等

平成29年度（暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> 地域安全運動推進大会の実施（168人参加） 安全・安心まちづくり旬間、年末年始特別警戒期間、毎月10日（防犯の日）等に地域安全運動等を実施 防犯啓発のぼり旗、防犯啓発看板、防犯啓発グッズの配布を随時実施 地域見守り花植え活動の実施（チューリップの球根を23支部に配布） 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	地域見守り花植え活動の拡大
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 地域安全運動推進大会の実施（207人参加） 安全・安心まちづくり旬間、年末年始特別警戒期間、毎月10日（防犯の日）等に地域安全運動等を実施 防犯啓発のぼり旗、防犯啓発看板、防犯啓発グッズの配布を随時実施 地域見守り花植え活動の実施（チューリップの球根を17支部に配布） 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	地域見守り花植え活動の拡大
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 地域安全運動推進大会の実施（205人参加） 安全・安心まちづくり旬間、年末年始特別警戒期間、毎月10日（防犯の日）等に地域安全運動等を実施 防犯啓発看板やのぼり旗、防犯啓発グッズの配布を随時実施 地域見守り花植え活動の実施（チューリップの球根を14支部に配布）、（富士見地区をモデル地区として支部内公園や小学校にて花植え活動の実施） 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	地域見守り花植え活動の拡大
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続

備考（その他）

--

4 (2) 2	地域安全施設整備事業	担当課	危機管理課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが犯罪に巻き込まれないように防犯街路灯を設置します。 自治会等の団体が管理する防犯街路灯の設置や維持管理を支援します。 		自治会等の要望や意見を取入れながら、事業を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> 防犯街路灯の新設110灯 防犯街路灯維持管理補助金 (15団体計154灯に補助) 防犯カメラ設置補助金 (5団体10台に補助) 		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 自治会が設置した防犯街路灯用自立柱の維持管理方法の検討 未整備箇所への防犯街路灯の整備 	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 防犯街路灯の新設105灯 防犯街路灯維持管理補助金 (16団体計404灯に補助) 防犯街路灯設置補助金 (1団体13灯に補助) 自治会が管理をしていた防犯街路灯のLED化の完了 		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 自治会が設置した防犯街路灯用自立柱の維持管理方法の検討 未整備箇所への防犯街路灯の整備 	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 ・平成29年度から自治会向けの防犯カメラ設置補助金の運用を開始するため。	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 防犯街路灯の新設62灯 防犯街路灯維持管理補助金 (147団体計8,721灯に補助) 防犯街路灯設置補助金 (50団体238灯へ補助) 		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 自治会が管理をする防犯街路灯のLED化 高騰する電気料金の抑制と防犯街路灯の整備・維持管理の両立 	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 自治会から移管を受けた防犯街路灯の早期LED化を進める予定であるため。	
備考 (その他)			
<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に防犯街路灯設置補助金を廃止 平成29年度から防犯カメラ設置補助金の運用を開始 			

4 (2) 3	学校（園）の安全対策事業	担当課	教育総務課
---------	--------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
子どもの登下校時の安心・安全を確保するために自転車や公用車による巡回パトロールを行います。	引続き事業を継続します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 （暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> ・新1年生下校時に実施（4月） ・秋季休業開始時に実施（10月） ・その他事件事故発生時等に、随時学区内の巡回を実施 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新1年生下校時に実施（4月） ・秋季休業開始時に実施（10月） ・その他事件事故発生時等に、随時学区内の巡回を実施 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新1年生下校時に実施（4月） ・秋季休業開始時に実施（10月） ・その他事件事故発生時等に、随時学区内の巡回を実施 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

4 (2) 4	通学路安全対策事業	担当課	教育総務課
---------	-----------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
児童・生徒の安心・安全な通学を確保するために、地域との連携により、あいさつ運動の推進や通学路の環境を整備します。	学校との連携により、児童・生徒が安全で安心して通学できる環境づくりを進める地域団体に対し、通学路安全対策事業の経費を補助します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	地域、学校等と連携して通学路の安全対策を進める8の団体に対して、横断旗、パトロールベストなどの補助として総額317,582円を交付した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	地域、学校等と連携して通学路の安全対策を進める8の団体に対して、横断旗、パトロールベストなどの補助として総額320,000円を交付した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	地域、学校等と連携して通学路の安全対策を進める9の団体に対して、横断旗、パトロールベストなどの補助として総額388,184円を交付した。	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	助成予定数に対し申請件数が下回る傾向が見受けられ、幅広く制度を周知する必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 申請件数が助成予定数を下回る傾向が続く場合は、制度の見直しを検討する必要がある。

備考（その他）

4 (2) 5	子どもの安全対策の推進	担当課	社会教育課
---------	-------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
市内の各中学校区の地域教育力ネットワーク協議会が行う「こどもサポート看板」の設置・管理を支援し、子どもの安全確保に努めます。	市内の公共施設、住宅、店舗等への「こどもサポート看板」の設置に協力いただける件数を増やします。

各年度における主な取組み等

平成29年度（暫定版）	看板設置枚数（各地区実績）が集約されるのは、平成30年5月頃。	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	小学1年生へのチラシ配布、小・中学校へのポスター掲示や広報ひらつかへの掲載等を行っているが、今後も保護者や地域諸団体への更なる周知が必要。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	看板設置枚数 2,095枚	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	小学1年生へのチラシ配布、小・中学校へのポスター掲示や広報ひらつかへの掲載等を行っているが、今後も保護者や地域諸団体への更なる周知が必要。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	看板設置枚数 2,079枚	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	保護者、地域諸団体への周知。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

4 (3) 1	安全対策の推進	担当課	みどり公園・水辺課 総合公園課 青少年課
---------	---------	-----	----------------------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
公園等の点検・整備を行い、子どものあそび場の安全確保に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・直営による公園施設の点検において、ベンチや一般的な遊具等の共通項目だけでなく、公園特性に応じた附帯的な施設についても、細やかな部分まで点検を行い、安全管理を徹底します。 ・安全にあそぶことができる広場にするために定期的な巡回点検を行い、修繕等を実施します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 （暫定版）	みどり公園・水辺課 ・市内の公園施設の点検を10回（うち6回は遊具のみ点検）実施。 ・各公園愛護会による公園内異常の早期通報活動を実施。 ・公園内の草刈、樹木剪定を実施。 総合公園課 ・総合公園において、毎日の日常点検および専門業者による遊具の保守点検を実施。 ・点検・指摘等により発見された遊具の修繕の実施。 ・公園外周の樹木を強剪定し、外部からの見通しと明るさ及び落枝の安全性の改善を図った。 青少年課 ・市内15か所の青少年広場、ちびっ子広場の管理。横内児童遊園の草刈、江南児童遊園の伐採、古真土ちびっ子広場のフェンス修繕、寺分ちびっ子広場のフェンス修繕	<ul style="list-style-type: none"> ・点検時、老朽化した遊具の確認、撤去を実施。 ・要望、苦情に基づいて市内公園の巡回を実施。 ・公園遊具の事故件数0件。
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	安全第一が求められるため、経年劣化してしまった遊具の修繕か撤去等の判断基準が必要とされており課題である。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 遊具の更新が実現するまでは、既存の施設の延命を図っていくため。
平成 28 年度	みどり公園・水辺課 ・市内の公園施設の点検を10回（うち6回は遊具のみ点検）実施。 ・各公園愛護会による公園内異常の早期通報活動を実施。 ・公園内の草刈、樹木剪定を実施。 総合公園課 ・毎日の日常点検および専門業者による遊具の保守点検を実施。 ・点検・指摘等により発見された遊具の修繕の実施。 ・子どもの見守り協力についての園内放送の実施。 青少年課 ・市内15か所の青少年広場、ちびっ子広場の管理。横内児童遊園の草刈、中宿子ども広場のネット修繕、大神児童遊園の遊具修繕、松が丘青少年広場の看板作成、古真土ちびっ子広場のフェンス修繕	<ul style="list-style-type: none"> ・点検時、老朽化した遊具の確認、撤去を実施。 ・要望、苦情に基づいて市内公園の巡回を実施。 ・公園遊具の事故件数0件。
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	安全第一が求められるため、経年劣化してしまった遊具の修繕か撤去等の判断基準が必要とされており課題である。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の公園施設の点検を10回（うち6回は遊具のみ点検）実施。 ・各公園愛護会による公園内異常の早期通報活動を実施。 ・公園内の草刈、樹木剪定を実施。 総合公園において、毎日の日常点検および専門業者による遊具の保守点検を実施。 ・点検・指摘等により発見された遊具の修繕の実施。 ・子どもの見守り協力についての園内放送の実施。 ・市内15か所の青少年広場、ちびっ子広場の管理。 横内児童遊園の草刈、寺分ちびっ子広場のフェンス修繕、今里西ちびっ子広場の樹木剪定、松が丘青少年広場のフェンス修繕、古真土ちびっ子広場の看板・ブランコ・フェンス修繕、すのこ橋ちびっ子広場のフェンス修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・点検時、老朽化した遊具の確認、撤去を実施。 ・要望、苦情に基づいて市内公園の巡回を実施。 ・公園遊具の事故件数0件。
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	安全第一が求められるため、経年劣化してしまった遊具の修繕か撤去等の判断基準が必要とされており課題である。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

4 (3) 2	公園整備事業	担当課	みどり公園・水辺課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
公園等を計画的に整備するとともに、整備の際は子どもの発育段階に応じた遊具の設置、配置等を考慮し、あそび場の確保を図ります。		公園長寿命化計画を策定し、子どもの発育段階に対応した遊具を計画的に整備・補修します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 （暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> 松風公園の複合遊具設置工事 山下東公園のコンクリート遊具改修工事（平成29年～平成31年継続事業） めぐみが丘中央公園、公所公園の揺動遊具設置工事 公園の長寿命化に向け、市内の公園を対象に「公園管理指針」並びに「公園管理基準」の作成を進めている。「公園管理指針」を基に「公園管理基準」を作成し、その基準に従い、施設の長寿命化を図っていく。優先順位をつけ、効率的かつ経済的に施設の維持管理を進める。 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	来園者が安心・安全に施設の利用ができるよう、長寿命化を図る公園や施設の選定を行い、計画的な整備、維持管理の手法について検討を進める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 須賀公園の少年用野球グラウンドの拡幅整備（平成26年～平成28年継続事業。平成28年完了） 平塚市総合公園の競技場トラックの改修工事（総合公園課依頼案件） 馬入ふれあい公園の人工芝サッカー場の張替工事（総合公園課依頼案件） 公園の長寿命化に向け、市内の公園を対象に「公園管理基準」の作成をおこなっている。「公園管理基準」の中で、施設の長寿命化を図っていく公園の基準を設けることで、効率的かつ経済的に施設の維持管理を進め、優先順位をつける必要がある。 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	「公園管理基準」により、長寿命化を図る対象公園の選定を行っているが対象公園内の全施設について、予防保全型の維持管理を行っていくには、膨大な維持管理費が必要となるため、今後、対象とする施設の検討をさらに進めていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 須賀公園の少年用野球グラウンドの拡幅整備（平成28年度継続工事） 規模および施設数を基に公園長寿命化計画策定公園を選定。 公園長寿命化計画策定費用の算出。 公園長寿命化計画策定後の維持管理費の縮減額の算出。 		
	検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった	
	今後の課題	計画策定を予定している公園内の全施設について定期的な予防保全型の維持管理を行っていくためには、膨大な維持管理費が必要となるため、今後対象とする施設の再検討を要する。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 計画策定の対象とする施設の再検討を行う必要性はあるが、遊具については利用者の安全性確保が不可欠であるため現状の規模で継続する必要がある。	
備考（その他）			

4 (4) 1	歩道のバリアフリー化事業	担当課	道路整備課
---------	--------------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
歩行者の安全性向上と障がい者や高齢者等に優しいまちづくりを進めるために歩道の段差解消等の改良をします。	平塚市バリアフリー基本構想に位置づけられた生活関連経路である幹道34号（南町通東浅間線）等の歩道の段差解消等の改良をします。

各年度における主な取組み等

平成29年度（暫定版）	段差解消 37ヶ所	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	段差解消 84ヶ所	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	段差解消 40ヶ所	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

4 (4) 2	ノンステップバス推進事業	担当課	交通政策課
---------	--------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
高齢者や障がい者を始めとした全ての市民のバスによる移動の利便性や安全性の向上を図るために、市内を運行するバス事業者に対してノンステップバスの導入を支援します。	ノンステップバス導入率の向上に向け、バス事業者と連携を図りながら、導入を支援します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	バス事業者に対しノンステップバスの導入を補助し、バス事業者がノンステップバス24台を導入する予定。(累計96台)	
	検証結果	A:成果があがった
	今後の課題	市域を跨ぐ路線では、管轄の営業所によってノンステップバスの車両数に差がある。ノンステップバスの導入を広域的に進めていくには、営業所の所在の有無に関係なく補助を行うことができる制度が必要であり、引き続き神奈川県に対して車両購入に対する補助制度の創設を要望していく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	バス事業者に対しノンステップバスの導入を補助し、バス事業者がノンステップバス18台を導入しました。(累計72台)	
	検証結果	A:成果があがった
	今後の課題	市域を跨ぐ路線では、管轄の営業所によってノンステップバスの車両数に差がある。ノンステップバスの導入を広域的に進めていくには、営業所の所在の有無に関係なく補助を行うことができる制度が必要であり、引き続き神奈川県に対して車両購入に対する補助制度の創設を要望していく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	平成27年度のノンステップバス導入支援(12台)に対し、補助金を交付した。(累計54台)	
	検証結果	A:成果があがった
	今後の課題	本事業の継続とともに、広域的な視点による導入率向上のため、神奈川県に対して補助制度の創設を要望していく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)	

4 (5) 1	環境実態調査	担当課	青少年課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
県が主催する青少年を取巻く環境実態調査に協力し現地調査をします。		現状通りの調査を継続して行う予定となっています。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 （暫定版）	<p>県と市町村が連携して次のとおり社会環境実態調査を実施した。</p> <p>平成29年度は、コンビニエンスストア、インターネットカフェ・まんが喫茶、複合店等を対象に主に7月から9月までの間に青少年指導員が店舗を訪問して調査を行った。（崇善、港、豊田、勝原、山下の5地区で実施）</p> <p>《主な調査項目》</p> <p>コンビニエンスストア：酒類・たばこ販売時の年齢確認、有害図書類（本・雑誌等）、同（映像ソフト）</p> <p>インターネットカフェ・まんが喫茶：条例に基づく措置、客席の状況</p> <p>複合店等：有害図書類（本、雑誌等）、同（映像ソフト）、Z区分ゲームソフト</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>県と市町村が連携して次のとおり社会環境実態調査を実施した。</p> <p>平成28年度は、カラオケボックス、インターネットカフェ・まんが喫茶、書店を対象に主に7月から9月までの間に青少年指導員が店舗を訪問して調査を行った。（崇善、富士見、花水、旭、神田の5地区で実施）</p> <p>《主な調査項目》</p> <p>カラオケボックス：営業時間、条例に基づく措置、客席の状況</p> <p>インターネットカフェ・まんが喫茶：条例に基づく措置、客席の状況</p> <p>書店：有害図書類（本、雑誌等）、同（映像ソフト）</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>市内にあるカラオケボックス店、インターネットカフェ、まんが喫茶店を調査</p> <p>平成23年度から調査を効率的、効果的に行うため、従来あった「社会環境実態調査」と「有害図書類区分陳列等調査」を統合して、「社会環境実態調査」として実施している。</p> <p>《調査内容》</p> <p>カラオケボックス：店舗名、所在地、部屋数、深夜営業の状況、条例に基づく措置、自主規制等店舗の状況</p> <p>インターネットカフェ・まんが喫茶：店舗名、所在地、営業区分、客席の状況、深夜営業の状況、条例に基づく措置、自主規制等店舗の状況</p> <p>書店：店舗名、所在地、営業区分、有害図書類販売物の有無、包装方法、区分陳列方法、サンプルディスプレイの状況等</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

4 (5) 2	違反屋外広告物除去事業	担当課	まちづくり政策課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>道路における違反屋外広告物（風俗看板等）の掲示により、青少年の育成上に悪影響を与えることになるため、この問題を未然に防止することを目的とします。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の除却キャンペーンの開催を継続して行います。 ・職員による巡回、地域のボランティアの協力等により除却活動を継続していきます。 	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> ・違反屋外広告物の除却キャンペーンを開催。 （実施回数：1回 参加者：ボランティア21人、事業者3人、警察署員2人、職員22人 除却枚数：130枚） ・市内各地（景観重点区域等）で違反屋外広告物の除却活動を開催予定。（平成30年3月） 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	青少年の育成上に悪影響を与える違反屋外広告物が市内全域で減少している。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物適正化旬間において、平塚駅前周辺及び景観重点区域にて違反屋外広告物の除却活動を実施。 （実施回数：4回、参加者：職員4人、除却枚数：130枚） ・違反屋外広告物の除却キャンペーンを開催。 （実施回数：1回 参加者：ボランティア21人、事業者3人、警察署員2人、職員22人 除却枚数：130枚） ・景観重点区域で違反屋外広告物の除却活動を開催。 （実施回数：2回 参加者：ボランティア16人、職員4人 除却枚数：172枚） 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	駅周辺における違反屋外広告物の掲出枚数が減少してきていることから活動地域の見直しや除却ボランティアとの活動回数の拡充等が必要。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物適正化旬間において、国道、県道、市幹道にて違反屋外広告物の除却活動を実施。 （実施回数：2回 参加者：職員4人 除却枚数：110枚） ・違反屋外広告物の除却キャンペーンを開催。 （実施回数：1回 参加者：ボランティア31人、事業者3人、警察署員：2人、職員28人 除却枚数：151枚） 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	新たな除却協力員の確保。活動回数の拡充。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

5 (1) ①1	妊婦健康診査	担当課	健康課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>順調な妊娠経過を経て、母子ともに健全な出産を迎えることができるように妊婦健康診査の受診を促します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 定期的な受診し、医師や助産師等のアドバイスを受けて、自分自身で健康管理に取り組むことができるよう受診勧奨を行います。 受診状況〔母体の疾患、健康状態（血圧、血糖値、尿たんぱく等）、胎児の発育状況等〕の確認を行い、実態把握に努めます。 	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> 母子手帳交付時の面接で妊婦健診の必要性について伝えている。母子手帳の発行が極端に遅い、経済的な基盤が不安定など未受診となりそうな妊婦に対しては、出産まで継続的に連絡を取り受診勧奨をおこなったり、医療機関と連携して支援を続けている。 健診受診後の経過の把握については、ハイリスク者（未受診、健診の回数が極端に少ない等）は医療機関及び関係機関と連携し対応しているが、それ以外の妊婦については、医療機関との連携が取れていないため十分にできていない。出産後、こんにちは赤ちゃん訪問時、妊娠中の経過及び受診状況について確認している。 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 母子健康手帳交付時に厚生労働省が作成している「妊婦健診を受けましょう」「母子感染を知っていますか？」リーフレットを配布している。 妊婦健康診査費用の助成額を増額した。妊婦健康診査第1回目受診率94.1%。 未受診、健診の回数が極端に少ない、初診22週以降等で周産期から行政と連携を取る必要があると判断した場合、医療機関から連絡がある。また、母子健康手帳交付が22週以降、経済的基盤が不安定で医療機関と連携が必要と判断した場合、行政側から医療機関に連絡をしている。行政と医療機関で連携が図れている。 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 母子健康手帳交付時に厚生労働省が作成している「妊婦健診を受けましょう」「母子感染を知っていますか？」リーフレットを配布している。 妊婦健康診査第1回目受診率 96.5% 未受診、健診の回数が極端に少ない、初診22週以降等で周産期から行政と連携を取る必要があると判断した場合、医療機関から連絡がある。また、母子健康手帳交付が22週以降、経済的基盤が不安定で医療機関と連携が必要と判断した場合、行政側から医療機関に連絡をしている。行政と医療機関で連携が図れている。 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 妊婦の経済的負担の軽減及び定期的な受診を促す目的で、妊婦健康診査費用の公費助成額を増額する。	
備考（その他）			

5 (1) ①2	妊産婦の相談の充実	担当課	健康課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>妊娠早期から産後までの心身の変化や不安等の相談に対応できるよう体制を整備します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付状況の確認を行います。 ・母子健康手帳交付時の保健指導体制を整備します。 ・妊娠時期に合わせた健康管理に必要な情報提供と相談体制を整備します。 ・ハイリスク者に対する関係機関との連携強化を行います。 	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実現するため、保健センター3階に「子育て世代包括支援センター ひらつかネウボラールーム はぐくみ」を開設した。母子健康手帳交付窓口を1本化し、全妊婦に対して面接を行い、早期にリスクを把握、妊娠・出産・子育てに関する悩みの相談や情報提供、支援プランの作成、関係機関との連携により、必要な支援に繋げている。 ・妊娠11週以下での届出率 93.3% ・ハイリスク者を早期に把握し、支援する目的で妊娠届出書にアンケートを追加した。 妊娠中のフォロー件数 104件（妊娠届数の8.3%） 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	産後ケアの支援の充実	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・市内各所における母子健康手帳の発行状況について確認を実施。 妊娠11週以下での届出率 94.0% ・ハイリスク者を早期に把握し、支援する目的で妊娠届出書にアンケートを追加した。 妊娠中のフォロー件数 223件（妊娠届数の12.1%） 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 <small>平成29年度より、子育て世代包括支援センター「ひらつかネウボラールーム はぐくみ」を開設し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施するため、保健師などの専門職員が母子健康手帳の交付、妊娠・出産・子育てに関する悩みの相談や情報提供などを行い、関係機関との連携により必要な支援につなげる。</small>	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・市内各所における母子健康手帳の発行状況について確認を実施。 妊娠11週以下での届出率 92.1% ・母子健康手帳発行時の保健指導体制整備のために、妊娠届出書の見直しを実施。 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 平成28年度より妊婦の身体的・精神的・社会的状況の把握を行うため、妊娠届出時にアンケートを実施する。	
備考（その他）			

5 (1) ①3	妊産婦への教育の充実	担当課	健康課
----------	------------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
<p>順調な妊娠経過を経て、母子ともに健全な出産を迎えることができるように母自身の将来の生活習慣病予防に向けて、妊産婦への教育を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中からの健康管理の必要性及び生活習慣病につながるリスク対策 (合併症予防、適正体重管理、喫煙・飲酒の有無等) の教育を行います。 ・将来の生活習慣病の発症予防のための教育を行います。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付 全員面接を実施し、妊娠の進み方の説明と合わせて、食事や生活面での指導を実施。特に喫煙やアルコール摂取など嗜好品については、胎児への影響を丁寧に説明している。 ・乳児全戸訪問 健康課で作成した喫煙に関するチラシを配布し、母や家族の喫煙状況について聞き取り調査をしている。また、飲酒状況についても聞き取り調査をしている。 ・母親父親教室 妊婦及び夫に対して妊娠経過を良好に保つための健康管理、生活習慣病予防をすることの必要性について情報提供をしている。 ・祖父母教室 祖父母教室において、妊婦が妊娠中から生活習慣病予防を視野に入れた健康管理をしていく必要について、教室で講義を実施。 ・父親の育児参加の支援 母子健康手帳の交付時に、父子手帳の交付をしている。父子手帳の中に父親の健康管理についても記載している。 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	科学的根拠を入れ込み丁寧に将来の生活習慣病につながるリスクについて指導していきたいが、面接時間にも限りがあり、今以上に指導時間を増やすことができない。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 限られた時間内で内容を充実させるため、指導方法を工夫していきたい。
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付 健康課で作成した喫煙に関するチラシを配布している。喫煙状況：妊婦2.3%。夫・パートナー35.1%。同居家族5.4%。飲酒状況：妊婦の1.1%。 ・乳児全戸訪問 健康課で作成した喫煙に関するチラシを配布し、母や家族の喫煙状況について聞き取り調査をしている。また、飲酒状況についても聞き取り調査をしている。 喫煙状況：母の喫煙率 3.5%、同居者の喫煙率 32.8 % ・母親父親教室 妊婦及び夫に対して妊娠経過を良好に保つための健康管理、生活習慣病予防をすることの必要性について情報提供をしている。教室時のアンケートで、妊婦の年齢が上がると糖尿病及び高血圧になる傾向が見受けられた。また、飲酒や喫煙が妊娠経過に及ぼす影響についても併せて情報提供している。 ・祖父母教室 祖父母教室において、妊婦が妊娠中から生活習慣病予防を視野に入れた健康管理をしていく必要について、教室で講義を実施。 ・父親の育児参加の支援 母子健康手帳の交付時に、父子手帳の交付をしている。父子手帳の中に父親の健康管理についても記載している。 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	データ収集とアンケートにより現状の分析を継続的に行う。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 母親父親教室では、生活習慣病及び予防方法について情報提供を行う。
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付 健康課で作成した喫煙に関するチラシを配布している。 ・乳児全戸訪問 健康課で作成した喫煙に関するチラシを配布し、母や家族の喫煙状況について聞き取り調査をしている。また、飲酒状況についても聞き取り調査をしている。 喫煙状況：母の喫煙率 6.0%、同居者の喫煙率 35.8% ・母親父親教室 妊娠経過を良好に保つために必要なことについて情報提供をしている。また、飲酒や喫煙が妊娠経過に及ぼす影響についても併せて情報提供している。 ・祖父母教室 祖父母教室において、妊婦が妊娠中から生活習慣病予防を視野に入れた健康管理をしていく必要について、講義の内容を見直し実施した。 ・父親の育児参加の支援 母子健康手帳の交付時に、父子手帳の交付をしている。 	
	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	データ収集とアンケートにより現状の分析を継続的に行う。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)	

5 (1) ②1	乳幼児健康診査	担当課	健康課
----------	---------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
乳幼児の健康状態の確認及び心身の問題の早期発見・早期治療や支援を目的に健康診査を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> 健康診査受診率の向上に努めます。 未受診者への受診勧奨を行います。 関係機関と連携し、未受診者等の状況把握の体制を強化します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<table border="1"> <tr> <td>健康診査</td> <td>対象者</td> <td>受診者数</td> <td>受診率</td> <td>外遊び2時間以上の児の割合(休日)</td> <td>1歳6か月児健診</td> <td>34.3%</td> <td>3歳児健診</td> <td>42.2%</td> </tr> <tr> <td>4か月児健診</td> <td>1145人</td> <td>1076人</td> <td>93.0%(11月末現在)</td> <td>22時までに就寝している児の割合</td> <td>1歳6か月児健診</td> <td>94.1%</td> <td>3歳児健診</td> <td>75.1%</td> </tr> <tr> <td>8-10か月児健診</td> <td>1131人</td> <td>1123人</td> <td>99.1%(11月末現在)</td> <td>むし歯のない3歳児の割合</td> <td></td> <td></td> <td>3歳児健診</td> <td>86.9%</td> </tr> <tr> <td>1.6歳児健診</td> <td>1395人</td> <td>1293人</td> <td>92.7%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2歳児歯科健診</td> <td>1440人</td> <td>708人</td> <td>49.2%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3歳児健診</td> <td>1397人</td> <td>1319人</td> <td>94.4%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>乳幼児ケア</td> <td>9回</td> <td>42人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>健診事後フォロー教室</td> <td></td> <td>回数</td> <td>参加者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>親子教室 (1歳6か月児健診後)</td> <td></td> <td>36回</td> <td>920人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教室 (3歳児健診後)</td> <td></td> <td>18回</td> <td>342人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p align="right">平成29年12月末現在</p>	健康診査	対象者	受診者数	受診率	外遊び2時間以上の児の割合(休日)	1歳6か月児健診	34.3%	3歳児健診	42.2%	4か月児健診	1145人	1076人	93.0%(11月末現在)	22時までに就寝している児の割合	1歳6か月児健診	94.1%	3歳児健診	75.1%	8-10か月児健診	1131人	1123人	99.1%(11月末現在)	むし歯のない3歳児の割合			3歳児健診	86.9%	1.6歳児健診	1395人	1293人	92.7%						2歳児歯科健診	1440人	708人	49.2%						3歳児健診	1397人	1319人	94.4%						乳幼児ケア	9回	42人							健診事後フォロー教室		回数	参加者数						親子教室 (1歳6か月児健診後)		36回	920人						幼児教室 (3歳児健診後)		18回	342人						<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>B: おおむね成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	検証結果	B: おおむね成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
	健康診査	対象者	受診者数	受診率	外遊び2時間以上の児の割合(休日)	1歳6か月児健診	34.3%	3歳児健診	42.2%																																																																																									
	4か月児健診	1145人	1076人	93.0%(11月末現在)	22時までに就寝している児の割合	1歳6か月児健診	94.1%	3歳児健診	75.1%																																																																																									
	8-10か月児健診	1131人	1123人	99.1%(11月末現在)	むし歯のない3歳児の割合			3歳児健診	86.9%																																																																																									
1.6歳児健診	1395人	1293人	92.7%																																																																																															
2歳児歯科健診	1440人	708人	49.2%																																																																																															
3歳児健診	1397人	1319人	94.4%																																																																																															
乳幼児ケア	9回	42人																																																																																																
健診事後フォロー教室		回数	参加者数																																																																																															
親子教室 (1歳6か月児健診後)		36回	920人																																																																																															
幼児教室 (3歳児健診後)		18回	342人																																																																																															
検証結果	B: おおむね成果があがった																																																																																																	
今後の課題																																																																																																		
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続																																																																																																	
平成28年度	<table border="1"> <tr> <td>健康診査</td> <td>対象者</td> <td>受診者数</td> <td>受診率</td> <td>外遊び2時間以上の児の割合(休日)</td> <td>1歳6か月児健診</td> <td>34.3%</td> <td>3歳児健診</td> <td>45.2%</td> </tr> <tr> <td>4か月児健診</td> <td>1777人</td> <td>1691人</td> <td>95.2%</td> <td>22時までに就寝している児の割合</td> <td>1歳6か月児健診</td> <td>93.2%</td> <td>3歳児健診</td> <td>90.8%</td> </tr> <tr> <td>8-10か月児健診</td> <td>1812人</td> <td>1687人</td> <td>93.1%</td> <td>むし歯のない3歳児の割合</td> <td></td> <td></td> <td>3歳児健診</td> <td>83.8%</td> </tr> <tr> <td>1歳6か月児健診</td> <td>1895人</td> <td>1826人</td> <td>96.3%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2歳児歯科健診</td> <td>1883人</td> <td>1047人</td> <td>55.6%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3歳児健診</td> <td>1917人</td> <td>1776人</td> <td>92.6%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>乳幼児ケア</td> <td>11回</td> <td>47人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>健診事後フォロー教室</td> <td></td> <td>回数</td> <td>参加者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>親子教室 (1歳6か月児健診後)</td> <td></td> <td>36回</td> <td>1186人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教室 (3歳児健診後)</td> <td></td> <td>36回</td> <td>509人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	健康診査	対象者	受診者数	受診率	外遊び2時間以上の児の割合(休日)	1歳6か月児健診	34.3%	3歳児健診	45.2%	4か月児健診	1777人	1691人	95.2%	22時までに就寝している児の割合	1歳6か月児健診	93.2%	3歳児健診	90.8%	8-10か月児健診	1812人	1687人	93.1%	むし歯のない3歳児の割合			3歳児健診	83.8%	1歳6か月児健診	1895人	1826人	96.3%						2歳児歯科健診	1883人	1047人	55.6%						3歳児健診	1917人	1776人	92.6%						乳幼児ケア	11回	47人							健診事後フォロー教室		回数	参加者数						親子教室 (1歳6か月児健診後)		36回	1186人						幼児教室 (3歳児健診後)		36回	509人						<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A: 成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	検証結果	A: 成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
	健康診査	対象者	受診者数	受診率	外遊び2時間以上の児の割合(休日)	1歳6か月児健診	34.3%	3歳児健診	45.2%																																																																																									
	4か月児健診	1777人	1691人	95.2%	22時までに就寝している児の割合	1歳6か月児健診	93.2%	3歳児健診	90.8%																																																																																									
	8-10か月児健診	1812人	1687人	93.1%	むし歯のない3歳児の割合			3歳児健診	83.8%																																																																																									
1歳6か月児健診	1895人	1826人	96.3%																																																																																															
2歳児歯科健診	1883人	1047人	55.6%																																																																																															
3歳児健診	1917人	1776人	92.6%																																																																																															
乳幼児ケア	11回	47人																																																																																																
健診事後フォロー教室		回数	参加者数																																																																																															
親子教室 (1歳6か月児健診後)		36回	1186人																																																																																															
幼児教室 (3歳児健診後)		36回	509人																																																																																															
検証結果	A: 成果があがった																																																																																																	
今後の課題																																																																																																		
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続																																																																																																	
平成27年度	<table border="1"> <tr> <td>健康診査</td> <td>対象者</td> <td>受診者数</td> <td>受診率</td> <td>外遊び2時間以上の児の割合(休日)</td> <td>1歳6か月児健診</td> <td>34.3%</td> <td>3歳児健診</td> <td>41.2%</td> </tr> <tr> <td>4か月児健診</td> <td>1785人</td> <td>1708人</td> <td>95.7%</td> <td>22時までに就寝している児の割合</td> <td>1歳6か月児健診</td> <td>94.1%</td> <td>3歳児健診</td> <td>89.4%</td> </tr> <tr> <td>8-10か月児健診</td> <td>1839人</td> <td>1754人</td> <td>95.4%</td> <td>むし歯のない3歳児の割合</td> <td></td> <td></td> <td>3歳児健診</td> <td>82.1%</td> </tr> <tr> <td>1歳6か月児健診</td> <td>1838人</td> <td>1742人</td> <td>94.8%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2歳児歯科健診</td> <td>1885人</td> <td>1026人</td> <td>54.4%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3歳児健診</td> <td>1935人</td> <td>1799人</td> <td>93.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>乳幼児ケア</td> <td>12回</td> <td>47人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>健診事後フォロー教室</td> <td></td> <td>回数</td> <td>参加者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>親子教室 (1歳6か月児健診後)</td> <td></td> <td>56回</td> <td>1441人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教室 (3歳児健診後)</td> <td></td> <td>16回</td> <td>250人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	健康診査	対象者	受診者数	受診率	外遊び2時間以上の児の割合(休日)	1歳6か月児健診	34.3%	3歳児健診	41.2%	4か月児健診	1785人	1708人	95.7%	22時までに就寝している児の割合	1歳6か月児健診	94.1%	3歳児健診	89.4%	8-10か月児健診	1839人	1754人	95.4%	むし歯のない3歳児の割合			3歳児健診	82.1%	1歳6か月児健診	1838人	1742人	94.8%						2歳児歯科健診	1885人	1026人	54.4%						3歳児健診	1935人	1799人	93.0%						乳幼児ケア	12回	47人							健診事後フォロー教室		回数	参加者数						親子教室 (1歳6か月児健診後)		56回	1441人						幼児教室 (3歳児健診後)		16回	250人						<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A: 成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	検証結果	A: 成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
	健康診査	対象者	受診者数	受診率	外遊び2時間以上の児の割合(休日)	1歳6か月児健診	34.3%	3歳児健診	41.2%																																																																																									
	4か月児健診	1785人	1708人	95.7%	22時までに就寝している児の割合	1歳6か月児健診	94.1%	3歳児健診	89.4%																																																																																									
	8-10か月児健診	1839人	1754人	95.4%	むし歯のない3歳児の割合			3歳児健診	82.1%																																																																																									
1歳6か月児健診	1838人	1742人	94.8%																																																																																															
2歳児歯科健診	1885人	1026人	54.4%																																																																																															
3歳児健診	1935人	1799人	93.0%																																																																																															
乳幼児ケア	12回	47人																																																																																																
健診事後フォロー教室		回数	参加者数																																																																																															
親子教室 (1歳6か月児健診後)		56回	1441人																																																																																															
幼児教室 (3歳児健診後)		16回	250人																																																																																															
検証結果	A: 成果があがった																																																																																																	
今後の課題																																																																																																		
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続																																																																																																	

備考 (その他)	

5 (1) ②2	乳幼児期の相談の充実	担当課	健康課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
未就学児を対象として、保護者の育児不安等の対応と、子どもにとって望ましい生活習慣の確立ができるように育児相談を充実させます。		乳児期において望ましい生活習慣の確立ができるように乳児期の相談を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> ・7か月児相談を毎月3回実施 計30回実施 来所者数706人 ・育児相談を毎月3回実施 計30回実施 来所者数1,462人 ・離乳食教室、はみがき教室を開催した。 ・低出生体重児の集い（おひさまくらぶ） 5回 参加人数101人（児51人、保護者等50人） 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 7か月児相談については、受診率に合わせて実施回数を見直す。	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・7か月児相談を毎月3回実施 年36回実施 来所者数1,054人 ・育児相談を毎月3回実施 年36回実施 来所者数1,924人 ・離乳食教室、はみがき教室を開催した。 ・低出生体重児の集い（おひさまくらぶ） 6回 参加人数124人（児66人、保護者等58人） 小さく生まれたお子さんとその保護者を対象に親子遊び、保護者への情報提供、親同士の交流を主に実施している。参加者の満足度は高く、情報交換や仲間づくりをする場として活用されている。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・7か月児相談を平成28年4月から実施する予定で準備ができた。 ・育児相談を毎月3回実施 年36回実施 来所者数2,036人 ・すくすく子育て教室、離乳食教室、はみがき教室を開催した。 ・平成27年度新規事業として低出生体重児の集い（おひさまくらぶ）を実施した。年6回 参加人数106人（児50人、保護者等56人） 母同士が交流する場として、参加者の満足度は非常に高く情報交換や仲間づくりをする場として活用されている。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 7か月児相談の開始に伴い、すくすく子育て教室は廃止。	
備考（その他）			

5 (1) ②3	訪問事業	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
乳幼児を持つ家庭に対する訪問を通し、育児不安への対応や、精神的な不安定さを抱える母親への支援を実施します。		こんにちは赤ちゃん訪問の実施率の向上を目指していきます。(参考値：平成25年度実績93.7%)	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<p>こんにちは赤ちゃん訪問 訪問率94.1%(平成29年8月生まれまでの児に対する訪問率)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんにちは赤ちゃん訪問にて児の発育状況や母の育児不安等へ対応し、必要な方にはその後の健診や継続訪問等でも継続支援をしている。 <p>未熟児訪問 訪問率78.3% 随時訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2500g以上で生まれた児に比べて、低出生体重児の育児は、育てにくく、また親の育児不安も大きいため今後も丁寧な関わりを継続し育児を支援していく。 ・ 小さく生まれた児の育児のしおりに作成し、育児の特徴を伝えるツールとする。 		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>こんにちは赤ちゃん訪問 訪問率93.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんにちは赤ちゃん訪問にて児の発育状況や母の育児不安等へ対応し、必要な方にはその後の健診や継続訪問等でも継続支援をしている。 <p>未熟児訪問 訪問率81.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2500g以上で生まれた児に比べて、低出生体重児の育児は、育てにくく、また親の育児不安も大きいため今後も丁寧な関わりを継続し育児を支援していく。 ・ 小さく生まれた児の育児のしおりに作成し、今年度から配布中。 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>こんにちは赤ちゃん訪問 訪問率95.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんにちは赤ちゃん訪問にて児の発育状況や母の育児不安等へ対応し、必要な方にはその後の健診や継続訪問等でも継続支援をしている。 <p>未熟児訪問 訪問率64.4%</p> <p>(年度末に出生した低出生体重児が多かったため、訪問未実施が多い。11月末までの実施率は64.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2500g以上で生まれた児に比べて、低出生体重児の育児は、育てにくく、また親の育児不安も大きいため今後も丁寧な関わりを継続し育児を支援していく。 ・ 小さく生まれた児の育児のしおりに作成し、育児の特徴を伝えるツールとする。 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 未熟児の特徴を知り育児の知識を得て、余裕をもって育児に取り組めるようにするため平成28年度より「小さく生まれた児の育児のしおり」を配付して知識の普及に努める。	
備考 (その他)			

5 (1) ②4	学習の場の提供	担当課	健康課
----------	---------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
幼児健診等で年齢に合わせた生活習慣に関する学習機会を提供し、親の育児に関する知識を豊かにすることで子どもの健やかな成長を支えます。	<ul style="list-style-type: none"> 幼児健診や幼稚園・保育所における巡回教室等で生活習慣（生活リズム、外あそび、食事、睡眠、歯の健康等）に関する情報について、学習の機会を提供します。 小さく生まれたお子さんのための育児教室を開催します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣に関しての情報提供を保健センターで実施している幼児集団健診と子どもの生活習慣病予防対策事業巡回教室において実施。 巡回教室 39回 37園、参加人数 1,714人（12月末現在） 幼児集団健診 生活習慣に関する情報提供として健診におけるポスター掲示及びパンフレットの自由配布 むし歯予防に関する情報提供を歯みがき教室や萌出期歯科保健事業巡回教室で実施。 歯みがき教室は15回、永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室は35園で実施（12月末現在） 低出生体重児の集い（おひさまくらぶ）5回 参加人数101人（児51人、保護者等50人） 低出生体重児の育児について保健師、保育士、理学療法士、心理相談員が参加し母親の不安解消、知識の普及を行った。 	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>B：おおむね成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	検証結果	B：おおむね成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
	検証結果	B：おおむね成果があがった						
	今後の課題							
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続						
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣に関しての情報提供を保健センターで実施している幼児集団健診と子どもの生活習慣病予防対策事業巡回教室において実施。 巡回教室 45回 43園、参加人数 2,310人 幼児集団健診 生活習慣に関する情報提供として健診におけるポスター掲示及びパンフレットの自由配布 むし歯予防に関する情報提供を歯みがき教室や萌出期歯科保健事業巡回教室で実施。歯みがき教室は拡大。 歯みがき教室は年15回、永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室は41園で実施。 低出生体重児の集い（おひさまくらぶ）6回 参加人数124人（児66人、保護者等58人） 低出生体重児の育児について保健師、保育士、理学療法士、心理相談員が参加し母親の不安解消、知識の普及を行った。 	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
	検証結果	A：成果があがった						
	今後の課題							
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続						
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣に関しての情報提供を保健センターで実施している幼児集団健診と子どもの生活習慣病予防対策巡回教室において実施。 巡回教室 47回 42園、参加人数 2,466人 平塚市内の公私立の保育園・幼稚園の5歳児を対象に5歳児の生活習慣の実態を把握するために、隔年で5歳児生活実態調査を実施。 保健センターで実施している歯みがき教室や幼稚園や保育園で実施する永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室において、参加した保護者や幼児に対して、歯の手入れ方法やフッ化物の利用などの普及啓発等を実施。歯みがき教室年16回、永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室40園で実施 幼児健診パンフレット（生活リズム）の自由配布。 新婚の方への情報提供：婚姻届出時にパンフレット配布 439部 低出生体重児の集い（おひさまくらぶ）6回 参加人数106人（児50人、保護者等56人） 平成25年～平成27年1700g未満の低出生対象児の34.6%の参加率 低出生体重児の育児について保健師、保育士からのみでなく、理学療法士等多職種からのアドバイスも行き、知識の普及を行った。 	<table border="1"> <tr> <td>検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続 歯みがき教室については、年齢に合わせたむし歯予防方法の普及啓発とともに、低年齢からのフッ素の利用方法について正しい知識の普及が必要であるため、事業を拡大して実施する。</td> </tr> </table>	検証結果	A：成果があがった	今後の課題		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 歯みがき教室については、年齢に合わせたむし歯予防方法の普及啓発とともに、低年齢からのフッ素の利用方法について正しい知識の普及が必要であるため、事業を拡大して実施する。
	検証結果	A：成果があがった						
	今後の課題							
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 歯みがき教室については、年齢に合わせたむし歯予防方法の普及啓発とともに、低年齢からのフッ素の利用方法について正しい知識の普及が必要であるため、事業を拡大して実施する。						

備考（その他）

5 (1) ②5	感染症対策の推進	担当課	健康課
----------	----------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
伝染の恐れがある疾病の発生及びまん延を予防するために予防接種を実施します。	定期予防接種の重要性について、ホームページ、広報紙、個別通知等、各種事業で周知します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・出生届の手続き時に予防接種の受け方や重要性が記載された「予防接種インフォメーション」と「予防接種とこどもの健康」を配布。 ・こんにちは赤ちゃん訪問等で再度、保護者に定期予防接種の重要性・進め方について説明している。 ・幼児健診（1歳6か月児健診・3歳児健診）で予防接種歴を確認し、必要時保護者に予防接種の重要性について説明している。 ・個別通知・広報・ホームページ、幼稚園、保育園、学校を經由して接種勧奨するチラシを配布している。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・出生届の手続き時に予防接種の受け方や重要性が記載された「予防接種インフォメーション」と「予防接種とこどもの健康」を配布。 ・こんにちは赤ちゃん訪問等で再度、保護者に定期予防接種の重要性・進め方について説明している。 ・幼児健診（1歳6か月児健診・3歳児健診）で予防接種歴を確認し、必要時保護者に予防接種の重要性について説明している。 ・個別通知・広報・ホームページ、幼稚園、保育園、学校を經由して接種勧奨するチラシを配布している。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・出生届の手続き時に予防接種の受け方や重要性が記載された「予防接種インフォメーション」と「予防接種とこどもの健康」を配布。 ・こんにちは赤ちゃん訪問等で再度、保護者に定期予防接種の重要性・進め方について説明している。 ・幼児健診（1歳6か月児健診・3歳児健診）で予防接種歴を確認し、必要時保護者に予防接種の重要性について説明している。 ・個別通知・広報・ホームページ、幼稚園、保育園、学校を經由して接種勧奨するチラシを配布している。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

--

5 (1) ②6	5 歳児健康診査	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>発達に課題を持つ子どもたちが支援を受けずに就学・就職して、困難な状況に陥りがちなことから、市内の5歳児を対象に、スクリーニング調査により健康診査を実施し、要支援という結果が出た子どもに対し、必要な支援を行ってまいります。</p>		<p>対象を全市に拡大し、必要な支援を継続します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<p>調査票配布協力園：73園 調査票配布数：1,734人 調査票回答者：1,553人(89.6%) 要支援者：230人 要支援率：14.8% 要支援者在籍園への訪問療育相談と巡回相談 平成29年度対象：51園 平成28年度対象へのフォロー：31園 子ども・子育て支援新制度が施行されたことなどから、市外在住で市内の幼稚園、保育所等に在園している児も対象として拡大して実施した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	平成30年度から就学移行支援を実施していく。	
今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続		
平成28年度	<p>調査票配布協力園：61園 調査票配布数：1,711人 調査票回答者：1,571人(91.8%) 要支援者：179人 要支援率：11.4% 要支援者在籍園への訪問療育相談と巡回相談 平成28年度対象：58園 平成27年度対象へのフォロー：40園</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	訪問療育相談や巡回相談の結果を学校が把握し、学校生活に活用できるようしていく。	
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 平成29年度に配布対象を市外在園児等にも含めた市内全体へ広げるため。		
平成27年度	<p>調査票配布協力園：62園 調査票配布数：1,910人 調査票回答者：1,700人(89.0%) 要支援者：220人 要支援率：12.9% 要支援者在籍園への訪問療育相談 平成27年度対象：52園 平成26年度対象へのフォロー：29園</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	実施結果に係る教育との連携方法を検討していく必要がある。	
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 平成28年度に配布対象を認可外保育所等にも含めた市内全体へ広げるため。		
備考 (その他)			

5 (1) ②7	保育所における食育の推進	担当課	保育課
----------	--------------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
乳幼児期から、正しい食事のとり方や望ましい食習慣の定着、食を通じた豊かな人間性の形成、家族関係づくりによる心身の健全育成を図ります。	クッキング保育やバイキング給食、ボードを使用しての食品構成あそび等を実施します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキング保育、バイキング給食の実施 ・エプロンシアターやボードを使用しての食品構成あそびの実施 ・給食試食会の実施 ・献立表、給食だよりの配布 ・野菜などの栽培・収穫 ・食育年間計画の運用 実施園：42園	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキング保育、バイキング給食の実施 ・エプロンシアターやボードを使用しての食品構成あそびの実施 ・給食試食会の実施 ・献立表、給食だよりの配布 ・野菜などの栽培・収穫 ・食育年間計画の運用 実施園：41園	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキング保育、バイキング給食の実施 ・エプロンシアターやボードを使用しての食品構成あそびの実施 ・給食試食会の実施 ・献立表、給食だよりの配布 ・野菜などの栽培・収穫 ・食育年間計画の運用 実施園：38園	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

5 (2) ①1	教育の充実 1	担当課	教育総務課
----------	---------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
・ 体格の実態を把握します。 生活習慣病予防や歯の健康に関する知識の普及に努めます。 ① 小学校 4～6 年生の体格調査と健康教育の実施 ② 学校歯科巡回指導の実施	引続き事業を継続します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 (暫定版)	肥満度30%以上の小学校4～6年生229人に医療機関の受診をすすめた。また、小学校4年生を対象に児童健康教室を開催し、児童15人とその保護者へ運動教室、栄養相談、医師面談を実施した。 小学校全28校で歯科巡回指導を実施した。 2計測結果 (身長・体重) ・視力検査結果・歯科検診結果をとりまとめ、保健統計を作成した。	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	児童健康教室への参加率を高める必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	肥満度30%以上の小学校4～6年生224人に医療機関の受診をすすめた。また、小学校4年生を対象に児童健康教室を開催し、児童18人に運動教室、栄養相談、医師面談を実施した。 小学校全28校で歯科巡回指導を実施した。 2計測結果 (身長・体重) ・視力検査結果・歯科検診結果をとりまとめ、保健統計を作成した。	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	児童健康教室への参加率を高める必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	肥満度30%以上の児童70名に医療機関の受診をすすめた。また、児童健康教室を開催し、児童13人に運動教室、栄養相談、医師面談を実施した。 小学校全28校で歯科巡回指導を実施した。 3計測結果 (身長・体重・座高) ・視力検査結果・歯科検診結果をとりまとめ、保健統計を作成した。	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	児童健康教室への参加率を高める必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

5 (2) ①2	教育の充実2	担当課	教育指導課
----------	--------	-----	-------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防に関する実態の把握をします。 生活習慣病予防に関する健康教育を実施します。 ①朝食を欠食する子どもの割合の減少 ②睡眠が6時間未満の子どもの割合の減少 ③運動・スポーツを週3回以上する子どもの割合の増加 	生涯を通して健康・安全で活力ある生活を送るために、また、運動に親しむ資質や能力を育てるために、学校教育全体を通して健康に関する教育を推進していきます。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> 「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「平成29年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」にて、神奈川県及び平塚市の児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握した。 各小中学校の体育及び保健体育の授業を通じて、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を図り、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上をめざした教育実践を行った。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 「平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「平成28年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」にて、神奈川県及び平塚市の児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握した。 各小中学校の体育及び保健体育の授業を通じて、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を図り、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上をめざした教育実践を行った。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「平成27年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」にて、神奈川県及び平塚市の児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握した。 各小中学校の体育及び保健体育の授業を通じて、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を図り、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上をめざした教育実践を行った。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

5 (2) ①3	学校保健の充実	担当課	教育総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>・心電図検査、心臓疾患第2次検査、腎臓疾患(尿)検査、同2次検査、同3次精密検査、寄生虫卵(ぎょう虫卵)検査、結核健康診断、胸部レントゲン直接撮影、結核健康診断精密検査、小学校歯科巡回指導を実施します。</p> <p>・各学校(園)健康診断(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を実施します。</p>		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<p>心電図検査(5月実施) 心臓疾患2次検査(6月実施) 腎臓疾患(尿)検査(9月実施)、同2次検査(9月実施)、同3次精密検査(10月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影(7月実施) 小学校歯科巡回指導(5~7月、9月~12月) 上記検査のほか、各学校(園)で健康診断(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を実施した。 ※寄生虫卵(ぎょう虫卵)検査については、平成28年度から廃止 ※結核健康診断精密検査については、対象者なし</p>		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題	学校保健安全法施行規則の改正により平成28年4月から運動器検診が導入されたが、学校ごとに検診内容に差異が生じることのないよう検診方法の周知・徹底を図る必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>心電図検査(5月実施) 心臓疾患2次検査(6月実施) 腎臓疾患(尿)検査(9月実施)、同2次検査(9月実施)、同3次精密検査(10月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影(7月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影結果に基づく精密検査(8月実施) 小学校歯科巡回指導(5~7月、9月~12月) 上記検査のほか、各学校(園)で健康診断(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を実施した。 ※寄生虫卵(ぎょう虫卵)検査については、平成28年度から廃止</p>		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題	学校保健安全法施行規則の改正により平成28年4月から運動器検診が導入されたが、学校ごとに検診内容に差異が生じることのないよう検診方法の周知・徹底を図る必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>心電図検査(5月実施) 心臓疾患2次検査(6月実施) 腎臓疾患(尿)検査(9月実施)、同2次検査(9月実施)、同3次精密検査(10月実施) 寄生虫卵(ぎょう虫卵)検査(5月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影(7月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影結果に基づく精密検査(8月実施) 小学校歯科巡回指導(5~7月、9月から12月) 上記検査のほか、各学校(園)で健康診断(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を実施した。</p>		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題	学校保健安全法施行規則の改正により平成28年4月から運動器検診が導入されたが、学校ごとに検診内容に差異が生じることのないよう検診方法の周知・徹底を図る必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考(その他)			

5 (2) ①4	スクールカウンセラー派遣事業 (3 (2) 2再掲)	担当課	子ども教育相談センター															
事業の概要 (計画掲載内容) 児童・生徒の様々な問題を解決するために本人や保護者のカウンセリングと教職員を支援するスクールカウンセラーを小・中学校に派遣します。		今後の取組み (計画掲載内容) スクールカウンセラーを年間15人派遣し、全小・中学校に配置していきます。その後は勤務日の増加を目指します。																
各年度における主な取組み等																		
平成29年度 (暫定版)	<p>13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校11校での相談活動内容(9月末現在) 教室巡回1,221回、教室等でのエクササイズ0回、外部関係者・機関との情報交換70回、教職員向け研修会3回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席50回、校内支援会議への参加98回、家庭訪問66回、その他6回 計1,514回</p> <p>来室相談延べ人数:小学生881人、中学生378人、小学生保護者554人、中学生保護者157人、小学校教員1,455人、中学校教員610人 計4,035人 電話相談延べ人数:小学生5人、中学生1人、小学生保護者100人、中学生保護者61人、小学校教員1人、中学校教員2人 計170人 来室相談内容延べ人数:長期欠席1,001人、いじめ6人、暴力行為156人、児童虐待39人、友人・異性483人、非行・不良行為25人、親子関係232人、教職員との関係110人、心身の健康・保健381人、自己性格370人、学習進路216人、発達725人、その他196人、被災関係3人 電話相談内容延べ人数:長期欠席74人、いじめ0人、暴力行為0人、児童虐待1人、友人・異性3人、非行・不良行為4人、親子関係11人、教職員との関係2人、心身の健康・保健20人、自己性格28人、学習進路2人、発達19人、その他10人、被災関係0人</p> <table border="1" data-bbox="175 763 1479 1001"> <tr> <td data-bbox="175 763 379 801">検証結果</td> <td colspan="3" data-bbox="379 763 1479 801">A:成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="175 801 379 898">今後の課題</td> <td colspan="3" data-bbox="379 801 1479 898">市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができた。残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。その後、保護者や学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="175 898 379 1001" rowspan="2">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="3" data-bbox="379 898 1479 936">② 拡大して継続</td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="379 936 1479 1001">スクールカウンセラーを全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。</td> </tr> </table>			検証結果	A:成果があがった			今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができた。残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。その後、保護者や学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。			今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続			スクールカウンセラーを全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。		
検証結果	A:成果があがった																	
今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができた。残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。その後、保護者や学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。																	
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続																	
	スクールカウンセラーを全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。																	
平成28年度	<p>13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校11校での相談活動内容 教室巡回2,306回、教室等でのエクササイズ20回、外部関係者・機関との情報交換143回、教職員向け研修会8回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席137回、校内支援会議への参加229回、家庭訪問102回、その他4回 計2,949回</p> <p>来室相談延べ人数:小学生1,796人、中学生913人、小学生保護者1,103人、中学生保護者267人、小学校教員2,163人、中学校教員977人、計7,219人 電話相談延べ人数:小学生14人、中学生50人、小学生保護者133人、中学生保護者193人、小学校教員3人、中学校教員4人計397人 来室相談内容延べ人数:いじめ74人、長期欠席2,310人、暴力行為176人、学習進路392人、親子関係439人、友人異性916人、自己性格979人、身体健康288人、発達1,199人、その他446人、被災関係0人 電話相談内容延べ人数:いじめ8人、長期欠席166人、暴力行為11人、学習進路9人、親子関係30人、友人異性16人、自己性格42人、身体健康20人、発達41人、その他54人、被災関係0人</p> <table border="1" data-bbox="175 1272 1479 1507"> <tr> <td data-bbox="175 1272 379 1310">検証結果</td> <td colspan="3" data-bbox="379 1272 1479 1310">A:成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="175 1310 379 1406">今後の課題</td> <td colspan="3" data-bbox="379 1310 1479 1406">市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。まずは2人の増員し、その後勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="175 1406 379 1507" rowspan="2">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="3" data-bbox="379 1406 1479 1444">② 拡大して継続</td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="379 1444 1479 1507">スクールカウンセラーを年間15人派遣、全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。</td> </tr> </table>			検証結果	A:成果があがった			今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。まずは2人の増員し、その後勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。			今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続			スクールカウンセラーを年間15人派遣、全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。		
検証結果	A:成果があがった																	
今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。まずは2人の増員し、その後勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。																	
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続																	
	スクールカウンセラーを年間15人派遣、全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。																	
平成27年度	<p>13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校11校での相談活動内容 教室巡回2,446回、外部関係者・機関との情報交換157回、教職員向け研修会4回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席91回、校内支援会議への参加160回、家庭訪問40回、その他20回 計2,918回</p> <p>来室相談延べ人数 小学生1,838人、中学生858人、小学生保護者1,012人、中学生保護者299人、小学校教員2,073人、中学校教員732人、計6,812人 電話相談延べ人数 小学生36人、中学生60人、小学生保護者202人、中学生保護者114人、小学校教員4人、中学校教員4人計420人 来室相談内容延べ人数 いじめ81人、長期欠席1,779人、暴力行為90人、学習進路545人、親子関係523人、友人異性860人、自己性格1,490人、身体健康272人、その他1,172人 電話相談内容延べ人数 いじめ10人、長期欠席144人、暴力行為2人、学習進路30人、親子関係19人、友人異性48人、自己性格95人、身体健康22人、その他50人</p> <table border="1" data-bbox="175 1778 1479 2013"> <tr> <td data-bbox="175 1778 379 1816">検証結果</td> <td colspan="3" data-bbox="379 1778 1479 1816">A:成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="175 1816 379 1912">今後の課題</td> <td colspan="3" data-bbox="379 1816 1479 1912">市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができましたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができます。2人の増員とその後は、勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="175 1912 379 2013" rowspan="2">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="3" data-bbox="379 1912 1479 1951">② 拡大して継続</td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="379 1951 1479 2013">スクールカウンセラーを年間15人派遣、全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。</td> </tr> </table>			検証結果	A:成果があがった			今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができましたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができます。2人の増員とその後は、勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。			今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続			スクールカウンセラーを年間15人派遣、全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。		
検証結果	A:成果があがった																	
今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができましたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができます。2人の増員とその後は、勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。																	
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続																	
	スクールカウンセラーを年間15人派遣、全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。																	
備考 (その他)																		

5 (2) ②1	思春期の教育の充実	担当課	健康課
事業の概要（計画掲載内容） 母性・父性を養い、将来に向けた健全な身体づくりに関する教育を実施します。		今後の取組み（計画掲載内容） ・将来に向けた身体づくりや性に関する知識の普及に努めます。 ・思春期対策連絡会の実施等で関係機関との連携を図ります。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	大洋中学校 1年生 113名：大人の身体になりつつあることを正しく理解し、妊娠や性感染症に関する知識を深める 平塚農業高校 1年生 196名：夏休み前に性に関する正しい知識と望まない妊娠予防に関する講演会を実施 平塚養護学校 高等部 2年生32名：命のつながりについて講義 妊婦体験、赤ちゃん抱っこ体験を通して今いる自分が多くの人に守られて育ってきた事を教育 妊娠の仕組み、命のつながり、望まない妊娠について講義と、妊婦シュミレーターの装着や赤ちゃん人形の抱っこ、性感染症ゲームの実施 今後は、神明中学校、金旭中学校、土沢中学校、中原中学校、大野中学校、平塚江南高校で思春期教育を実施予定。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	若年妊娠が増加しているため、早期からの思春期教育が重要となる。市内の中学校からの思春期講座の申込みが昨年度よりも増加しているため、引き続き講座を開催していく。ただし、市内全部の学校からとなると対応が難しい部分もあるため、徐々に対応をしていけるとよい。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	平塚農業高校 1年生：夏休み前に性に関する正しい知識と望まない妊娠予防に関する講演会を実施 2年生：各クラス単位で、保育の授業として赤ちゃんとの生活・赤ちゃんの泣きと揺さぶられ症候群の予防、妊婦体験、赤ちゃん抱っこ体験を実施。将来父母になる生徒に向けて育児とは何かを教育 平塚養護学校 高等部2年生：命のつながりについて講義 妊婦体験、赤ちゃん抱っこ体験を通して今いる自分が多くの人に守られて育ってきた事を教育 中原中学校3年生（168人）、大野中学校3年生（230人）、土沢中学校3年生（46人）、大洋中学校1年生（120人） 妊娠の仕組み、命のつながり、望まない妊娠について講義と、妊婦シュミレーターの装着や赤ちゃん人形の抱っこ、性感染症ゲームの実施 平成28年度より、中学校長宛に事業案内を送付し周知したため。中学校からの問い合わせが増えた。高校進学前の生徒へ命のつながり、望まない妊娠を教育することで若年妊娠を少しでも減らせるきっかけとしたい。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	平成27年7月14日 県立平塚農業高校1年生(195人)に「未来の自分のために必要なこと」というテーマで性(身体のこと)、妊娠の仕組み、性感染症、命の大切さについて講演会を実施。 平成27年10月14日 県立平塚養護学校 高等部3年生(19人)に食事の選択の仕方を学び、健康づくりや楽しい食生活の営みに結びつけるというテーマで買い物ゲーム・味覚テストを交えて授業を実施 平成28年1月15日～19日 平塚農業高校2年生全クラス(175人)に「健康な母親・父親になるために～まずは自分の健康づくりから～」というテーマで性(身体のこと)、妊娠について、性感染症についての講義と育児体験(沐浴人形を使ってのおむつ交換・抱っこ・乳幼児揺さぶられ症候群について)・妊婦体験・食事バランスゲームの実施 平成28年3月7日 中原中学校3年生(160人)に対し、性に関する授業を実施 平成28年3月22日に思春期対策連絡会を実施		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 思春期事業について全中学校へ周知文を送付し、出張事業の依頼が増えるよう取り組む。	
備考（その他）			

5 (2) ②2	こころと命のサポート事業 (1 (4) 8再掲)	担当課	福祉総務課
----------	-----------------------------	-----	-------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
地域において実施しているおはなし会や読み聞かせ、読み語り等の中で、「命の大切さ、尊さ」をテーマに取り上げてもらうことで、命の大切さ、尊さを普及・啓発し、自殺対策を推進します。	地域で活動している団体等に、本事業についての理解を深めてもらい、おはなし会、読み聞かせ、読み語りの中で「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうように働きかけを行い、命の大切さ、尊さの普及啓発を推進します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況	
	①花水小学校 237回延べ7,419人	②平塚工科高等学校 2回延べ55人
	③花水公民館 23回延べ 618人	④花水台保育園 163回延べ3,222人
	⑤黒部丘幼稚園 54回延べ1,008人	⑥なでしこ小学校 100回延べ3,663人
	⑦浜岳中学校 1回延べ 689人	⑧八幡小学校 3回延べ86人
	⑨大原小学校 6回延べ 371人	⑩南原保育園 3回延べ57人
	⑪松原小学校 1回延べ 557人	⑫松が丘小学校 3回延べ376人
	⑬山城中学校 3回延べ1,054人	⑭松延小学校 4回延べ114人
	合計 7地区 実施回数603回 延べ19,289人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	今後も取組が他地区へも広がっていくことが望まれるため、協議会をはじめ保育園等とも協力・連携し、命の大切さや尊さを伝える普及啓発を推進する。すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成28年度	「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況	
	①花水小学校 262回延べ8,903人	②なでしこ小学校 133回延べ4,250人
	③花水台保育園 192回延べ3,957人	④花水公民館 23回 618人
	⑤平塚工科高等学校 2回 29人	⑥平塚市保育士全体研修会 1回 130人
	③中原小学校 3回延べ 410人	⑦神田保育園 5回延べ 85人
	⑧黒部丘幼稚園 48回延べ1,091人	⑨相模小学校 5回延べ 678人
	合計 3地区 実施回数674回 延べ20,151人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	今後も取組が他地区へも広がっていくことが望まれる。今年度は「いのちの尊さをつたえる本」のリストを保育園等へ配布し、読み聞かせ等でのリストの活用を依頼した。協議会をはじめ保育園等とも協力・連携し、命の大切さや尊さを伝える普及啓発を推進する。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

平成27年度	「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況	
	①花水小学校 64回延べ約9,148人 (朝の読み聞かせの時間等に実施。)	
	②なでしこ小学校 28回延べ約4,195人 (朝の読み聞かせの時間等に実施。)	
	③花水台保育園 38回延べ約3,602人 (1～5歳児クラスで実施。)	
	④花水公民館 23回389人	
	⑤平塚工科高等学校 1回16人	
	合計 1地区 実施回数154回 延べ約17,350人	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	行政提案型協働事業としてはじまった取組として定着してきているが、この取組が他地区へも広がっていくことが望まれる。地域で活動している団体等に「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうよう働きかけを行うだけでなく、小中学校へもリストの活用や、図書室での「いのちの尊さをつたえる本」コーナー設置等の協力を依頼し、連携して命の大切さ、尊さの普及啓発を推進する。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)	

5 (3) 1	一時預かり事業 (2 (1) 1再掲)	担当課	保育課
---------	------------------------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
保護者の断続的な就労、病気や育児疲れの解消等の理由で、子どもの保育ができないときの緊急・一時的な保育を行います。〔対象：就学前児童〕	施設型給付の幼稚園や民間保育所でも一時預かりを実施します。

各年度における主な取組み等

平成 29 年度 (暫定版)	・民間保育所19園で実施 (延べ利用児童数13,578人)	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 28 年度	・民間保育所19園で実施 (延べ利用児童数15,345人)	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成 27 年度	・民間保育所18園で実施 (延べ利用児童数15,105人)	
	検証結果	A : 成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

5 (3) 2	ファミリー・サポート事業 (2 (1) 2再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育ての援助を受けたい方 (依頼会員) と子育ての援助を行いたい方 (支援会員) を組織化し、幼稚園・保育所等への送迎及びその前後の預かり等の育児の援助活動の橋渡しを行います。〔依頼会員：0歳からおおむね9歳までの児童の保護者〕		支援会員に対する講習時間を段階的に増やし、支援サービスの向上を図ります。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援会員入会説明会を2回開催。 ・ 支援会員の講習会を2回開催。 ・ 支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。 ・ 支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。 会員数：支援会員330人、依頼会員1,322人、内両方会員44人 活動件数：2,389件		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	支援会員の増加を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援会員入会説明会を2回開催。 ・ 支援会員の講習会を2回開催。 ・ 支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。 ・ 支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。 会員数：支援会員320人、依頼会員1,240人、内両方会員45人 活動件数：2,478件		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 引続き会員の増加を図るため	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援会員入会説明会2回開催。 ・ 支援会員の講習会を2回開催。 ・ 支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。 ・ 支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。 会員数：支援会員314人、依頼会員1,162人、内両方会員42人 活動件数：2,045件		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 引続き会員の増加を図るため	
備考 (その他)			

5 (3) 3	子育て支援センター事業 (2 (2) 1再掲)	担当課	保育課									
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)										
<p>子育て家庭に対する育児不安等についての相談支援、各種子育てに係る情報提供、親子の気軽な交流の場としての子育てサロンの運営、子育てサークルや子育て支援活動への支援を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕</p>		<p>安心して子育てができるように引続き子育て支援センター事業を推進します。</p>										
各年度における主な取組み等												
平成29年度 (暫定版)	<p>・1か所実施。 利用者数：大人11,629人、子ども9,229人、合計20,858人 相談件数：面接3,143件、電話28件、その他375件</p> <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し(ミニコンサート、人形劇、読み聞かせなど)を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p> <table border="1" data-bbox="177 763 1479 999"> <tr> <td data-bbox="177 763 384 801">検証結果</td> <td colspan="2" data-bbox="384 763 1479 801">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="177 801 384 898">今後の課題</td> <td colspan="2" data-bbox="384 801 1479 898"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="177 898 384 999">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="2" data-bbox="384 898 1479 999">① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった		今後の課題			今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
検証結果	A：成果があがった											
今後の課題												
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続											
平成28年度	<p>・1か所実施。 利用者数：大人11,919人、子ども15,354人、合計27,273人 相談件数：面接3,530件、電話31件、その他549件</p> <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し(フルーツミニコンサート、人形劇、フラダンス、読み聞かせなど)を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事、交通安全教室などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p> <table border="1" data-bbox="177 1267 1479 1503"> <tr> <td data-bbox="177 1267 384 1305">検証結果</td> <td colspan="2" data-bbox="384 1267 1479 1305">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="177 1305 384 1402">今後の課題</td> <td colspan="2" data-bbox="384 1305 1479 1402"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="177 1402 384 1503">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="2" data-bbox="384 1402 1479 1503">① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった		今後の課題			今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
検証結果	A：成果があがった											
今後の課題												
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続											
平成27年度	<p>・1か所実施。 利用者数：大人9,932人、子ども12,474人、合計22,406人 相談件数：面接2,806件、電話30件、その他513件</p> <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し(フルーツミニコンサート、人形劇、フラダンス、読み聞かせなど)を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事、交通安全教室などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p> <table border="1" data-bbox="177 1771 1479 2007"> <tr> <td data-bbox="177 1771 384 1809">検証結果</td> <td colspan="2" data-bbox="384 1771 1479 1809">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="177 1809 384 1906">今後の課題</td> <td colspan="2" data-bbox="384 1809 1479 1906"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="177 1906 384 2007">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="2" data-bbox="384 1906 1479 2007">① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった		今後の課題			今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
検証結果	A：成果があがった											
今後の課題												
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続											
備考 (その他)												

5 (3) 4	つどいの広場事業 (2 (2) 2再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
主に乳幼児を持つ親と子どもが気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で語り合うことで、精神的な安心感をもたらし、問題解決への糸口となる機会(場)を提供します。〔対象：おおむね0～3歳児及び保護者〕		<ul style="list-style-type: none"> 平成29年4月から新たなつどいの広場1か所を開設できるように準備を進めます。 安心して子育てができるように引続きつどいの広場事業を推進します。 	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> 4か所で実施。 月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、ひな人形等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。 「つどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人3,124人、子ども3,276人、合計 6,400人、相談件数：557件 「つどいの広場 きりんのおうち」 利用者数：大人6,437人、子ども6,955人、合計13,392人、相談件数：770件 「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人3,288人、子ども3,690人、合計 6,978人、相談件数：202件 「つどいの広場 ぼけっと」 利用者数：大人2,181人、子ども2,285人、合計 4,466人、相談件数：34件 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 子育て支援施設の市内の配置状況や地域の人口などを勘案し、平成30年度、つどいの広場1か所を新たに開設する準備を進める。	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 3か所で実施。 月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、手作り味噌等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。 「湘南スターモールつどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人5,036人、子ども5,229人、合計10,265人、相談件数：543件 「つどいの広場 きりんのおうち」 利用者数：大人8,664人、子ども9,504人、合計18,168人、相談件数：939件 「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人3,956人、子ども4,404人、合計 8,360人、相談件数：376件 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 平成29年度から「つどいの広場 ぼけっと」を開設する。	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 3か所で実施。 月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、手作り味噌等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。 「湘南スターモールつどいの広場 もこもこ」 利用者数：大人4,726人、子ども4,830人、合計 9,556人 相談件数：711件 「つどいの広場 きりんのおうち」 利用者数：大人8,305人、子ども9,318人、合計17,623人 相談件数：1,060件 「つどいの広場 どれみ」 利用者数：大人3,988人、子ども4,591人、合計 8,579人 相談件数：500件 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	施設間の連携(緊急時の対応方法等)を図る必要がある	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考(その他)			

5 (3) 5	開放保育事業 (2 (2) 3再掲)	担当課	保育課
---------	-----------------------	-----	-----

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
地域の未就園児とその保護者に保育所の園庭や施設を開放し、園児との交流や保護者同士の交流を図り、保育士による育児相談や情報提供を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕	保育所29園で概ね週1回程度、保育所を開放し、育児情報の提供や育児相談等を実施します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所32園で実施 ・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所32園で実施 ・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所30園で実施 ・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

5 (3) 6	赤ちゃん広場事業 (2 (2) 4再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所が、1歳未満の乳児を育てる親を対象に、育児不安等についての相談、子育てに係る情報の提供、親子の気軽な交流の場の提供を行います。〔対象：1歳未満の乳児及び保護者〕		公立保育所5園で、育児不安等についての相談を受けたり、子育てに係る情報の提供を実施します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	・公立保育所3園で実施 (月2回) 花水台保育園・・・実施19回、参加16組 夕陽ヶ丘保育園・・・実施23回、参加11組 若草保育園・・・実施20回、参加7組 合 計・・・実施62回、参加34組		
	検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった。	
	今後の課題	JR以南地区については、近隣に開設したつどいの広場の影響が大きいと思われるので、開催日時等について検討が必要。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	・公立保育所4園で実施 (月2回) 須賀保育園・・・実施22回、参加43組 花水台保育園・・・実施23回、参加94組 夕陽ヶ丘保育園・・・実施23回、参加81組 若草保育園・・・実施23回、参加7組 合 計・・・実施91回、参加225組		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 須賀保育園の廃園に伴い規模を縮小して実施する。	
平成27年度	・公立保育所5園で実施 (月2回) 金田保育園・・・実施23回、参加21組 須賀保育園・・・実施22回、参加56組 花水台保育園・・・実施24回、参加78組 夕陽ヶ丘保育園・・・実施23回、参加103組 若草保育園・・・実施23回、参加13組 合 計・・・実施115回、参加271組		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 金田保育園の廃園に伴い規模を縮小して実施する	
備考 (その他)			

5 (4) ①1	育てにくさを感じる親に寄り添う支援	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育て中の親が育児に対して少しでも余裕と自信を持つことができるように、育てにくさを感じている親の実態を把握しながら支援していきます。		<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診票から実態を把握します。 ・子育ての仕方や発育発達の知識を普及します。 ・幼児健診事後フォロー教室を実施します。 	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診票からの実態把握については、年度終了後に育てにくさを感じている親の割合を集計し把握予定。 1歳6か月児健診 (育てにくさ) 感じる人0.7% 時々感じる人27.7% 3歳児健診 (育てにくさ) 感じる人1.1% 時々感じる人28.4% (平成29年9月末時点) ・幼児健診事後フォロー教室については1歳6か月児健診事後フォロー教室を2教室、3歳児健診事後フォロー教室を1教室開催した。 びよびよ教室18回/年 参加者数459人 たまご教室 18回/年 参加者数467人 なかよし教室18回/年 参加者数342人 (平成29年12月末時点) 		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題	年齢が上がるごとに育てにくさを感じる人が増えているため、今後も健診・相談等を通じて支援をしていく	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診票からの実態把握については、年度終了後に育てにくさを感じている親の割合を集計し把握予定。 1歳6か月児健診 (育てにくさ) 時々感じる20.9% いつも感じる0.8% 3歳児健診 (育てにくさ) 感じない70% 時々感じる28.2% いつも感じる1.3% ・幼児健診事後フォロー教室については1歳6か月児健診事後フォロー教室を2教室、3歳児健診事後フォロー教室を1教室開催した。 びよびよ教室24回/年 参加者数581人 たまご教室 24回/年 参加者数605人 なかよし教室24回/年 参加者数509人 		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年4月から健康診査で実態把握を行うための健診票の準備ができた。 ・子育ての仕方や発育発達の知識の普及に努めた。 ・幼児健診事後フォロー教室については1歳6か月児健診事後フォロー教室を3教室(例年は2教室だが、対象者の増加に伴い教室を増やして対応した。)、3歳児健診事後フォロー教室を1教室開催。 		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (4) ①2	子育て講座	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育ての悩みがある親に対して、子どもとの関わり方や親子関係を改善していきます。		子育ての悩みがある親に対して、子どもとの関わり方や親子関係を改善していく講座を開催します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	年度内に実施予定		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	開催時期、講座内容について検討	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	子育て講座 (3回シリーズ) を1クール実施。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	通常版 (6回シリーズ) を3クール実施。 ダイジェスト版を8回実施。 トレーナー養成講座 (全3回) を1クール実施。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	トレーナーの継続的な養成	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (4) ①3	ペアレントトレーニング	担当課	こども家庭課
----------	-------------	-----	--------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
発達に障がいを持つ子どもの養育は難しく、親が子育てに自信を失いがちであることから、ペアレントトレーニングの効果が見込まれる希望者に対して、10回コースの講座を実施します。また、より多くの保護者へのダイジェスト講座、幼稚園・保育所、小・中学校等の指導者向け講座であるティーチャーズトレーニングも実施していきます。	より多くの保護者が受講できるように講座の実施方法を工夫します。また、講座修了者に対して、同じ立場から共感的に悩み等を聞くことができる「ペアレントメンター」として活動してもらえるようにその育成に取組みます。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	2グループ実施（計画策定時は10回コースだったが、内容を見直し、8回コースに変更） 参加者数：18人 ティーチャーズトレーニング 4回 ペアレントメンター養成講座 5回	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	引き続き、講座修了者からペアレントメンターを養成する。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	3グループ実施（計画策定時は10回コースだったが、内容を見直し、8回コースに変更） 参加者数：29人 ティーチャーズトレーニング 6回 ペアレントメンター養成講座 5回	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	引き続き、講座修了者からペアレントメンターを養成する。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	3グループ実施（計画策定時は10回コースだったが、内容を見直し、8回コースに変更） 参加者数：26人 ティーチャーズトレーニング 公立保育園向け：12回 学校等の教育機関向け：2回	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	ペアレントメンターの育成
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

--

5 (4) ②1	こども発達支援室の療育相談	担当課	こども家庭課
----------	---------------	-----	--------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
子どもの発達の不安に対応するために電話や面接により相談を行います。また、心理相談、言語聴覚士による相談、作業療法士による相談、小児精神科医による相談、一般相談等、子育てについての不安や悩みの相談を受付けます。	相談事業を継続します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	<p>健診や幼稚園・保育園などでは保護者の困り感を見つけると、こども発達支援室を紹介する。相談を通じ個々の子どもに適した支援方法を保護者とともに検討した。 (個別の来所相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理相談 週5回実施 延べ1451件 ・言語聴覚士による相談 月6回実施 延べ180件 ・作業療法士による相談 週4回実施 延べ662件 ・児童精神科医による相談 月1回実施 延べ25件 ・ことばの相談員による相談 週5回実施 延べ1422件 ・一般相談随時 延べ240件 電話による相談387件 <p>(グループや事業における相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経過観察グループ 全グループ 137回、実施実人数 96人 ・子育て交流ひろば 実施回数 20回、参加人数 延べ422人 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	園生活で支援を必要とする児への援助方法について職員への機関支援を継続していくことで、相談数の減少を図る。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 園訪問や巡回相談等の事業の展開と発達支援コーディネーターの育成。
平成28年度	<p>健診や幼稚園・保育園などでは保護者の困り感を見つけると、こども発達支援室を紹介する。相談を通じ個々の子どもに適した支援方法を保護者とともに検討した。 (個別の来所相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理相談 週5回実施 延べ1,398件 ・言語聴覚士による相談 月6回実施 延べ170件 ・作業療法士による相談 週4回実施 延べ754件 ・児童精神科医による相談 月1回実施 延べ32件 ・ことばの相談員による相談 週5回実施 延べ1,416件 ・一般相談随時 延べ393件 電話による相談496件 <p>(グループや事業における相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経過観察グループ 全グループ 148回、実施実人数 99人 ・子育て交流ひろば 実施回数 24回、参加人数 延べ324人 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	園生活で支援を必要とする児への援助方法について職員への機関支援を継続していくことで、相談数の減少を図る。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 園訪問や巡回相談等の事業の展開と発達支援コーディネーターの育成。
平成27年度	<p>健診や幼稚園・保育園などでは保護者の困り感を見つけると、こども発達支援室を紹介する。相談を通じ個々の子どもに適した支援方法を保護者とともに検討した。 (個別の来所相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理相談 週5回実施 延べ1,295件 ・言語聴覚士による相談 週2回実施 延べ241件 ・作業療法士による相談 週4回実施 延べ727件 ・児童精神科医による相談 月1回実施 延べ40件 ・ことばの相談員による相談 週5回実施 延べ892件 ・一般相談随時 延べ370件 電話による相談374件 <p>(グループや事業における相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経過観察グループ 全グループ 152回、実施実人数 118人 ・子育て交流ひろば 実施回数 24回、参加日数 延べ282人 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	増加する相談へ対応するためのマンパワー及び相談場所の確保。
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)	

5 (4) ③1	地域療育システム事業	担当課	こども家庭課
----------	------------	-----	--------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
障がい児、発達に偏りのある子どもの発達を支援し、身近な地域で安心して生活できるように医療・保健・教育・地域・福祉等の連携を図ります。	関係機関との連携を継続・強化します。

各年度における主な取組み等

平成29年度 (暫定版)	一人一人の子どもに対する支援方法について、医療・保健・教育・地域・福祉など様々な機関と意見交換を重ね、地域での療育支援の連携（システム化）を図った。	
	・こども発達支援室による各機関との主に電話による連携	203回 (224件)
	・保育園・幼稚園等巡回訪問による連携	66回 (90件)
	・就学移行支援として小学校への巡回訪問による連携	学校数延べ78回(校)、児童数464人(実人数)
	・幼稚園・保育所職員等の実習受け入れ	31人
	・障がい児の機能訓練に関する関係機関連絡会	年2回実施
	・障がい児推進会議	7回
	・こども教育相談センター主催の平塚市相談支援チームの情報交換会	1回
	・公立幼稚園障がい児受け入れ会議	2回
	・支援報告書提供数	307件

検証結果	A：成果があがった
今後の課題	就学後の相談者数の増加に対応するための事業の展開。
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 割愛教員他2人の専門職を増員して学校巡回等を実施し、子どもの発達を継続的に支援する。

平成28年度	一人一人の子どもに対する支援方法について、医療・保健・教育・地域・福祉など様々な機関と意見交換を重ね、地域での療育支援の連携（システム化）を図った。	
	・こども発達支援室による各機関との主に電話による連携	458回 (791件)
	・保育園・幼稚園等巡回訪問による連携	121回 (182件)
	・幼稚園・保育所職員等の実習受け入れ	36人
	・障がい児の機能訓練に関する関係機関連絡会	年2回実施
	・障がい児推進会議	12回
	・こども教育相談センター主催の平塚市相談支援チームの情報交換会	1回
	・公立幼稚園障がい児受け入れ会議	2回
	・支援報告書提供数	320件

検証結果	A：成果があがった
今後の課題	就学後の相談者数の増加に対応するための事業の展開。
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 割愛教員他2人の専門職を増員して学校巡回等を実施し、子どもの発達を継続的に支援する。

平成27年度	一人一人の子どもに対する支援方法について、医療・保健・教育・地域・福祉など様々な機関と意見交換を重ね、地域での療育支援の連携（システム化）を図りました。	
	・こども発達支援室による各機関との主に電話による連携	565回 (739件)
	・保育園・幼稚園等巡回訪問による連携	195回 (277件)
	・幼稚園・保育所職員等の実習受け入れ	45人
	・障がい児の機能訓練に関する関係機関連絡会	年2回実施
	・障がい児推進会議	12回
	・こども教育相談センター主催の平塚市相談支援チームの情報交換会	1回
	・公立幼稚園障がい児受け入れ会議	2回
	・支援報告書提供数	302件

検証結果	A：成果があがった
今後の課題	
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考 (その他)

5 (4) ③2	福祉サービス費の支給	担当課	こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
障がい児等に対する各種福祉サービス費を支給し、障がい児等の発達支援、及び保護者の介護負担軽減を図ります。		サービスについての情報提供をし、適切に支給します。	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 （暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児に対する児童福祉法及び障害者総合支援法による各種サービスの支給：受給者数668人 児童福祉法による障害児通所支援等の事業者数 児童発達支援センター…1、児童発達支援…8、放課後等デイサービス…23、保育所等訪問支援…2 障害児相談支援…17 障害者総合支援法による障がい児を対象とした障害福祉サービスに係る事業者数 居宅介護…32、短期入所…6、移動支援事業…28、日中一時支援…9、障がい児タイムケア事業…1 注 平塚市域を事業エリアとする事業所。短期入所のみ平塚市を所在とする事業所 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	増加する支給量へ対応するための支援内容の適正化	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児に対する児童福祉法及び障害者総合支援法による各種サービスの支給：受給者数645人 児童福祉法による障害児通所支援等の事業者数 児童発達支援センター…1、児童発達支援…8、放課後等デイサービス…23、保育所等訪問支援…1 障害児相談支援…16 障害者総合支援法による障がい児を対象とした障害福祉サービスに係る事業者数 居宅介護…29、短期入所…6、移動支援事業…30、日中一時支援…11、障がい児タイムケア事業…1 注 平塚市域を事業エリアとする事業所。短期入所のみ平塚市を所在とする事業所 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	増加する支給量へ対応するための支援内容の適正化	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児に対する児童福祉法及び障害者総合支援法による各種サービスの支給：受給者数545人 児童福祉法による障害児通所支援等の事業者数 児童発達支援センター…1、児童発達支援…8、放課後等デイサービス…20、保育所等訪問支援…1 障害児相談支援…17 障害者総合支援法による障がい児を対象とした障害福祉サービスに係る事業者数 居宅介護…29、短期入所…6、移動支援事業…30、日中一時支援…11、障がい児タイムケア事業…1 注 平塚市域を事業エリアとする事業所。短期入所のみ平塚市を所在とする事業所 		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	増加する支給量へ対応するための適切な支給調整	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

5 (4) ③3	障がい児保育	担当課	保育課
----------	--------	-----	-----

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
保育所において、保育を必要とし、集団保育が可能な障がい児を受入れて保育を行います。〔対象：就学前児童〕	<ul style="list-style-type: none"> 障がいを持つ乳幼児を受入れ、保育を実施します。 保育士が障がい児保育講習会や研修会へ積極的に参加していきます。

各年度における主な取組み等

平成29年度 （暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児の保育を実施 公立 21人（延べ199人） 私立 41人（延べ340人） 保育士の障害児保育講習会・研修会への積極的な参加 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児の保育を実施 公立 26人（延べ257人） 私立 39人（延べ438人） 保育士の障害児保育講習会・研修会への積極的な参加 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児の保育を実施 公立 28人（延べ267人） 私立 36人（延べ364人） 保育士の障害児保育講習会・研修会への積極的な参加 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続

備考（その他）

--

5 (4) ③4	統合保育	担当課	保育課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>保育を必要としないが、集団保育による療育を必要とする児童を対象に、健常児との関わりの中で、児童の発達促進を図るため、保育所における統合保育を行います。 なお、保育所の待機児童の解消との関連を視野に入れながら、実施について検討するものとします。 [対象：就学前児童]</p>		<p>統合保育の実施に向けた検討を継続します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<p>市内保育所では、定員を大幅に超えて児童の受入れを行っているため、さらなる入所枠を必要とする「統合保育」の実施は非常に厳しい状況となっている。今後の入所児童数の推移を見ながら事業実施方法の検討をしていきたい。 なお、平成29年度は、保育を必要とする集団保育が可能な障がい児62人（延べ657人）を受け入れ、健常児との保育を行っている。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>市内保育所では、定員を大幅に超えて児童の受入れを行っているため、さらなる入所枠を必要とする「統合保育」の実施は非常に厳しい状況となっている。今後の入所児童数の推移を見ながら事業実施方法の検討をしていきたい。 なお、平成28年度は、保育を必要とする集団保育が可能な障がい児65人（延べ695人）を受け入れ、健常児との保育を行っている。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>市内保育所では、定員を大幅に超えて児童の受入れを行っているため、さらなる入所枠を必要とする「統合保育」の実施は非常に厳しい状況となっている。今後の入所児童数の推移を見ながら事業実施方法の検討をしていきたい。 なお、平成27年度は、保育を必要とする集団保育が可能な障がい児64人（延べ631人）を受け入れ、健常児との保育を行っている。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

5 (4) ③5	体験・交流保育事業		担当課	保育課 教育総務課 教育指導課 こども家庭課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）		
乳幼児健診、育児相談及び療育相談等でフォローが必要とされる児童を対象に、幼稚園や保育所において、健常児と集団生活をともに経験することにより、児童の健やかな成長を図り、また、保護者への育児支援を行います。〔対象：就学前児童〕		<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受入れ、体験保育を実施します。 ・障がいのあるなしにかかわらず、全ての園児が幼稚園において集団で生活し、ともに活動できるように支援します。 		
各年度における主な取組み等				
平成29年度（暫定版）	<p>教育総務課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある幼児の受入枠として公立幼稚園全体で14人受入れを行った。 <p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある幼児と障がいのない幼児が、幼稚園で日常的に集団で生活し、活動を共にした。 <p>こども家庭課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養育の難しいケースについて保育園より相談を受け情報共有をし連携、関係機関に繋ぐ。 ・個人交流保育6件、体験保育2件、集団交流保育1件 			
	検証結果	A：成果があがった		
	今後の課題	障がいのある幼児の受け入れ及び保育を行うための適切な介助員等の配置。 障がいのある幼児の受け入れ施設の確保。		
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 平成31年度末にさくら、金目幼稚園が廃園となるため、支援枠の受け入れ人数が縮小される。		
平成28年度	<p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受入れ、体験保育を実施した。 ・アグネス園や県立ろう学校などの児童を受入れ、交流保育を実施した。 <p>教育総務課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある幼児の受入枠として公立幼稚園全体で7人受入れを行った。 <p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある幼児と障がいのない幼児が、幼稚園で日常的に集団で生活し、活動を共にした。 <p>こども家庭課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養育の難しいケースについて保育園より相談を受け情報共有や連携して、関係機関に繋いだ。 ・個人交流保育1件、体験保育3件、集団交流保育2件 			
	検証結果	A：成果があがった		
	今後の課題	障がいのある幼児の受け入れ及び保育を行うための適切な介助員等の配置。		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受入れ、体験保育を実施した。 ・アグネス園や県立ろう学校などの児童を受入れ、交流保育を実施した。 ・障がいのある幼児の受入枠として公立幼稚園全体で11人受入れを行った。 ・障がいのある幼児と障がいのない幼児が、幼稚園で日常的に集団で生活し、活動を共にした。 ・養育の難しいケースについて保育園より相談を受け情報共有や連携して、関係機関に繋いだ。 ・個人交流保育8件、体験保育3件、集団交流保育3件 			
	検証結果	A：成果があがった		
	今後の課題	障がいのある幼児の受け入れ及び保育を行うための適切な介助員等の配置。		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
備考（その他）				

5 (4) ③6	支援教育等の推進・充実事業	担当課	子ども教育相談センター
----------	---------------	-----	-------------

事業の概要（計画掲載内容）	今後の取組み（計画掲載内容）
<p>特別な配慮を要する児童・生徒へよりよい支援を行うために、必要に応じて小・中学校に相談支援チームを派遣して校内支援体制の整備を推進するとともに、各種研究会・研修会を実施します。〔対象：小・中学校〕</p>	<p>支援教育の理解や校内支援体制の充実を図るために、相談支援チームの派遣や、内容を精査した研究会・研修会等の開催に努めます。</p>

各年度における主な取組み等

平成29年度（暫定版）	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級訪問研究会・・・ 3回実施、参加者延べ250人 ・通級指導教室訪問研究会・・・ 4回実施、参加者延べ129人 ・特別支援教育研修会・・・ 7回実施、参加者延べ339人 ・教育相談・支援教育研修会・・・ 6回実施、参加者延べ492人 ・相談支援チームの派遣・・・ 31回実施、対象児童生徒数延べ49人 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	<p>研修会や研究会の内容を精査し、実施の仕方を工夫して開催している。今後も、校種間、関係機関等と連携して校内支援体制を構築していくことが必要である。</p>
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級訪問研究会・・・ 4回実施、参加者延べ83人 ・通級指導教室訪問研究会・・・ 4回実施、参加者延べ106人 ・特別支援教育研修会・・・ 5回実施、参加者延べ395人 ・教育相談・支援教育研修会・・・ 7回実施、参加者延べ523人 ・相談支援チームの派遣・・・ 44回実施、対象児童生徒数延べ82人 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	<p>よりよい支援につながるような研修会の実施の仕方の工夫及びきめ細かな対応が行えるような校種間、関係機関等と連携した校内支援体制を構築していくことが必要。</p>
	今後の事業展開とその判断理由	<p>② 拡大して継続 校種間の連携により、切れ目のない校内支援体制を構築していく必要があるため。</p>
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級訪問研究会・・・ 4回実施、参加者延べ 92人 ・通級指導教室訪問研究会・・・ 4回実施、参加者延べ116人 ・特別支援教育研修会・・・ 10回実施、参加者延べ716人 ・相談支援チームの派遣・・・ 44回実施、対象児童生徒数延べ70人 	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	<p>相談支援チームの派遣により、各学校における校内支援体制が定着されてきています。今後は、関係機関等とさらなる連携を進め、各学校においてよりきめ細かな対応が行えるよう、支援体制が充実するような働きかけをしていくことが必要です。</p>
	今後の事業展開とその判断理由	<p>⑦ 他事業と統合 次期総合計画策定の中で、本事業が相談支援チームによるケース検討、研修会・研究会の開催による校内支援体制の充実していくものなので、他事業の研修・研究会の部分を統合して研修・研究推進事業として位置付け、支援体制の充実を図る。</p>

備考（その他）	
----------------	--

5 (5) ①1	ハイリスク者への支援の充実	担当課	健康課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
<p>児童虐待防止のため、早期から必要な支援を提供できるように関係機関と連携していきます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・周産期におけるハイリスク者への対応を行います。 ・家庭訪問・健診等において機会を捉えた対応を行います。 	
各年度における主な取組み等			
平成29年度（暫定版）	<p>・平成29年度よりネウボラルーム「はぐくみ」を開設し、母子健康手帳の交付の窓口を保健センターへ1本化した。そのため、母子健康手帳交付時全妊婦と保健師、助産師、保育士が面接を実施し、生活状況などを聞き取り妊娠、出産への不安や悩みの相談に応じ、産後に向けて切れ目のない支援ができるよう取り組んでいる。</p> <p>・生活状況、育児状況、金銭状況で気になる方については、関係機関とも連携し早期から支援につなぐ取り組みを始めている。</p> <p>・周産期リスクアセスメントシートを活用し、関係機関（医療機関、行政機関等）と連携を取り早期からの支援を実施できた。</p> <p>支援実数73件 支援会議3回（リスクシート69件）</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	妊娠中から産後まで切れ目のない支援を実施するため、今後も継続していく	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>・周産期リスクアセスメントシートを活用し、関係機関（医療機関、行政機関等）と連携を取り早期からの支援を実施できた。</p> <p>支援実数73件 支援会議3回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	平成29年4月から子育て世代包括支援センター「ひらつかネウボラルーム はぐくみ」ができることにより、早期に把握し、関係機関と連携を取りながら支援していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>・周産期リスクアセスメントシートを活用し、関係機関（医療機関、行政機関等）と連携を取り早期からの支援を実施できた。</p> <p>支援実数75件 支援会議3回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

5 (5) ②1	児童虐待防止ネットワークの充実 (1 (2) 1再掲)	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>児童虐待は、こども総合相談担当を中心に相談を受け、児童の処遇対応をしていますが、必要に応じて援助活動チームを編成し、関係機関と連携を取り対応します。</p>		<p>平塚市児童虐待防止等ネットワークの構成機関と連携し、子育ての支援、虐待等の早期発見や未然防止及び対策を進めます。 また、定期的の実務者会議を開催するとともに、個別ケース検討会議を随時開催します。</p>	
各年度における主な取組み等			
平成29年度 (暫定版)	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議3回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議2回、個別ケース検討会議55回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成28年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議85回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成27年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議61回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			